

<社会保育科目>

## 日名	く仕去休月代日ン	
公果衛生学 2 医療概論 3 食生活論 4 子どもの権利 5 人権と法 6 家族社会学 7 社会福祉概論 8 社会保育論 9 保育システム論 10 保育経営論 11 社会保育論議署 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職概論(財權間) 16 子ども家庭福祉 I 17 子ども家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的養護 20 保育各論 20 保育名論 20 保育名論 21 対力の養養 23 生産学習論 24 発達心理学 25 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 28 子どもの良健 I 28 子どもの良健 I 33 保育内容・環境 I 33 保育内容・環境 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容	科 目 名	頁
医療機論 3 食生活論 4 子どもの権利 5 人権と法 6 家族社会学 7 社会福祉概論 8 社会保育論 9 保育2人元益論 10 保育経営論 11 社会保育論演習 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 15 教際機論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子とも家庭福祉 I 17 子とも家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的簽證 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生産学副論 24 教達心理学 25 子ども教育心理学 26 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 31 保育内容・環境 33 保育内容・環境 33 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 38	感染微生物学	1
食生活論 4 子どもの権利 5 人権と法 6 家族社会学 7 社会福祉概論 8 社会保育論 9 保育システム論 10 保育経営論 11 社会保育論演習 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 14 教育原理 15 教職職(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子とも家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的簽證 20 保育音論 21 幼児教育史 22 教育法概論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 学どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 子どもの食と栄養 29 家庭支援論 30 保育内容・電業 33 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 I 39 <t< td=""><td>公衆衛生学</td><td>2</td></t<>	公衆衛生学	2
子どもの権利 5 人権と法 6 家族社会学 7 社会福祉概論 8 社会保育論 9 保育経営論 11 社会保育論演習 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職概論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子ども家庭福祉 I 17 子とも家庭福祉 I 19 社会的簽議 20 保育音論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 26 子どもの保健 I 27 子どもの良と栄養 29 家庭支援論 30 保育内容・農園 31 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・健康 I 36 保育内容・健康 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I 40	医療概論	3
人権と法 6 家族社会学 7 社会福祉機論 8 社会保育論 9 保育经営論 10 保育経営論 11 社会保育論演習 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職概論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子ども家庭福祉 I 18 相談財 19 社会的難議 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法理論 24 発達計畫 発達の保護 25 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 30 保育内容・環境 I 34 保育内容・環境 I 35 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・環境 I 39 保育内容・環境 I 39 保育内容・環境 I 39 保育内容・環境 I 39 保育内容・環境 II 39 <t< td=""><td>食生活論</td><td>4</td></t<>	食生活論	4
家族社会学 7 社会福祉概論 8 社会保育論 9 保育システム論 10 保育を設備 11 社会保育論演習 12 保管原理 14 教育原理 15 教職概論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子とも家庭福祉 I 18 相談財助 19 社会的護機 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 25 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 家庭支援論 29 家庭支援論 30 保育指導論 31 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・環境 I 37 保育内容・環境 I 39 保育内容・環境 I 39 保育内容・環境 I 39 保育内容・環境 II 39 保育内容・環境 II 39 <td>子どもの権利</td> <td>5</td>	子どもの権利	5
社会保育論 9 保育システム論 10 保育経営論 11 社会保育論演習 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職機論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子ども家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的護護 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法機論 23 生選学論 24 発達心理学 25 子ども教育心理学 26 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 30 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I 39 保育内容・養現 I 40	人権と法	6
社会保育論 9 保育システム論 10 保育経営論 11 社会保育論演習 12 保健医療補礼連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職概論(幼稚園) 16 子とも家庭福祉 I 17 子とも家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的養護 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法根論 23 生涯学習論 24 発達・選挙書論 24 発達・25 子とも教育心理学 子ともの保健 I 27 子ともの保健 I 27 子ともの保健 I 27 子ともの保健 I 28 子ともの保健 I 27 子ともの保健 I 30 保育内容・言葉 33 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I <	家族社会学	7
保育経営論 11 社会保育論演習 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職概論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子ども家庭福祉 I 17 子ども家庭福祉 I 18 相談援助 19 在会育書論 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 21 幼児教育史 22 教育法概論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 25 子ども教育心理学 25 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 27 子どもの食ど栄養 29 家庭支援論 30 保育指導論 31 保育内容総論 31 保育内容総論 32 保育内容・言葉 33 保育内容・言葉 33 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・環境 I 37 保育内容・環境 I 38 保育内容・環境 I 38 保育内容・環境 I 39 保育内容・環境 I 39	社会福祉概論	8
保育経営論 11 社会保育論演習 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職概論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子とも家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的養護 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 25 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 27 子ともの保健 I 27 子ともの食と栄養 29 家庭支援論 30 保育指導論 31 保育内容・3葉 33 保育内容・3葉 33 保育内容・3環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 I 39 保育内容・表現 I 40	社会保育論	9
社会保育論演習 12 保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職概論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子ども家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的養護 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 25 子ども教育心理学 26 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 27 子どもの食と栄養 29 家庭支援論 30 保育内容・決議 31 保育内容・急環 33 保育内容・場境 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I 39 保育内容・健康 I 39 保育内容・規則 I 39 保育内容・表現 I 40	保育システム論	10
保健医療福祉連携論 13 保育原理 14 教育原理 15 教職概論(幼稚園) 16 子ども家庭福祉 I 17 子ども家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的養護 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 25 子ども教育心理学 26 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 29 家庭支援論 30 保育指導論 31 保育内容・言葉 33 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・健康 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 I 39 保育内容・表現 I 40	保育経営論	11
保育原理14教育原理15教職概論(幼稚園)16子ども家庭福祉 I17子ども家庭福祉 I18相談援助19社会的養護20保育者論21幼児教育史22教育法概論23生涯学習論24発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの保健 I27子どもの保健 I28子どもの良と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育內容・言葉33保育內容・言葉33保育內容・人間関係 I34保育內容・環境 I36保育內容・環境 I36保育內容・環境 I36保育內容・健康 I38保育內容・健康 I39保育內容・養現 I39保育內容・養現 I39保育內容・養現 I39保育內容・養現 I39保育內容・養現 I39保育內容・養現 I39	社会保育論演習	12
教育原理15教職概論(幼稚園)16子ども家庭福祉 I17子ども家庭福祉 I18相談援助19社会的養護20保育者論21幼児教育史22教育法概論23生涯学習論24発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの保健 I28子どもの良と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・言葉33保育内容・人間関係 I34保育內容・人間関係 I35保育內容・環境 I36保育內容・環境 I36保育內容・環境 I37保育內容・健康 I38保育內容・健康 I39保育內容・健康 I39保育內容・養現 I39保育內容・養現 I39保育內容・養現 I39保育內容・養現 I39	保健医療福祉連携論	13
教職概論(幼稚園)16子ども家庭福祉 I17子ども家庭福祉 I18相談援助19社会的養護20保育者論21幼児教育史22教育法概論23生涯学習論24発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの保健 I28子どもの良と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・言葉33保育内容・「環境 I34保育內容・環境 I36保育內容・環境 I36保育內容・環境 I37保育內容・健康 I38保育內容・健康 I39保育內容・提取 I39保育內容・表現 I40	保育原理	14
子ども家庭福祉 I 18 相談援助 19 社会的養護 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 25 子ども教育心理学 26 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 30 保育増齢 31 保育内容総論 32 保育内容・ 人間関係 I 34 保育内容・ 人間関係 I 35 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・提康 I 39 保育内容・表現 I 40	教育原理	15
子ども家庭福祉Ⅱ18相談援助19社会的養護20保育者論21幼児教育史22教育法概論23生涯学習論24発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健Ⅱ27子どもの保健Ⅱ28子どもの食と栄養29家庭支援論30保育博導論31保育内容総論32保育内容・人間関係Ⅱ34保育内容・人間関係Ⅱ35保育内容・環境Ⅱ36保育内容・環境Ⅱ37保育内容・健康Ⅱ38保育内容・健康Ⅱ39保育内容・表現Ⅰ40	教職概論(幼稚園)	16
相談援助 19 社会的養護 20 保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 25 子ども教育心理学 26 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 28 子どもの保健 I 30 保育指導論 31 保育内容総論 32 保育内容・言葉 33 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 36 保育内容・健康 I 39 保育内容・表現 I 40	子ども家庭福祉 I	17
社会的養護20保育者論21幼児教育史22教育法概論23生涯学習論24発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの保健 I28子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育內容・言葉33保育內容・人間関係 I34保育內容・環境 I36保育內容・健康 I37保育內容・健康 I38保育內容・健康 I39保育內容・表現 I40	子ども家庭福祉 Ⅱ	18
保育者論 21 幼児教育史 22 教育法概論 23 生涯学習論 24 発達心理学 25 子ども教育心理学 26 子どもの保健 I 27 子どもの保健 I 28 子どもの食と栄養 29 家庭支援論 30 保育指導論 31 保育内容総論 32 保育内容・言葉 33 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・環境 I 36 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 I 39 保育内容・表現 I 40	相談援助	19
幼児教育史22教育法概論23生涯学習論24発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの保健 II28子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容・言葉32保育内容・人間関係 I34保育内容・人間関係 I35保育内容・環境 I36保育内容・健康 I37保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	社会的養護	20
教育法概論23生涯学習論24発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・人間関係 I34保育内容・環境 I36保育内容・環境 I37保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	保育者論	21
生涯学習論24発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの保健 II28子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・133保育内容・人間関係 I34保育内容・環境 I36保育内容・環境 I37保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	幼児教育史	22
発達心理学25子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの保健 I28子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・言葉33保育内容・人間関係 I34保育内容・環境 I35保育内容・環境 I36保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	教育法概論	23
子ども教育心理学26子どもの保健 I27子どもの保健 II28子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・言葉33保育内容・人間関係 I34保育内容・環境 I35保育内容・環境 I37保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	生涯学習論	24
子どもの保健 I27子どもの保健 I28子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・言葉33保育内容・人間関係 I34保育内容・環境 I36保育内容・環境 I36保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	発達心理学	25
子どもの保健Ⅱ28子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・言葉33保育内容・人間関係 I34保育内容・人間関係 I35保育内容・環境 I36保育内容・環境 I37保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	子ども教育心理学	26
子どもの食と栄養29家庭支援論30保育指導論31保育内容総論32保育内容・言葉33保育内容・人間関係 I34保育内容・人間関係 I35保育内容・環境 I36保育内容・環境 I37保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	子どもの保健 I	27
家庭支援論 30 保育指導論 31 保育内容総論 32 保育内容・言葉 33 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・場境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・建康 I 39 保育内容・表現 I 40	子どもの保健Ⅱ	28
保育指導論31保育内容総論32保育内容・言葉33保育内容・人間関係 I34保育内容・規道 I35保育内容・環境 I36保育内容・健康 I38保育内容・健康 I39保育内容・表現 I40	子どもの食と栄養	29
保育内容総論 32 保育内容・言葉 33 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・人間関係 I 35 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・表現 I 40	家庭支援論	30
保育内容・言葉 33 保育内容・人間関係 I 34 保育内容・人間関係 II 35 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 II 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 II 39 保育内容・表現 I 40	保育指導論	31
保育内容・人間関係 I 34 保育内容・人間関係 II 35 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 II 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・建康 II 39 保育内容・表現 I 40	保育内容総論	32
保育内容・人間関係 II 35 保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 II 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 II 39 保育内容・表現 I 40	保育内容・言葉	33
保育内容・環境 I 36 保育内容・環境 I 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 II 39 保育内容・表現 I 40	保育内容・人間関係 I	34
保育内容・環境 II 37 保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 II 39 保育内容・表現 I 40	保育内容・人間関係Ⅱ	35
保育内容・健康 I 38 保育内容・健康 II 39 保育内容・表現 I 40	保育内容・環境 I	36
保育内容・健康 II 39 保育内容・表現 I 40	保育内容・環境Ⅱ	37
保育内容・表現 I 40	保育内容・健康 I	38
	保育内容・健康Ⅱ	39
保育内容・表現 II(音楽) 41	保育内容・表現 I	40
	保育内容・表現Ⅱ (音楽)	41

<社会保育科目>

科 目 名	頁
保育内容・表現 Ⅱ (造形)	42
保育内容・表現Ⅱ(言語)	43
乳児保育I	44
乳児保育Ⅱ	45
就学児保育 A (思春期の支援)	46
就学児保育 B(学童保育)	47
病児・病後児保育	48
社会的養護内容	49
保育相談支援	50
子ども理解と教育相談	51
児童文化演習	52
自然保育実践演習	53
国語	54
生活	55
音楽Ⅰ	56
音楽Ⅱ(ピアノ)	57
音楽Ⅱ(ギター)	58
図画工作 I	59
図画工作Ⅱ	60
体育	61
児童文化	62
障がい児保育	63
障がい児福祉	64
障害児支援の基礎理論	65
知的障害者の心理・生理・病理	66
肢体不自由者の心理・生理・病理	67
病弱者の心理・生理・病理	68
知的障害者教育課程論	69
知的障害者教育方法論	70
肢体不自由者教育課程論	71
肢体不自由者教育方法論	72
病弱者教育論	73
視覚障害者教育総論	74
聴覚障害者教育総論	75
重複障害・発達障害の評価	76
重複障害・発達障害の教育	77
障害児教育実習事前事後指導	78
障害児教育実習	79
保育指導論演習	80
家庭支援実践演習	81
地域との協働 I	82

<社会保育科目>

科目名	頁
地域との協働Ⅱ	83
地域との協働Ⅲ	84
教育実習	85
教育実習指導	86
保育実習 I	87
保育実習指導I	88
保育実習Ⅱ	89
保育実習指導Ⅱ	90
保育実習Ⅲ	91
保育実習指導Ⅲ	92
卒業研究	93
教職・保育実践演習	94

科	E]	名	英語 I							
担		- 女 員		Martin Mea	dows						
学	年	配	当	1年 単位数 1単位 開講形態 演習							
開	講	時	期	前期	必修選択	必修	資格要件				
学	習 到	達目	標	skills and, aware of th for pleasur	at the same benefite. An additional to studen	ame time, provide an enjo s of extensive reading in ditional aim of this cours	yable reading n English and e is to promo	speaking and critical thinking gexperience that makes students further motivates them to read te self-directed learning habits for their own second-language			
授	業 <i>0</i>	D 概	要	used to fos learning by motives. By classmates, Additional further fac	ter speaki	ng, summarising and basic ing with a crime story tha the various roles of the s take responsibility for reading tasks conducted ocabulary development and	discussion s at requires the speaking circ for their ow outside the reading flue	es and group work activities are skills. Students engage in active mem to look for clues and analyse eles and collaborating with their n and their group's progress. classroom and evaluated online ency. Students are able to choose towards a predetermined goal.			
授	業 0	D 計	国 国	2 Orie 3 Intr 4 Chap 5 Chap 6 Chap 7 Chap 8 Chap 9 Chap 10 Chap 11 Chap 12 Chap 13 Chap 14 Chap	oduction ter 1: The ter 2: The ter 2: The ter 3: The ter 3: The ter 4: The ter 4: The ter 5: Fan ter 5: Fan ter 6: The ter 6: The	nd introduction to the textbook & reading e Scene of the Crime ree Interviews ree Interviews (cont'd) e Hospital e Hospital (cont'd) e Suspect e Suspect (cont'd) mily Secrets mily Secrets (cont'd)	g circles				
	業の生に			co-operate Students a important s tasks will school and skills and Class parts	and continue also restory and conduct home via will be e	ribute to these activitic equired to maintain a "character details and key ded online through the use the Internet. Students as expected to complete some	es through a detective's vocabulary i of an e-lear re assumed to conline acti	s. All students are expected to active classroom participation. notebook" in which they record items. Additional activities and ming system accessible from both a have basic computer and typing vities outside of class time.			
参	購入購入	必 須 §	書	Whodunit (AABAX Ltd (& Marcos Benevides) 896942339)					

科			目		名	英語 I					
						小古間 甚					
学		年		配	当	1年	単 位 数	1 単位		開講形態	演習
開		講		時	期	前期	必修選択	必修		資格要件	
学	翟	至	則這	崔目	標	礎的な文法	を学び、リ	ーディング、リス	ニング、ラ	ライティンク	ことがある。英語 I では、英語の基 でのための基礎作りと応用力の養成 詞、関係詞、比較、仮定法。
授	1017	業	တ	概	要	時間配布し 文和訳を行	、説明と個 い、英語力	別指導を行う。中	間テストで	で弱点チェッ	周題、誤文訂正問題のプリントを毎,クをする。英文読解については英解力を高めるために、E ラーニング
						1 クラ	ス分けテス	. }			
						2 主語	子と動詞 疑	問文・否定文			
						3 主語	と動詞 (進	行形、能動態と受	動態)		
						4 分詞	J				
						5 動名	詞				
						6 不定	詞				
						7 関係	代名詞				
						8 関係	副詞				
授	1	集	の	計	画	9 比較	5				
						10 仮定	法1				
						11 仮定	法 2				
						12 文法	総合演習	(TOEIC、英検など)			
						13 英文	読解演習				
						14 総合	問題演習 1				
						15 総合	·問題演習 2				
授	業	ξ σ.	D 冒	留意	点			遅刻は 5 分以内ま 理解度によってス			l 回分の欠席とする。教材はプリン することがある。
学評		E (3		すす	る価			3よび前期試験(45 基準を 30000 ワー		ーニング読	解トレーニングの結果(30 点)。読
						-P11 > 1 +	町七十ヶ				
教 (必 須		プリントを	間がする。				
参 (考し任	£ 意	書)	高校時代に	 使った文法	の教科書・参考書、	、辞書(中	学生用が望	ましい)を利用してほしい。

科	E	1	名	英語Ⅱ								
担	当 教	女 員	名	Martin Mea	dows							
学	年	配	当	2年	単 位 数	1 単位	開講形態	演習				
開	講	時	期	前期	必修選択	必修	資格要件					
学	習到	達目	標	both intens correct wri structures composition	tive and ex ting pract logical ns. Extens	tensive writing activities. cices and conventions throu coherence, and pattern	. Intensive of the state of the	skills through a combination of writing activities aim to develop a grammar, sentence and paragraph gained through reading model fluency and creativeness through personal interest.				
授	業 の)概	要	using text as well as i writings ar for self-e undertaken	book lesson class. On the short control of the shor	ons and individual practic ver the semester, students ompositions after reading m . At the same time, regu e fluency and creativity.	e are expec will create: odel example lar and sho Students wi	ttivities. Structured activities ted to be completed as homework a portfolio of original paragraph es and extracting patterns useful ort freestyle writings will be all be required to keep a weekly bond to their classmates' blogs.				
授	業 <i>0</i> .) 計	画	2 Mode 3 Mode 4 Mode 5 Mode 6 Mode 7 Mode 8 Mode 9 Mode 10 Mode 11 Mode 12 Mode 13 Mode 14 Mode	1 paragrapa 1 para							
授	業の	留意	点	and origina	al assignm	=	er forms of	s are expected to submit regular plagiarism will not be accepted. and effort is apparent.				
学評	生に	対す	る価			ournal & collaborative wr ensive reading activities		ts), writing portfolio (50pts),				
教(^科 購入		書)									
参 (購入		書)									

科	[]	名	英語Ⅱ						
担	当者	数 員	名	小古間 甚						
学	年	配	当	2年	単位数	1 単位		開講	形態	演習
開	講	時	期	前期	必修選択	必修		資格	要件	
学	習 到	達目	標		語を日本語					できる力を身に付ける。語彙力を強 同時に高める。英語を学ぶことの
授	業(の概	要	や読解問題	を解きなが	ら、基礎的な	な英語力を磨く	。英語	Ⅱの最	(準2級、2級レベル)の文法問題 後に和文英訳(翻訳)をする。彙 化トレーニングを行う。
授	業(D 計	画	2 3 4 5 6 7 8 9 10 総総中英英 11 13 14 14 15 14	詞詞詞記法法グ問問ま和和12よ去フ演演め(ののでは)のでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、はいいのでは、	ーディング (文法) (読解) (演習) 1				
授	業 の	留意	点	授業中の居る。	眠り厳禁。	遅刻・欠席に	ましないこと。	遅刻 3 [回(15	分程度)につき1回分の欠席とす
学評	生に	対す	る価							-ングによる読解トレーニング結果 000 ワードをクリアすること。
教(^抖 必 須		プリントを	配布する。					
参 (考 任 意	書()	高校時代に	—— 使った教科	書・参考書、	辞書を持参す	 ること。		

科	E		名	英語Ⅲ							
	当 教			Martin Mea	dow・小古間	ましゅ ましゅ	古牧 徳生				
学	年	配	当	3年	単 位 数	1 単位		ı	開講用	杉態	演習
開	講	時	期	前期	必修選択	選択		j	資格要	要 件	
学	習 到	達目	標	of converse professor. Mitch Albo change his who, in the	ations in Each Tueso m, a forme own life fo future, wi	the last o day conver r student r the bett ll have to	days in the sation is s of Morrie' er. This bo	e life o shown as 's, deso ok will with peop	of Morr aless cribes be of i	rie Son in son in how inter aring	MORRIE, which documents a series chwartz, a university sociology in living from a dying man. Author Morrie's lessons helped him to est for Health & Welfare students the end of their lives. Morrie's the end.
授	業 σ.) 概	要	selected chopinions/r	napters to eactions t lvanced rea pon to forn	their class o each of ding and l mand expre	ssmates. St Morrie's " listening s	udents lessons kills, a	are exp s". The as well	pecte e rea l as a	or presenting a short summary of ed to formulate and express their ding material requires students analytical skills. Students will h discussion, oral presentation,
授	業 σ.) 計	画	 The Movi Movi 	First Tues Third Tues Fourth Tues Sixth Tues Eighth Tues Audiovisua Fourteenth e - Tuesda erword. Cla	The Audiovon, The Claday, The sday, The esday, The esday, The esday, The laday, The laday, The laday, The laday, The laday, The laday, In Tuesday, lays with Mays with	visual lassroom, T Second Tue Audiovisua e Fifth Tue Professor e Ninth Tue Eleventh T The Twelf Graduatio Morrie (1) Morrie (2)	esday 1 (Pt. 2 esday (Pt. 2), esday uesday th Tues	The S	e Pro Seven The T	
授	業の	留 意	点	Students an	re expected that they	can contri	ibute to cl	assroom	discu	ıssio	ngs independently and in a timely ns. Students should participate ns, and seeking help when needed.
学評	生に	対す	る価	Class part: (30pts)	icipation	(40pts), C	Chapter pres	sentatio	ons/as	signr	ments (30pts), Final book report
教(^科 購入		書	TUESDAYS W	ITH MORRIE	(Doubled	lay, 1997) 8	& a var	iety o	of sup	pplementary materials.
参 (購入		書)								

科		E		名	英語IV								
担	뇔	当 教	て 員	名	Martin Mea	dows·小古	間。甚一						
学		年	配	当	4年	単 位 数	1 単位		開講形態	演習			
開		講	時	期	前期	前期 必修選択 選択 資格要件							
学	習	到	達目	標	courses and selected ma	d prepares ajors. Str	students for	using English on the deve	n in academi	e of skills developed in previous c contexts relevant to their own academic writing skills such as			
授	当	ξ σ.	Students will prepare written descriptions of courses they have taken for inclusion in University pamphlet. Course reading materials will be drawn from authentic academic source and students will be required to read independently outside of classroom time. By cour end, students will prepare an English abstract of an academic paper they have written fone of their specialized courses.										
授	為	σ .) 計	画	2 Libr 3 Unde 4 Unde 5 Read 6 Read 7 List 8 List 9 List 10 Read 11 Para 12 Para 13 Edit 14 Pres	ary researd rstanding rstanding acaderd ing acaderd ening: TEI ening: TEI ing acaderd phrasing: phrasing: ing your ventations	O Talks (1) O Talks (2) O Talks (3) Dic writing: some re-writing in the Avoiding plage.	what you want etting the insetting the insetting the insetting a specific skimming articles.	nformation ynformation ynforma	rou need (2) exicon ssential information. ents. synonyms and restating.			
授	***	きの	留 意	点		lity for	their own le			to class activities, and take			
学評	生	: (=	対す	る価									
教(購	科	 必 須	書)			riting (Oxfor			les & academic papers, etc will			
参 (購	孝	i 任 意	書)									

科	E	1	名	コミュニケ	ーション英										
担	当 教	女 員	名	Martin Meadows											
学	年	配	当	1年	単 位 数	1 単位	開講形態	演習							
開	講	時	期	後期	必修選択	必修	資格要件	幼稚園:必修							
学	習到	達目	標	English-la learn about aspects of	This course focuses primarily on developing communication skills through interaction with English-language learners abroad in an online, virtual exchange program. Students will learn about everyday activities and concerns of students from other cultures and, by sharing aspects of their own daily lives with foreign students, have opportunity to reflect on and re-evaluate their own cultural values and assumptions.										
授	業 の)概	要	skills by online for read and lan underst students f culture. In "model" spe provide oppall studen	posting te ums. At the isten to po anding of rom a diff n addition eches and i portunitients will be	xtual and audio accounts a same time, listening and osts made by their exchangand appreciation for the erent culture, they will to the virtual exchange, so receive feedback from the soft of spontaneous and unreless for spontaneous and unreless.	of their da: reading ski ge counterpa daily concer develop a gr tudents will ir classmates nearsed speed	rill develop writing and speaking ily lives and concerns in shared alls will be developed as students rts. Students will not only gain rns of English-language-learning reater appreciation of their own rehearse and construct original, s. Classroom activities will also thats. By the end of this course, reded speech, and provide verbal							
授	業 の) 計	画	2 Addi 3 Intr 4 Virt 5 Virt 6 Virt 7 Virt 8 Virt 9 Virt 10 Virt 11 Virt 12 Univ 13 Univ 14 Part	ng resource coduction to cual Excharge cual		cions cions Lives Lives as								
授	業の	留意	点	Students will be expected to try to use English for the majority of communication conducted in the classroom. With a smaller class, participation in class activities is particularly important and students are strongly encouraged to both speak out and voice their opinions when able, and to ask for information and assistance when necessary. Students should take responsibility for their own learning and participate actively in pair and group activities. Students are also expected to learn how to use some computer-based applications required for the online exchange.											
学評	生に	対す		Class participation - forum posts and replies (40 pts), Term-end oral test (40 pts), Extensive reading (20 pts)											
教 (購入	必須		Online materials in the Moodle-based course.											
参 (購入		書)												

科	E		名	コミュニケ	ーション英	語 I			
担	当 教	」 員	名	小古間 甚					
学	年	配	当	1年	単 位 数	1 単位		開講形態	演習
開	講	時	期	後期	必修選択	必修		資格要件	幼稚園:必修
学	習到	達目	標						フをつける。英語によるコミュニケ る力を身に付ける。
授	業 σ.)概	要	してもらう。	。最終的に	. 200 ワード種	呈度を英文を書	いてもらい、	放底的に行う。毎回英文を書き提出 それをもとにして英語による質疑 こよる英語読解力トレーニングを行
授	業 σ.) 計	画	2 3 4 5 6 7 8 9 10 版 版 自 英語 在 動 詞 定 名 較 係 係 定 定 由 語 14 14 14 15 16 16 17 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18 18	と形態の詞詞の詞詞法法テに動、用のの用をををを一よ詞過法用用法使使使マるのなった質	-英文1 -英文2 -英文1 -英文2	TYPE TO THE TOTAL		
授	業 の	留意	点						K席とする。授業で説明したことを つかり復習すること。
学評	生に	対す	る価	基礎文法確解トレーニ			提出(20 点)、	英語質疑応	答テスト (30 点)、E ラーニング読
•••	^科 購 入	↓ 必 須		プリントを	配布する。				
参 (購入	; 任 意	_	辞書(中学	生用が望ま	しい)、参考	書、英語Iで配	布した資料等	等を持参すること。

14		3	Þ	73 -1-		зт п									
科担		目 —— 教 員	名		コミュニケーション英語 II Martin Meadows										
学	年		当	2年 単位数 1単位 開講形態 演習											
開	講	時	 期		必修選択				幼稚園:必修						
	習到		1標	This course developmen English-lan about the participat them to bot	e builds o t of commu nguage lea he values ing countr h explore	nication skills a rners abroad in a and concerns of ies will, if possi	change concand strate an online, students ible, engag	ducted in egies. Agai virtual ex from othe	Communication 1 and extends the in, students will interact with schange program to further learner cultures. Students from all laborative project that requires now an understanding for opinions						
授	業(の 概	,要	skills by p forums. At and listen understand a different A collabora students th own culture	the same to to posts ing of and a culture, ative projust requires and invested and	ctual and audio actime, listening armade by their excappreciation for they will developect will be under as students to prepare	ccounts of nd reading change count the values o a greater rtaken in a pare simple	their valu skills wi nterparts. of English- appreciati small grou e research cheir excha	eill develop writing and speaking es and opinions in shared online all be developed as students read Students will not only gain an -language-learning students from ion of their own cultural values. ps of both Japanese and foreign inquiries about aspects of their ange counterparts. A final group						
授	業(ን 計	・ 画			nd Introduction									
授	業の	留意	京点	in the class important a when able, responsibi	ssroom. Wit and studen and to ask lity for th	th a smaller class ts are strongly en x for information	s, particip ncouraged and assist g, for engag	pation in c to both spe tance when	ority of communication conducted class activities is particularly eak out and voice their opinions necessary. Students should take their exchange counterparts, and						
学評	生に	対す	トる 価	Class parti presentation		(30pts), Group-ba	ased resea	rch inquir	y/presentation (30pts) Term-end						
教 (購入	^料 必須	書()	Various pr	inted and	online materials.									
参 (購入	考 任意	書()												

科		目		名	コミュニケ	ーション英	語Ⅱ			
担	当	教	員	名	小古間 甚	_				
学	年		配	当	2年	単 位 数	1 単位		開講形態	演習
開	講	Ī	時	期	後期	必修選択	必修		資格要件	幼稚園:必修
学	習至	到证	達目	標				作り、英語でき 伝える力をさり		·身に付ける。仮定法や過去完了形 る。
授	業	<u>ග</u>	概	要						英文を2つ書き、それを使って英語 る読解トレーニングを行う。
授	業	Ø	計	画	2 1週間 3 1週間 4 1週間 5 6 6 2 8 友自自自自自自自自自自自自自自自自自自自自自自由自由自由自由自由自由自由自由自	課題4 原	を書く1 を書く2 を書く3 と ままる1 を告する2 は ままでで で で で で で で で で で で で で で で で で で	成		
授	業 <i>0</i>	の冒	留意	点		ず持参する				国分とする。辞書(中学生用が望ま に的な英文法の知識を理解するよう
学評	生に	こゞ	対す	る価						E ラーニング読解トレーニング結果 上をクリアすること。
	購力				プリントをi	配布する。				
_	購力	考入化		_			だ書、教科書、 き参すること。	辞書(中学生)	用が望ましい	ヽ)を持参すること。英語Ⅰ・Ⅱで

科目	1名			コミュニケーション英語Ⅲ								
担	当 教	数 員	名	Martin Mead	.ows							
学	年	配	当	3年	単位数	1 単位	F	開講形態	演習			
開	講	時	期	後期	必修選択	選択	į	資格要件				
学	習到	達目	丨標	Course opti Communicati will acquir particular their opini Course opti through imms	or both. State on A focusion I and II e language issues of pons with roon B proversion in additional divith some	udents who choods is so on broader through the development of the control of the	se both, howering the list velopment of of thinking skillnee, organizing ence. With the opposition of the service of the serv	tening and liscourse a ls that erning their icourtunity to ment. This xamine cross	tudents may choose to participate still be awarded only one credit. d speaking skills developed in and presentation skills. Students hable them to discuss and debate deas for coherence and supporting to develop communication skills will entail 3 weeks of language ss-cultural communication styles departure from Japan.			
授	業 <i>0</i>	D 概	要	affect our in organize Finally, structo them. To of their projects for consensater. OPTION B: A late March language scri	daily live d classroo udents wil: o that end, oposition a oherence an a study-abr in Toronto hool with	s will take plant debates and be research and period and practice dedimpact. This control of the possibility of the possibility	ace in pairs be required to prepare an accession and core beate strates option will be ll be held or ents will tak y of organizi	and small o judge de ademic pre nduct a sur gies that w e held week ever a roug te 24 hours ng study t	contemporary social issues that groups. Students will take part ebates made by their classmates. Esentation on a topic of interest vey to gather evidence in support will help them to organize their ally over the course of the 15-week each of classes per week at a local cours and cultural activities on ons will be held.			
授	業 <i>0</i>	D 計	画	A		oom Coursework (Toronto, Canad	la)					
授:	業の	留意	点	in the class to discussi OPTION B: St	sroom. Acti ons and de tudents are	ve participation bates. Satrongly urgeo	on is necessa d to act inder	ry and stud pendently a	for all communication conducted dents will be urged to contribute and make efforts to interact with from other cultural backgrounds.			
学 : 評	生に	対す	- る 価	presentatio	n (40pts).				resentation (20pts) and final and Final Interview (40pts)			
教 ()	購入		書			EBATE (Language aal materials p			supplementary materials.			
参 ()	購入		書	accommodati	on and 3 me	eals per day. Wh	nile prices ca	an be expec	with host families that provide eted to fluctuate, the total cost Care, lesson fees a			

科	F	3	夕	入門ハング	ปร				
				黄京性					
	年			2年	単位数	1 単位		開講形態	淀羽
	講			 前期	必修選択			資格要件	供自
刑	神	바	州				ション おんりょう アルス		 しく学べる。学ぶと同時に使える、
学	習 到	達目	標			とを実感する		が、一般では、大学のでは、大学のでは、	してすべる。于かと同時に使える、
授	業(の概	要	日常会話を	中心にやさ	しく、よく使	ごわれる言葉を 等	学習する。	
授	業(D 計	画	2基礎3ハン音4子合成本6日会話話8会会話話9会話話話話11会会会12会話話	グルの 会 子 子 子 子 子 の の の の の の の の の の の の の	1み ・チム ・バル表記 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・			
		留意		重要。			3分のものに出ま		」!実際の場面で使ってみることが
評教	1	対す	価書	楽しく学べ	る韓国語((白水社)			
参 ()		考 任 意	書()						

科		目	名	入門ド	 イツ語				
				古牧 征					
	年	配		2年	単 位 数	1 単位	ľ	開講形態	演習
開	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件	
学	習到	達	目 標	一億人の でほぼい じ西ゲル なる。	の言語人口を存 ローマ字読み、 ルマン語族でも 本授業ではその	すし、学芸におい 文法は概ね規則的 あるドイツ文法の	て近代古典語 的で、複雑な 知識を持つこ 出し、手で書	唇ともいうべ このは形容詞 ことは、英文	はドイツ、オストリー、スイスなど き地位を占めている。発音は単純 Iの格変化くらいである。英語と同 法をあらためて理解する助けにも 、あとは辞書があればおおよその
授	業(の 椆	既 要	詞の変化	化を声に出し、		いこう。形容	浮詞の規則的	一問ずつ進めながら、冠詞や形容 」な変化さえ押さえれば、実はドイ るだろう。
授	業(ን	十 画	2 3 4 5 5 6 F 7 8 9 F 10 2 11 2 11 13 14 2 1	動詞の現在人種語詞の現在人種語言の の の 明 の の と 知 の の と 知 の の の 明 知 の の の 明 知 の の の 明 記 正 の 完 態 代 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	同の格変化 同・命令形 定冠詞類 ・人称代名詞 とと(続き) ・未来 副 立 ・ 売詞と 司 ・ 売詞と 司			
授	業の) 留 i	点意			ご毎回プリントがと	出るので必ず	・予習をして	くること。
学評	生に	: 対 -	する価	期末試	頭(100 点満点)で評価する。			
教(; 購入	科 、必 :	書 頃)		MA Deutsche v	er.3.0 白水社	'		
参 (購入	考 、任 i	書(意)						

科	E	-	名	 入門手話					
				福島 麻由	 美				
	年			2年	単位数	1 単位		開講形態	演習
開	講	時	期	後期	必修選択	選択		資格要件	
学	習到	達目	標	聴覚障害と	、またそれ	言語であること に伴う情報障等 の母語である。	等についての理		。 さび、簡単な日常会話程度の手話を
授	業 0)概	要	ることは多	い。講義 <i>の</i>		きるようになる	ることを目指	成り立ちについても誤解されてい 計すのではなく、聴覚障害者を理解 していく。
授	業 0	D 計	画	2 手 聴 対 室 自 自 自 単 文 文 文 13 13 12 13 13 14 15 15 16 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17	紹介 2 紹介 3 がの数をふくの数をふくの基本 1 の基本 2 の基本 3 の基本 4	。と歴史 いて シ表し方	現象や色の表 方・答え方		
授	業の	留意	点	毎回必ず	レポートを	して、積極的に 提出する。 だ手話を、確認		5努力をする	•
学評	生に	対す	る価	・授業態度 ・毎回提出		による評価 (4	0 点)		
	購入			テキストは	使用せず、	必要に応じて資	資料を配布する	5.	
_	購入	ኝ 任 意							

科	ı	3	名	基礎演習									
					(本) (本) (本)	·関·石川·今野(聖)・	荻野・□	」本(達)・	丸山・玉重・安永・中	西・白井・			
担	当者	牧 員	. 名 <u>——</u>	寺山									
学	年	配	当	1年	単位数	1 単位		開講形態	演習				
開	講	時	期	通年	必修選択	必修		資格要何	#				
学	習到	達 目	目標	ション力を・要点をつ。 ・文章を書 ィスカッシ ・暗記中心	育むことを かみながら くための基 ョンを通じ の受動的な	目標とする。「基礎液 文章を読む力を身に 礎(主語と述語の関 て複眼的・多角的視 学習ではなく、能動	[習] で 付ける。 係、修覧 点を育む 点・主体	は、以下の 飾する側と s。600 字~ k的に学ぶ	される側、句読点なと ~800 字程度の小論文を 姿勢を身に付ける。	ご)を学ぶ。デ を書く。			
授	業(の 概	要	間関係を作	るためにク	ラス編成は4学科混	成とする	5。学生全	ール形式で行なう。学員の学習過程が把握で プラス担当教員が明示で	きるように、1			
				1 全体	ガイダンス	、担当教員の紹介、	クラスタ	分けなど					
				2 日本	語の作文技	(術(1)主語一述語	の関係						
				3 日本	語の作文技	術(2)句読点							
				4 日本	語の作文技	術(3)語彙							
				5 日本	語の作文技	術(4)修飾語							
				6 日本	語の作文技	術(5)比喩表現							
				7 文章	読解(1)	大意要旨							
授	業(の計	. 画	8 文章	読解 (2)	複眼的・多角的視点							
				9 小論	文作成(1)手順							
				10 小論	文作成(2)文章の「型」							
)表現の工夫							
)推敲と添削							
						ンの技法(1)意見							
					-	ンの技法(2)論理	的思考						
				15 演習	のまとめ								
授	業 の	留意	意点			いこと。ディスカッ た場合や、課題提出			参加すること。課題を S (秀) はつかない。	提出すること。			
				授業への積	極的態度(20 点)、課題(80 点)で評価	<u></u> まする。					
学評	生に	対す	^ト る 価	授業への積極的態度(20 点)、課題(80 点)で評価する。									
教(購入	料 必須	書()	共通のテキ	ストはない	が、クラス担当教員	 が必要に	<u></u> に応じて指	示、あるいは資料等を	<u></u> 用意する。			
参 (購入	考 任 意	書意)										

科	E	3	名	者 専門基礎演習(社会保育)									
						<u>- ディー </u>	 專馬・中島						
	年			1年	単位数			黄形態	演習				
開	講	時	期	通年	必修選択	必修		各 要 件					
学	習到	達目	標	ユニケーシ	ョン能力を	わるテーマの検討: 身につける。 の課題を捉え、主体			ぶための基礎的なリテラシーやコミ つける。				
授	業 σ.) 概	要)を行う。	その他、ゲストス			献の購読、レポート作成、ディス の参加および保育関連施設へのフ				
授	業 σ.) 計	画	2 各ク 3 子育 4 子育 5 子育 6 子 フ フ ゲ レ レ ポ 11 レポ 12 レポ	ラててててーートーーーとス・・・・ルルストトトドデに保保保保ドドピ作作作作インカーの成成成成のカー	: 専門基礎演習のなるオリエンテーションかかわる文献購読かかわる文献購読かかわる文献購読かかわる文献購読かかわる文献購読かかわる文献購読かかわる文献購読かかわる文献購読をク(1): 保育関連の一による講演(1): レポート作成(2): テーマの設定(3): レポートの構(4): 本論の作成とカッション	ョン (1):保育と (2):子ども (3):子ども (4):保育の (4):保育の が を 変が基本 での基本 で が が が が が が が が が が が が が が が が が が	は何か にかかね にかかね 現代的記 ールド!	つる専門職②				
授	業の	留意		担当の各教	員により別	途指示する。							
学評	生に	対す	る価										
教(^科 購 入		書)	保育雑誌『	ちいさいな	かま』(ちいさいな	かま社)を毎。	月購読す	ける。				
参 (考 書入任意)											

科	E		名	情報処	l理 I							
担	当 教	7 員	名	石川	貴彦							
学	年	配	当	1年		単位数	1 単位		開講形態	演習		
開	講	時	期	前期		必修選挑	必修		資格要件	幼稚園:必修		
学	習到	達目	標	ソフト	を用	いたデー		、日常生活およ		と用いた文書の作成や、表計算処理 に適用できるレベルまで情報処理能		
授	業 σ.)概	要	授業では、情報機器の操作(OSの操作方法、プリンタ等周辺機器の使用方法)、文書の作成(電子メール、Wordを利用した文書作成の方法)、情報の整理(Excelによる数値データの処理、グラフの描画)の方法・技術について演習を行う。								
授	業 σ.) 計	画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	Wind Word 表のリスはExce ワワグラデ Exce Exce	owを作ッーき1ククフ)タ1ののおはプト作をシシのべののいとアア成用ーー作ー応応いた編ーー、いトト成の用用	本操作(起動 文章の入力・ 集 ト、ワードア ト、段組み印刷 たデータの入っ の活用 1 (SU) の活用 2 (絶 、データの抽 1 (RANK、LOC	・終了・保存・利 印刷と編集機能 ート、図形描画 ドロップキャッ カ・計算 M、AVERAGE 関数 対参照と相対参! 漬み上げグラフ、 出、ピボットテ、 KUP、INDEX 関数 データベース関数	多動・複製・ 、プリンタの プ、ページ エ 、 罫線のスク 照、 MAX、 MIN 折れ線グラ ーブル な)	子線		
	業の 生に			溜が行う。 授題点 8	てい 成した ご課す 30 点じ	く傾向に 課題をコ 13 課題の L上で態度	あるので、復 ピーして提出 O完成度によっ 良好の者は優	習を行い演習の した者は、事情 って評価を行う。	ペースに遅れ 聴取の上、当 課題点 90 点 以上で態度良	こと。また、進度の遅い者は課題がれないようにすること。なお、他者 省該課題を採点から除外して評価を 点以上で受講態度良好の者は秀、課 好の者は良、課題点 60 点以上で態		
	^科 購入	↓ 必 須	書)	実教出版編修部:30 時間でマスター Word2016、実教出版、2016 年 実教出版編修部:30 時間でマスター Excel2016、実教出版、2016 年								
	購入		書)									

科	E		名	情報处	L理Ⅱ								
担	当 教	て 員	名	石川	貴彦								
学	年	配	当	1年		単 位 数	1 単位		開講形態	演習			
開	講	時	期	後期		必修選択	必修		資格要件	幼稚園:必修			
学	習到	達目	標	資料の	作成	、インター	・ネットを利用	した情報配信	やコミュニケ	本を理解し、プレゼンテーション ーションなど、日常生活および専 ることを到達目標とする。			
授	業 σ.	概	要	授業では、情報の表現・伝達(PowerPoint によるプレゼンテーション資料の作成)、情報の発信(HTML タグによる Web ページの作成・配信) について演習を行う。									
授	業 σ.) 計	画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	Powe Powe Powe 一像組レタ作報	rPoint を付せ でででする。 rPoint を行っている。 rPoint を行っている。 ないではないではない。 ないではないできます。 ないできまます。 ないできます。 ないできます。 ないできまます。 ないできます。 ないできます。 ないできまます。 ないできます。 ないできます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまます。 ないできまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	使ったプレゼン アニメーショ 舌用した情報表 らしくみ、HTML メージタグ)、 バルタグ)	テーション資 ラッシュアップンの設定、リッ 現(自作スラー 現(自作スラー 計型のでは、Wel カイパーリン としての心構え ち 自作ページ1)	料の作成 プ、図形の挿 ハーサルにお イド1) イド2) b デザインの	ける操作			
授	業の	留 意		溜まっ	ってい	く傾向にあ	るので、復習	を行い演習の~	ペースに遅れ	と。また、進度の遅い者は課題がれないようにすること。なお、他者 後該課題を採点から除外して評価を			
学評	生に	対す	る価										
	^科 購 入		書)				持間でマスター 30 時間でマス			werPoint2016、実教出版、2017 年 出版、2003 年			
_	購入		書)										

科		<u> </u>		統計学				
担	当 教	女 員	名	荻野 大助				
_	年			3年	単位数	. ,—	開講形態	演習
開	講	時	期	前期	必修選択	選択	資格要件	
学	習 到	達目	標	統計処理用になること		ソフト MS Excel および SPS	SS を使用して	て、基礎的な統計処理ができるよう
授	業 0)概	要	切に取り扱 の実際につ り、回帰・ る技法を学	う知識と技 いて学ぶ授 相関を調べ ぶ。さらに	術を身につけることが必要 業科目である。本授業科目で たりする。また、名義尺度	である。統計 では、データ(や順序尺度な 1 や SPSS) を	データや資料を正しく理解し、適 ・学は、統計学の基礎とデータ処理 について t 検定、χ2 検定を行った とどのカテゴリカルデータを処理す と用いて、実際の質問紙調査などで 。
授	業 <i>0</i>	D 計	画	2 3 4 5 6 7 8 9 10 9 9 9 10 9 9 9 11 12 13 14 14 15 15 16 17 17 18 18 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	量学学値値係係にに分分量紙に的的にに数数関関析析解はとせすす,,析成ののるる場所が開発を	視覚的表示の利用~ D 基礎(1)標本抽出 D 基礎(2)仮説検定 推測(1)比率の差の検定 推測(2)平均値の差の検 D 直線に関する推測(1)相 D 直線に関する推測(2)回り E 測(1)2×2分割表 E 測(2)異常値の判定 E 比較(1)分散分析 E 比較(2)多重比較 「一夕解析(1)質問紙作成 「一夕解析(2)データ解析	関係数	
授	業の	留意	点			講義で配布した資料は、授め) 十分に復習すること。	業の際にすべ	べて持参すること。授業の後は、必
学評	生に	対す	る価	期末試験(100 点満点)で評価する。		
教(購入	•	書)	著) ISBN978	-4-87647-4		・看護・福	祉関係者のために(片平洌彦
参 (購入	-	書()	参考書につ	いては、授	業の際に提示する。		

科	E		名	スポーツ理	 論					
				関明昭						
学	年	配	当	1年	単位数	2 単位		開講形態	講義	
開	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件	保育士:必修	幼稚園:必修
学	習到:	達目	標	立って探求 本講義内容 学習到達目	できること との連携を 標としては	を目標とする。 常に意識し、思 、スポーツと自	また、基本的 考性を深める 分自身が専巧	内な保健知識 うことをテー 女する学科を	を理解するとと マとする。 関連づけながら	るのかを広い視野に さもに、所属学科と 5今日的課題をみつ ごきるようになるこ
授	業 σ	概	要	(2) スポーツ	/が、商業(建に関する基本的 化される問題点と との連携教育を意	実社会との			車性を理解する。
授	業 <i>の</i>) 計	画	2 生 運 栄 休 大 社 筋 ス 学 学 ス ス リ 11 12 13 14 14 15 16 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17	一習ののの皮的成ーススーーダ慢捉捉握質欲にツポポツツーンス方方適とい理ツツママッカににに	こついて こついて 玩規制の関係 、ポーツについて	え方(1) ² え方(2) ² の形成(1)	スポーツプロ チーム論		
授	業の	留 意	点							がら情報を収集して 要不可欠なものとな
学評	生に	対す	る価	 小レポート	60 点。優秀	秀なレポート、発	表は 40 点で	 で評価する。		
教(科 購 入:		書)	なし						
参 (考 購 入		書)	関朋昭(20	 15)『スポ ・	一ツと勝利至上主	ー 義』ナカニ	<u>ー</u> シャ出版.		

科	E	1	名	スポーツ実	技 I								
		女 員	名	関 朋昭									
学	年	配	当	1年	単 位 数	1 単位		開講形態	実技				
開	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件	保育士:選択必修	幼稚園:選択必修			
学	習到	達目	標	ーボールを る生活を営 学習到達目	とりあげ、 むことがで 標としては	それらの技術構 きる能力や態度	構造や練習 を育成する ごのような	方法を学習 る。 ふるまいが	業で経験してきたバ し、生涯を通じて明 求めれているのか、 ことである。	るく豊かな活力あ			
授	業 σ.)概	要	学習した「基礎技術」がゲームにつながらない「技術」であったりするが、この授業では、「『技術」であるゲームにつながる「基礎技術」(論)を追求し、学習する。また、共同学習の場であるため、自己の役割を理解し他者と協力しながら種目を展開し進めていくことがねらいである									
				1 ガイ	ダンス								
				2 スト	レッチ運動	・バレーボール	レ基本練習						
				3 バレ	ーボール()) ①オリエン	テーション	②感覚縛	習 技術練習(オー	-バーハンドパス)			
				4 バレ	ーボール(2	2) ①技術練習	(アンダー	-ハンドパス	(2)ルール確認	③試しのゲーム			
				5 バレ	ーボール(3	3) ①技術練習	(コンビネ	ベーション)	②ゲーム戦術<1>	③試しのゲーム			
				6 バレ	ーボール(4) ①技術練習	(コンビネ	ベーション)	②ゲーム戦術<2>	③試しのゲーム			
				7 バレ	ーボール(5) ①技術練習	(コンビネ	ベーション)	②ゲーム戦術<3>	③ゲーム			
授	業 σ.	計	画	8 バドミントン(1) ①オリエンテーション ②感覚練習 ③技術練習(ハイクリア、ドライブなど)									
				9 バド ゲー		?) ①技術練習	(ハイクリ	ア、スマッ	シュなど) ②主な	ンルール ③簡易			
				10 バド	ミントン(3	3) ①技術練習	(サービス	(2) (2) (2) (4)	示(1) ③ダブルスゲ	ーム			
				11 バド	ミントン(4	1) ①技術練習	(ドロッフ	゚゚ショットな	:ど) ②戦術<2>	③ダブルスゲーム			
				12 バドミントン(5) 団体戦 (ダブルスゲーム)									
						編成および総合							
						合①(バレーオ							
						合②(バレーオ							
授	業の	留 意	点	運動靴は球	技専用のシ 康管理やス	ューズが望まし	い。看護	学科は前期の	ー、Tシャツ、ショ の開講となる。 書籍などに関心を持				
				評価は、授	業での意欲	・態度 80 点、	レポートの	提出 20 点。	とする。				
学評	生に	対す	る価										
教(^科 購入		書)										
参 (購入	=	書)										

科	E	<u> </u>	夕	スポーツ実	<u></u> 技 Π										
						 ・今野 聖士・敦資									
学		配		1年	単位数		開講形息	実技							
	講	時	期	後期	必修選択			- 保育士:選択必修	幼稚園:選択必修						
学	習到	達目	標	スポーツ実技IIは、名寄市の地域資源を活用し、生涯スポーツとして親しむことのできるウィンタースポーツの修得をめざしている。この講義では、雪質日本一と呼ばれる名寄市の自然環境を生かしたスキー、および全国でも恵まれた競技環境にあるカーリングをとりあげる。スキーおよびカーリングは選択制とし、どちらか一方のみ履修可能とする。											
授	業の)概	要	おさえ、「フ ーンへと発 もある。(関 (カーリン	(スキー) 授業では、スキー (スラローム) の基本技術を、「重心の先行を伴う左右交互荷重」とおさえ、「プルークボーゲン」を「基礎滑降法」と位置づけ、ブライトターンを経て、パラレルターンへと発展させる。学外実習であるため、地域社会との交流といったことも本講義のねらいでもある。(関) (カーリング) まずカーリングについての基礎知識を学び、実技は氷になれるところから始める。基本動作の練習を行った後、チームを編成してゲームの実戦を行い、戦略を練るところまでをめざす (算智)										
授	業 σ .) 計	画	第第*初習1市 以 荷学象 る よ学 切第第*初習1市2→3重習)1諸2る習1り日日月にり初換滑回基より ブ作開時のたえ目目に、う歩 走り礎るう パと脚切うご	年午午回なり、 大人 トタイプ りょう アート・アート・ 大人 大人 トタイプ りょう アート・ 大人	及びが、49、12スを行う い者および初級者対 歩き方、坂の上りっ 一 直滑降、プルーケー プルーケでの左右交 回り 中級者および中級者 ターンの切り換えによ ー 立ち上がり抜す エッジ、感覚重視の同 ・急斜面 いタインケーによる同様	業計画 (カーリング) ルール・ポッジョンの役割 氷の状態・カーリングでの歴史 用具などの説明 カーリング技術の基礎 (氷に慣れる) カーリング技術の基礎 (氷に慣れる) カーリング技術の基礎・メンタルトレーニング (スウィーピング) カーリング 技術の基礎 (作戦) カームの進め方とその実際 (光の状態に合った作) カームの進め方とその実際 (チームに必要なこと・チームり) カームの進め方とその実際 (勝ってる時、負けてるの作戦) より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの所、短所 様々なことを学んでもらう レベルに合たショット・作戦 より高度な戦略作りと実戦・実戦からチームスポーツの所、短所 様々なことを学んでもらう カーリングに要なもの								
授	業の	留 意	沙	(動技術と戦略作りのまとめ) 1. 3日間の集中講義で実施する(積雪の状況から冬季休業期間中もしくは土曜日と日曜日の実施となる)。 2. スキーのリフト代は個人負担とする。ウェア、帽子、グローブ、ゴーグルなどは各自用意すること。カーリング用具はレンタル可能(個人負担)。 3. スキーは10月のオリエンテーションでは事前調査用紙を記入し提出し、12月のガイダンスではグループ分けと事前確認を行う。 4. 【重要1】受講希望者が多い場合、抽選とし人数制限をすることがある。 【重要2】初回のガイダンス不参加者は、履修意思がないものと考え履修資格を認めない。ゆえに、掲示板を見逃さないように(スキーは7月、カーリングは10月予定)。 【重要3】スキーは二回目(10月予定)、三回目(12月予定)のガイダンスに関しても、 【重要2】と同様に、不参加者は履修意思がないものと考え履修放棄したとみなす。											
学評	生に	対す	る価	評価は、授	業での意欲	・態度 80 点、レポ	ートの提出 20 点	とする。							
教 (^科 購入			テキストは	使用しない	°°									
_	購入		書)												

科 目 名	教育学									
担当教員名	加藤隆									
学 年 配 当	2年 単位数	2 単位	開講形態 講義							
開講時期	前期 必修選択	選択	資格要件							
学習到達目標	社会の急激な変化の中で、子ども達も変わってしまったという議論や指摘は多い。一体、子の達の何が変わったのだろうという問いを大切にして授業を進めたい。そのことを具体的には、質、心身、生活、関わりというキーワードから考えてみたい。また、そのような変化の背景の因についても触れながら、子どもの全体像に迫りたい。そして、子どもの変化について問う、は、必然的に教育の課題や在り方を問うことにつながる。このようなことを通じて、受講生にら問題意識を持ち、自分の言葉を用いて説得力ある考えをまとめたり、活動に取り組む力を行する。									
授業の概要	マスメディアの圧倒的いて考える。後半では	」な情報の中での孤独や関わ	E活を中心に取り上げ、食生活や家族との関わり わりの減少とが及ぼす実態や教育との関わりにつことがらを中心に取り上げ、小一プロブレム、多よどについて考えたい。							
	1 子どもは変わっ	ったか(戦前の子どもの姿を	を中心に)							
	2 子どもは変わっ	ったか(戦後の子どもの姿を	を中心に)							
	3 社会的権威の変化 (権威の不在の中での子ども)									
	4 孤立する子ども達 (豊かさの中での孤独)									
	5 子どもの五感の変化 (アンバランスな五感の実態)									
	6 少年問題の噴出と対応策 (その特徴と、求められるカウンセリング)									
	7 学校の中の子ども達 (子どもに学校はどう映っているか)									
	8 教室の中の子ども変化 (漂流する多数の個)									
授業の計画	9 中学生問題に向き合う (問題を潜在化させる子ども達)									
	10 多様化する高校生たち (地方の高校の挑戦)									
	11 教師の可能性を探る (国際比較の中で教師像を考える)									
	12 学校改革の視点 (何は改革すべきなのか、何は守るべきなのか)									
	13 家庭教育の見直し (現代家庭の危うさと可能性)									
	14 地域の教育力を構築する (過疎化の中で地域にある力とは)									
	15 これからの教育を考える (グループ発表、意見交流)									
授業の留意点	自身の経験や課題意識たい。	ぱなど、教育についての問題	題意識を持って履修してください。予習も重視し							
学生に対する評価	評価は、授業での意欲	て・態度 30 点、レポートの	提出 30 点、及び試験 40 点による。							
教 科 書 (購入必須)	なし。資料は毎回教師	iが用意します。								
参 考 書 (購入任意)	参考書については、請	義開始時、指示します。								

科	E	3	名	哲学								
	当者	数 員		古牧徳	·····································							
学	年	配	当	1年	単 位 数	2 単位	開	講形態	講義			
開	講	時	期	前期	必修選択	選択	資	格要件				
学	習 到	達目	標	そでで類が後ち生なない。もして、これは代な恩学感実ただ問がない。	を凝らして理屈がまた。は理屈がするのでするのでである。これではいるのではいいないがない。これではいいないがいないがいいいではないがいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	見えないし、 まないし、 くう。こ で分かるのか。こ ガスト教にで 哲学以上に感覚 いから出した。 だみよう。 だがない たいから はないで がないで がないで がないで がないで がないで がないで がないで がないで がないで がないで がないで がいがいがいがい	と登ました。 ときにしてした。 とうにしたられた。 はたこのはないない。 というにはないない。 はないでは、 はないと、 とないと、 はないと、 はないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 とないと、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と	間名はとやりで問のこれをはといいの陥はといいの陥は疑察のしましましましましまができませいできる。	なものがあることが分かるだろう。 。となると考えるしかない。そこ を想定するに至った。しかし感覚 った。それを乗り越えるため、人 中世においては神学になった。だ が復活した。神学が駄目となると していくうちに中世の自然学者た ことを思いついたとき、科学が誕 あり、すべての学問は哲学の一部 姿を知る助けになる。そのことを知 ならないのである。そのことを知			
授	業の	D 概	要	なのか。 だろうか くことで	いや、その前。古代ギリシ 、人間の能力	に確実な認識は可 ア以来、人類を悩	T能なのだろう 当まし続けてき ぶあることを理	うか。いや きた難問と 理解し、こ	の確実な認識はいかにすれば可能、そもそも確実なものなどあるのそれへの先人たちの苦闘を見ていれから大学で学んでいくうえで必			
授	業の	D 計	画	2334567891011121314	は、クラトで、 グラトス・シャックのでは、クラトン・では、クラトン・では、カーのでは、カー	いかけ ア論 の超自然 主義 のカスト リストンスの 後 に を を を を を を を を を を を を を を を を を を	范入					
授	業 の	留意	点	異常に板書が多いが、これはどうにもならない癖である。書かないと考えられないし、なによりも言葉が出てこない。ただし書いてある内容は陳腐なものだから、皆さんは無理して書く必要はない。もちろん書きたければ書いてもよい。本邦最北の哲学の思い出として。なお10回目くらいまでの内容は紀要に書いてあるので興味のある方はそれを読んでみればよい。内容的に整理されているし、少なくとも黒板の悪筆に悩まされる心配はない。								
学評	生に	対す	る価	期末試験	(100 点満点)	で評価する。						
教(•	[}] 必須	_	特になし	′ 0							
参 ()		§ 任 意	書()	『哲学の)アポリア』(J	. &S. Rachels 著	晃洋書房					

T.1	-	-	-) ~m 2/4										
科				心理学										
				糸田 尚史	₩ / + ₩	0 H/F	BB =# T/ 台:	# 举						
	年			2年	単位数		開講形態							
用	講	吁	别	前期	必修選択		資格要件							
学	習 到	達目	標	「心理学」という学問について網羅的に学び、扱われるトピックスについて理解し、専門領域や日常生活へ応用する。人間や動物の心と行動を「心理学的にみることができる」「心理学的に理説明することができる」ようになる。人間の認知や発達などに関する知識と理論に基づき、心理的な支援のできる専門職者を目指す。										
授	業 0	力概	要	活にひそむ 体系的かつ	心理学的な 実践的に学	現象を実際に体験し、脳に	ニハッキングを [やイラストσ	ての「心理学」について、日常生かけ、心理系映画なども視聴し、 シスライドなどから、人間の認知、 る。						
授	業 (D 計	画	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 対 対 感 対 感 対 感 状 感 味 感 用 記 一 思 ツ 能 学 問 感 層 性 相 社 自 服 発 着 心 覚 効 覚 差 覚 一 覚 覚 道 心 憶 (考 ク 検 習 題 情 説 格 互 会 己 従 達)、理	・果・、・(・、・理:短・ス査:箱・、・作と開、:「臨ト知、知立知ト知う知学多期言、、古、動葛パ用集示偏生認床、覚知覚体覚ン覚ま覚、重記語言知典動機藤一論団、見涯知:心・覚・視・プ・味・認(憶・語的的因づ、ソ、:対・発発ス理認的認、認ソ認、認知二)気、能条低け欲ナ性社人差達、トア	日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の 日本の	歴の図 現、、 置、題、 、 、 と、 、 、 こ、 、 、 、 こ、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	る、サブリミナル効果、プライミンジンの盃、ゲシュタルト知覚、両眼で、シ、ミュラー=リヤー錯視、サッチを態で、アカーク効果、鼻、嗅覚、舌、ローク効果、鼻、嗅覚、舌、ローキングメモリックが、感覚記憶、ワーキングメモリックが、感覚記憶、ワーキングメモリーを開放した。これでは、大力を関係では、大力を対象には、大力を対象には、大力を対象には、大力を対象には、大力を対象には、大力を対象に対象には、大力を対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対						
授	業の	留意	点	配布資料は	順番に綴り	しんで学んでほしい。 、遺漏のないように管理す	ること。							
学評	生に	対す	価	(2) 授業毎(3) 授業参	の小レポー 加態度:20	点								
教(購入	[}] 必須		山村豊ほか	『心理学	:[カレッジ版]』 医学書院	完 2017 年							
_	<i>‡</i> 購 入	号 任 意	書()	アプローチ 長田久雄(鹿取廣人・	』 講談社 編) 『看 杉本敏夫・		2版』 医学 :第5版』	東京大学出版会 2015 年						

	I										
	生命倫理										
担当教員名					n au V						
	1年	単位数	. ,	開講形態							
開講時期	後期	後期 必修選択 選択 資格要件									
学習到達目標	療の現場の られてゆく なった。それである。 (1)生命倫理	20 世紀半ば、医療技術の進歩により植物状態や臓器移植、さらには経口避妊薬が現れたことは医療の現場のみならず社会全体にも大きな影響を与えた。従来の医療倫理が現実によって乗り越えられてゆく有様をみて、医療関係者たちは個々の例に即応した状況主義的解決を模索するようになった。それが生命倫理という 20 世紀の決議論 Casuistry である。本授業の到達目標は次の二つである。 (1)生命倫理において議論されている主要な問題点を理解する。 (2)それらの問題の背後にはいかなる思想があるのか洞察する。									
授業の概要	死・尊厳死 外受精、遺第子子 が第一子で がまで 個人の欲望	生命倫理が登場した 60 年代の時代背景からまずパーソン論を説明し、そこから第 I 部として安楽 死・尊厳死、脳死と臓器移植、脳死体利用とアニマリズムを、第 II 部として中絶、人工授精、体外受精、遺伝子治療、遺伝管理社会を、第III 部として万能細胞やクローン人間、遺伝子改良など遺伝子医療の近未来を見ていきたい。全体を通せば「権利主体をどう確定するか」(パーソン論)が第 I 部と第 II 部の問題であり、それはつまるところ人間観の問題であり、究極的には世界観にまで行きつく。つまり社会の宗教離れにより、それまでの規範が力を失ったため、行為の是非は固人の欲望で判断する以外になくなってしまったのである。では個人の欲望がすべてとなると将来はどうなるか。それが第 III 部の問題である。									
	1 序論	第二次大	、戦後の医療の発達と6	云統的な医療倫理							
	2 続き	2 続き 中絶問題とパーソン論									
	3 1-1	3 1-1 生命の終わりに関わる医療・終末期医療									
	4 続き	4 続き 安楽死から尊厳死へ									
	5 1-2	5 1-2 脳死と臓器移植									
	6 1-3										
	7 2-1										
授業の計画	8 続き。避妊から中絶へ										
	9 2-2	9 2-2 生殖補助・人工授精									
	10 続き	10 続き 体外受精と代理出産									
	11 続き 超高齢出産と死後生殖										
	12 2-3	12 2-3 出生操作									
	13 続き 優生思想と遺伝管理社会										
	14 3-1	14 3-1 遺伝子に関わる医療 万能細胞と iPS 細胞									
	15 3-2	クローン。	人間								
授業の留意点	ん一人一人	板書が非常に多いが、無理に写す必要はない。真面目に聞いてくれれば結構。医学の進歩が皆さん一人一人にとって切実な問題であること、人類全体としても大変な曲がり角にあること、さらには従来の倫理観がもはや曲がり角に来ていることが理解できることだろう。									
学生に対する評価		期末試験(100 点満点)で評価する。									
教 科 書 (購入必須)	なし。										
参 考 書 (購入任意)	『生命倫理	の教科書』	理学』村上喜良(勁草 黒崎剛/野村俊明(ミラ 徳生編(晃洋書房)								

科	E	 I	名	文化人類学	文化人類学										
				渡部 裕											
	年	配		2年	単位数	2 単位		開講形態	講義						
開	講	時	期	後期	必修選択	選択		資格要件							
学	習 到	達目	標	の在り方の 直すための	本講義の主要な目標は、文化人類学の根幹である民族学を学ぶことによって、人類の文化や社会の在り方の多様性を理解するとともに、他者の文化・社会に対する自己の認識・価値観を見つめ直すための視点を養うことです。また、寒冷な北方地域に暮らしてきたアイヌを含む北方諸民族の文化を知ることで、さまざまな工夫や英知が込められた北方の文化の特徴を学びます。										
授	業の)概	要	のあり方、	文化人類学(民族学)の歴史や学説の概要を学び、具体的な研究事例からさまざまな文化や社会 のあり方、歴史的な変化や文化の相互作用、また北方諸民族の文化的特徴などを学びます。さら こ、他者の文化を理解する方法を考えます。										
授	業 σ.) 計	田	2人類3日本567ア 文 文 毛 近 現 代101213現 代14先	2 人類の移動と拡散:北方進出、新大陸への移動・拡散、オセアニアの海洋文化 3 日本の人類学・文化人類学のあゆみ:柳田国男、宮本常一、鳥居龍蔵の調査研究 4 参与観察に基づく民族調査:B. マリノフスキー、F. ボアズ、原ひろ子の調査から 5 北方諸民族の生業文化:狩猟採集とトナカイ遊牧 6 北方諸民族の物質文化:寒冷環境における適応 7 アイヌの歴史と文化①:北太平洋沿岸における位置づけ 8 アイヌの歴史と文化②:歴史文書にみるアイヌ文化 9 文化接触①:北洋漁業の日本漁民とカムチャツカ先住民との事例 10 文化接触②:イヌイット (エスキモー) の事例 11 毛皮交易と北方諸民族社会 12 近代国家の先住民経済と社会										
授	業の	留意	点			「積極的に文化 によって受講			を勢が重要であり、授業のなかで適 確認します。						
学評	生に	対す	る価			(50 点) と、 ます (20 点)。		ポートによっ	って評価します (30 点)。授業態度						
教(購入	↓ 必 須		適宜、プリ	ントを配布	します。									
参 (購入	; 任 意	_	参考図書に	ついては、	講義の際に指	示する予定。								

科 目 名	芸術文化論
担当教員名	小古間 甚一・今野 道裕
学 年 配 当	1年 単位数 2 単位 開講形態 講義
開講時期	後期 必修選択 選択 資格要件
学習到達目標	「教養」とは、知識の量ではなく、幅広く学び、複眼的視点から思考する姿勢である。文学・映画・アニメなどの芸術を幅広く複眼的な視点から読み解くことの重要性と面白さを学ぶ。(小古間)人間にとって「芸術」とはどんな意味を持つものなのだろうか。「美術」「演劇」「文学」を具体的に取り上げ、その歴史的変遷と今日の展望を、主にヨーロッパと日本を比較研究することで、人間と芸術の関りを理解する。(今野)
授業の概要	おもに 19 世紀〜21 世紀の文学や映画やアニメなどを取り上げる。毎回リアクションペーパーを提出してもらうことで学生と教員が対話できるような授業を行う。(小古間) 私と「芸術」との関りについて紹介する授業を行う。必要に応じて自作資料・映像資料等を紹介し、その中で人生において芸術の果たす役割、さらに芸術が人類にとってどんな役割を持っているのかを考えてもらう。(今野)
授業の計画	1 文学と政治・社会 「教養」とは何か。ドーデの「最後の授業」を読む(小古間) 2 お姫様とジェンダー1 1930年代のディズニー映画『白雪姫』(小古間) 3 お姫様とジェンダー2 21世紀の「白雪姫」たち(小古間) 4 病と文学1 宮崎駿の「風立ちぬ」(小古間) 5 病と文学2 堀辰雄の『風立ちぬ』(小古間) 6 チャップリンとアメリカ 「モダン・タイムス」における労働の問題(小古間) 7 チャップリンとアメリカ2 「モダン・タイムス」とアメリカ1930年代(小古間) 8 老いと文学 有吉佐和子『恍惚の人』における老いの問題(小古間) 9 ヨーロッパの建物(今野) 10 ある画家の生き方 ゴッホ(今野) 11 ある画家の生き方 フェルメール(今野) 12 アンネの日記 平和と文学(今野) 13 ピーターラビット 文学と自然(今野) 14 絵本を読み解く(今野) 15 劇を作る 「卒業公演」の脚本から(今野)
授業の留意点	文学研究や文化研究の考え方は保健医療福祉の分野での応用も可能なので、授業内容をしっかり聞いて理解し、専門課程の学習に活かしてもらいたい。体系的に学ぶ授業ではないので、授業のテーマの順番が変更になることがあるので注意してほしい。
学生に対する評 価	授業参加態度リアクションペーパー (50 点) 課題レポート (50 点) (小古間) 授業参加態度 (50 点)、課題レポート (50 点) (今野) 2人の成績を合算して小古間が最終評価を行う。
教 科 書 (購入必須)	教科書は使用しない。プリントを配布する。
参 考 書 (購入任意)	「白雪姫」「モダンタイムス」など授業で扱う映画は図書館にあるので、事前に視聴しておいてほしい。

科	-]	A	日本国憲法											
				松倉 聡史											
	年			2年	単位数	9 単位	ľ	開講形態							
_				後期	必修選択	- ,			幼稚園:必修						
				学習到達目	学習到達目標を①立憲主義の憲法という意義を理解すること、②日本国憲法の成立の根拠を理解すること、③日本国憲法の平和主義の意義を理解すること、④憲法の基本原理や理念を理解すること、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権と統治機構との関係を理解することとする。										
授	業 <i>0</i>	D 概	要	を学ぶ。憲 る統治機構	立憲的意味の憲法を理解しつつ、憲法は国民一人ひとりを権力者から守るために制定されたことを学ぶ。憲法は人権保障の定めと国家の機能を立法・行政・司法の三つに分類し、三権分立による統治機構の定めもおかれている。日本国憲法は時代に流されない恒久な価値を示すものとして、日本の国民の幸福のためにつくられていることを深く理解し、学ぶこととする。										
授	業 の	D ∏	画	2立345564558587878424104114124131	2 立憲主義とは何か 3 法の支配とは何か 4 日本国憲法の基本原理 5 基本的人権とは何か 6 法の下の平等とは何か 7 精神的自由権(1)思想・良心の自由、信仰の自由 8 精神的自由権(2)表現の自由 9 経済的自由権 10 社会権(1)生存権 11 社会権(2)教育を受ける権利 12 権力分立 13 国会 14 内閣										
授章	業 の	留意	点		的とするも	のであることに			り、「国民に権利・自由を保障する っる。そのような視点から、憲法改						
学言	生に	対す	る価	授業参加態 評価する。	度(10 点)、	リアクションへ	- ペーパー (20	点)、レポー	- 卜試験(70 点)によって総合的に						
	 購入			「伊藤真の	「伊藤真の憲法入門」(日本評論社)を利用したい。適宜、プリント等を配布したい。										
参 ()	購入	-	書)	参考書とし	て、芦部信	喜「憲法」(岩波	(書店) を利り	用する。							

科		目		名	経済学										
担	当	教	員	名	今野 聖士										
学	白	Ę.	配	当	1年	単位数	2 単位		開講形態	講義					
開	請	冓	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件						
学	習:	到;	達目	標	よび各段階	①経済学という学問の世界観・ものごとの捉え方を理解できる、②資本主義経済の段階的発展および各段階における特徴を理解できる、③社会人として最低限身につけておくべき経済学の知識(明治以降の経済史を含む)を習得する、以上の3つの能力を育成する。									
授	業	<u></u> ග	概	要	学問である 義と格差社 を取り上げ	経済学は、「資本主義」という仕組みによって成立している人間社会の仕組みを理解しようとする学問である。モノの〈生産・流通・分配〉のしくみや、貨幣(お金)・金融システム、市場原理主義と格差社会等のテーマについて解説する。また、日本経済を事例として、資本主義経済の歴史を取り上げる。経済学の初心者でも理解できるよう、できるだけ例をあげて説明する。スライドを使用した1回完結型の講義をおこなう。資料を毎回配布する。									
授	業	(o	計	画	2 分 需 男 場 場 場 場 場 場 場 場 り か 株 日 日 12 日 13 日 14 日 14	2 分業の利益 3 需要と供給・価格メカニズム 4 市場の効率性 5 市場の限界① (情報の非対称性・モラルハザード・逆選択) 6 市場の限界② (所得分配の不公平・貧困問題) 7 労働市場の機能と限界 8 GDP 9 貨幣と中央銀行 10 政府の役割 11 外国為替市場の仕組み 12 株式市場の仕組み 13 日本経済のあゆみ① (明治期からWW1まで) 14 日本経済のあゆみ② (WW1からWW2まで)									
授	業(の i	講義の最後 10 分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める(必須・評価対受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方的義展開を行います。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけるこ特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で相いので目を通しておくとより理解が深まる。												
学評	生	C 3	対す	る価	毎回の質問	毎回の質問票で 30 点、期末レポート 70 点の合計 100 点で評価する。									
教 (科 入 <i>!</i>	必須	書)			∤を配付する。期 等を用意するこ。			: なるので無くさずに保存しておく					
参 (考 入 (壬意	書)	指定しない	。必要があ	れば講義中に随	時紹介する。							

科	目		夕	現代経済論(国際経済を含む)										
				今野 聖士	一一四四十二月	с д u /								
	年			1年	単位数	9 単位	開講形態	藩						
				1 + 	必修選択		資格要件	叶技						
				①現代日本 ②社会で生 ③グローバ	①現代日本の経済システムと経済問題を理解して説明できる ②社会で生じているさまざまな問題を、経済学の視点から論じることができる ③グローバル化しつつある世界経済のしくみを理解して説明できる 以上の3つの能力を育成する。									
授	業の	概	要	ているのか ることが出 解説してい	。また、ど 来るのか。 く。	のようにここまで歩んで と言った視点を持ちなか	ごきたのか。そし ぶら、現代日本の	年を迎えた日本経済が今どうなってどのような理論でそれを説明す 経済と関連する国際経済について こなう。資料を毎回配布する。						
授	業の	· 計	画	1 ガイダンス日本経済のいま一戦後70年の日本経済一 2 日本経済の成長と循環①(アベノミクス景気・均衡成長・グローバリゼーション) 3 日本経済の成長と循環②(経済成長と景気循環) 4 望ましい物価とは①(デフレ経済・資産価格) 5 望ましい物価とは②(価格理論) 6 財政は再建できるのか①(高齢化と財政負担・財政改革・年金改革) 7 財政は再建できるのか②(財政の仕組み・財政の理論) 8 金融政策はどう変わったのか①(戦後金融システム・デフレ経済下の金融システム) 9 金融政策はどう変わったのか②(金融政策の理論) 10 日本の貿易に何が起きたのか②(金融政策の理論) 11 日本の貿易に何が起きたのか②(貿易の理論・貿易の構造) 12 円の実力(円とドル・世界の新通貨体制) 13 地球環境とエネルギー問題①(地球温暖化と京都議定書・生物多様性・循環型社会) 14 地球環境とエネルギー問題②(エネルギー問題・公害と外部不経済・環境対策)										
授	業の	留 意	点	講義の最後 10 分程度を使ってその講義に関する質問を書き、提出を求める(必須・評価対象)。受講人数によっては全てに答えられませんが、基本的には次の講義の冒頭で回答し、双方向の講義展開を行います。 新聞・テレビ・インターネットなどで経済問題を日常的にチェックする習慣を身につけること。特に図書館に配架されている「東洋経済」「日経ビジネス」等の経済雑誌は興味がある号で構わないので目を通しておくとより理解が深まる。										
学評	生に:	対す	る価	毎回の質問	毎回の質問票(30 点)、期末レポート 70 点の合計 100 点相当で評価する。									
教 (科 購 入 :		書)			·を配付する。期末レポー 等を用意することが望ま		なるので無くさずに保存しておく						
参 (考 購 入 ⁽		書)	指定しない。	。必要があ	れば講義中に随時紹介す	-る。							

	_		-		() () () () () () () () () ()									
科	E			国際関係論	(国際政治	を含む)								
				東原 正明					-W. V.					
	年			1年	単位数			講形態	講義					
開	講	時	期	後期										
学	習到	達目	標	の現状とナ を通じて、	本講義では、現代の国際社会がいかにして形成されてきたのかという点に焦点を絞り、国民国家の現状とナショナリズムの作用及び第二次世界大戦後のヨーロッパ政治について学ぶ。この学習を通じて、各受講生が国際関係について理解を深めるとともに、現代世界に対する関心をより高めることを目標とする。									
授	業 σ.)概	要	の中での生 急進的なナ 国際関係に 国際関係上	20 世紀、人類は二度の悲惨な世界大戦を体験し、その後の米ソ冷戦体制下では「核戦争の恐怖」の中での生活を余儀なくされた。そして 21 世紀に入っても、地球上には依然として戦火が絶えず、急進的なナショナリズムもいまだに大きな影響力を持っている。こうした認識の下、本講義では国際関係について主にヨーロッパを中心に検討する。国際関係の歴史を概観し、さらに具体的な国際関係上の出来事の中からキューバ危機を例として取り上げる。また安全保障上脅威になり得る課題にふれる。									
				1 はじ	めに									
				2 「政	治」、「国際	関係」とは何か								
				3 「国	家」、「ナシ	/ョナリズム」とはイ	何か							
				4 国際	体系①近代	まで								
				5 国際体系②19 世紀以降										
				6 国際関係の歴史①冷戦										
				7 国際	関係の歴史	2②冷戦後								
授	業 σ.	計	画	8 国際	的危機の管	理								
				9 国際	的危機の回	避①戦争の限定								
				10 国際	的危機の回]避②キューバ危機	を例として	i 危機	の始まり					
				11 国際	的危機の回]避③キューバ危機	を例として	ii 危機	の終結					
				12 安全	保障への脅	"威①民族紛争								
				13 安全	保障への脅	ア威②兵器の拡散と	テロリズム							
				14 国際	関係の理論	①現実主義								
				15 国際	関係の理論	②構造主義								
授	業の	留 意	点	習としては	、日常的に としては、	世界政治の動向に 講義内容をふまえて	関心を払い、	新聞等を	ておくことが望ましい。また、予 積極的に読んでおくことが必要で 整理することが求められる。					
学評	生に	対す	る価	定期試験及とする。	び小テスト	の結果に基づいて訂	評価する。酢	2点は、定	期試験を 80 点、小テストを 20 点					
				(本田) <i>ナ</i> ョ)、	講美味)ヶ	 資料を配布する。								
	^科 購入				。 神教时に	具が化配仰りる。								
	考 購入		盲	亚自母司	飯田芳弘『				E) 学教育振興会、2010 年)					

科	目		名	社会学									
				小野寺 理	 佳								
	年			1年	単位数	2 単位	開講形態	講義					
開	講	時	期	前期	必修選択	選択	資格要件						
学	習到:	達目	標	この講義では「社会学的な見方」を学ぶ。身近な社会現象をとりあげながら、私たち個人の志向や行動がいかに社会によって影響され、形成されているのかを考察する。看護・栄養・福祉・保育の専門職者にとって、社会学は、直面する諸問題を深く理解し実践に活かすために参照される学問である。「個人を規定している社会の枠組みの存在を理解し」、「そこに多様な価値観があることを知り」、「将来の実践者として、多様な個人をどのようにとらえることができるのかを考える」、この3点を到達目標とする。									
授	業の	概	要	明と理論的 講義を受け いく。また 感じ取れる	自らの経験や身の回りの現象から社会の仕組みへと思考を広げていけるように、具体的事象の説明と理論的説明をバランスよく配置しながら進める。受講者には空欄のあるレジュメを配付する講義を受けながら自分でレジュメを完成させていくことで、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピー等を配付し、さまざまな事象をより身近に感じ取れるようにする。さらに、リアクションペーパー等により自分の思考の特徴や傾向を点をし、振り返りの機会にする。								
授	業の	計	画	3社会4意思56789集見10見社111213社会	学学決決ととととるるとととははとと何何範範力力化化化のがが為為	, (1)「社会」と	び方 は何かを考える る振る舞い方を考え 割期待 きあうか 団 権力の定義 現代社会における権 は誰か マジョリティ						
授	業の	留意	点	講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心動向を考慮しながら、内容構成や順番などを調整する。テキストの内容すべてを順に取り上げることはしない。毎回の予習としてはテキストの関連個所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。									
学評	生に:	対す	る価	レポートに	 より評価す	る(100 点)。							
教 (科 購 入 <i>!</i>	必 須	書)	宇都宮京子編 やわらかアカデミズム・〈わかるシリーズ〉 『よくわかる社会学』(第 2 版) ミネルヴァ書房 2009 年									
_	考 購 入 [/]	任意	_										

科 目 名	ジェンダー	<u></u>								
担当教員名										
	2年	単位数	2 単位	問:	講 形 態	議 差				
	前期	必修選択	- ,		格要件	中学文				
	ジェンダー 決のために この講義は いく。「職場 会において	・バイアスカを発揮で社会学の一次家庭、教男性と女性「社会とし」	だけではなく、社: きることは、看護 領域という位置づい 育、地域など多くの にに異なる場所が用	会におけるさ ・栄養・福祉 けであり、ジ)場面に潜む; 意されている	まざまな ・保育の専 エンダー? ジェンダー ことの意!	「差別」の存在に気づき、その解算門職者として重要なことである。をめぐる諸問題を社会学的にみて・・バイアスを具体的に知り」、「社味とそれをもたらす社会の仕組み、べきなのかを考える」、この3点				
授業の概要	女性・男性を取り巻く社会的現実および最近の変化の様相を取り上げ、考察する。セクシャル・マイノリティについても理解を深める。空欄のあるレジュメを配付する。受講者は、講義を受けて自らレジュメを完成させることにより、重要な概念や語句を整理し理解していく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピー等を配付し、ジェンダーに関わるさまざまな事象をより身近に感じ取れるようにする。さらに、リアクションペーパー等により自分の思考の柔軟性を点検する。									
	1 はじ	めに								
	2 ジェ	ンダーとは	はなにか (1)「ジ	ジェンダー」の	とらえ方	;				
	3 ジェンダーとはなにか (2) ジェンダー概念の変容									
	4 恋愛とジェンダー									
	5 結婚・家族はどう変わったか―非法律婚のライフスタイル (1) 非法律婚とは何か									
	6 結婚・家族はどう変わったか―非法律婚のライフスタイル (2) 非法律婚が意味するも の									
	7 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) 生殖への 4 つの視点									
授業の計画	8 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (2) 自己決定権について考える									
	9 学校文化とジェンダー (1)学校という場所とジェンダー									
	10 学校文化とジェンダー (2)顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム									
	11 メディアの性役割表現 (1)マスメディアのもつ影響力									
	12 メディアの性役割表現 (2)メッセージ伝達のメカニズム									
	13 介護とジェンダー (1) 介護は誰の責任か									
	14 介護	とジェンタ	ー (2)家族と	は誰のことか						
	15 まと	め								
授業の留意点	などを調整 ジェンダー	する。テキ をめぐる最	ストは使用せずレジ	ジュメを配付て	する。予習	を考慮しながら、内容構成や順番 習としては、日頃から新聞を読み、 ースに注目しておくこと。復習と				
学生に対する評価										
教 科 書 (購入必須)	使用しない									
参 考 書 (購入任意)										

科		B		名	化学									
	当	教			小野寺 智									
学	ź	年	配	当	1年	単 位 数	2 単位		開講形態	講義				
開	Ē	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件					
学	習	到:	達目	標	理解する上	でも必要と				が、また日常生活の様々な現象を 日容を理解し、身につけ、自在に使				
授	業		概	角	化学の必要て解説する。		`とに異なること	に配慮しなが	がら、授業を	行う。主に無機化学の基礎につい				
授	業	(σ)) 計	画	1 化学を学ぶにあたって(安藤) 2 化学の基礎知識(1):原子の構造、周期表(安藤) 3 化学の基礎知識(2):電気陰性度(安藤) 4 化学結合(1):原子間結合(安藤) 5 化学結合(2):分子間結合(安藤) 6 物質の状態変化(安藤) 7 濃度(1):パーセント、密度、含有率、希釈(安藤) 8 濃度(2):モル、モル濃度、ファクター(安藤) 9 濃度(3):グラム当量、規定濃度(安藤) 10 化学反応式と計算(安藤) 11 酸と塩基(小野寺) 12 中和反応(小野寺) 13 酸化還元(小野寺) 14 酸化還元と化学電池(安藤)									
授	業	の ¹	留意	点			復習を通して、							
学評	生	(C)	対す	る価										
教 (必 須		田島眞編著、基礎からのやさしい化学-ヒトの健康と栄養を学ぶために-、建帛社									
参 (考 入	· 任 意	書)										

科	E	=	名	生物学	ż									
担	当 孝	数 員	名	山本	達朗									
学	年	配	当	1年		単位数	2 単位		開講形態	講義				
開	講	時	期	前期		必修選択	選択		資格要件					
学	習 到	達目	標	ヒトを対象とする職業を目指すにあたっては、私たちの体の仕組みを含め生物学全般に対する理解を深めることは重要である。本講義では、私たちのからだを構成する細胞、細胞内で起きている代謝や遺伝子発現、そしてそれら細胞が集まり構成される組織や器官が関わる個体調節や生体防御などの機構について学ぶ。本講義を通じて生命の不思議さや生命活動の複雑さを理解してほしい。										
授	業(7) 概	要	謝、遺 に関す ヒトの	最初に、生物学の基礎的な事項について学ぶ。細胞の構造、細胞を構成する物質、細胞内での代謝、遺伝と DNA、遺伝子発現、細胞増殖そして発生および分化などについて学ぶ。後半では、ヒトに関する事項について学ぶために、組織学、器官、ホルモン、神経系、免疫について学ぶ。また、ヒトの疾患等に関わる領域として、微生物、ガンを取り上げ、さらにそれらを含めた治療に用いられるバイオテクノロジーの解説を行う。									
授	業(D 計	画	10 11 12 13	細生栄 DN 遺細生体体体神生微胞物養 G 伝胞殖をを内経体生	子発現のメ死と細胞増から発生の構成する性の系の側がです。	物質 の代謝 伝のメカニズ カニズム 対値の仕組み の過程と細胞分 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	化について	, de la constant de					
授	業の	留意	京点	資料を	·配布 [·]	するので、	配布資料の整	理につとめるこ	こと。					
学評	生に	対す	ーる 価	定期試	、験(100 点)で	評価する。							
教(購入	^斗 必須	書()	医療•	看護:	系のための	生物学(田村)	隆明著、裳華原	房)					
参 (₇ 購入	考 任	書											

科		目		名	4 生命科学									
				_	林 要喜知									
	年				2年	単位数	2 単位		開講形態	講 義				
					 前期	必修選択	- 1 1		資格要件	HT-4-X				
学	習到	〕達	目;	標	授業目標:現代社会に生きる私達は様々な観点から生命科学と関わりを持つようになっているか本科目では、ヒトの遺伝のしくみ(人類遺伝学)や遺伝性疾患を学習し、それらの概要を説明きることを目標とする。 受講者の到達目標:遺伝や遺伝病に関わる問題を正しく理解した上で、それらの知識を看護、養、社会福祉などの分野に応用する能力を養う。									
授	業(ග :	概:	要	遺伝現象や遺伝学に関わる歴史的な出来事を発見の順で学び、人類遺伝学の概要を理解する。次に、ヒトの遺伝現象や遺伝病を例にして、個々の遺伝様式を詳しく学ぶ。さらに、遺伝病をもつ患者や家族への理解を深めつつ、生命倫理的な問題の具体例を学ぶ。									
授	業(o ·	計 │	画	2 遺遺遺人人人人人人人分生 11 12 13 14	学学遺遺遺遺遺遺遺遺生偏め。基基学学学学学学学学学学学学):遺伝現象の理): DNA、遺伝子): メンデル遺伝 を礎①: ヒトの遺伝 を礎②: 常染色色 を礎②: X 連 針コン を礎④: 本細胞遺 を礎⑥: 本色体 を礎⑥: 染色体 を破⑥: 染色体 を破⑥: 染色体 を破⑥: 染色体 を破⑦: 染色体 を破⑥: といる	理解に必要な解、、染身に必要な性をといる。 を性は、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないで	地胞分裂や減係を理解する。の遺伝を理解現場では、の遺伝をは、の質性の変化をは、のないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	について学ぶ。 遺伝について学ぶ。 について学ぶ。 について理解を深める。 学ぶ。 ついて学ぶ。				
授	業 の	留	意。	点						関連した内容に関する質問は、講 : yokichi@asahikawa-med.ac.jp				
学 評	生に	対		る価										
教 (購入	科 、必		書)	教科書は使用しない。									
参 (購入	考 、任			参考書として、エピジェネチクス (岩波新書)、ヒトの遺伝 (岩波新書)、遺伝医学の招待 (南江堂)、生命と環境 (三共出版) などの自学自習を推奨する。									

科	E	1	名	生態学								
担	当 教		名	佐藤 冬樹								
学	年	配	当	1年	単位数	2 単位		開講形態	講義			
開	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件				
学	習 到	達目	標	名寄市のある北海道北部は、寒冷で多雪であるという国内では他に類を見ない自然条件を持っている。このような厳しい環境のもとで多様な生物群集が成立しているが、それらは日本よりもとしろシベリアや北米などの大陸に近い要素を持っている。この講義では、私たちの生活の基盤となる北海道北部を例にとり、自然環境の成り立ち、生物集の構成、生活様式などを学ぶとともに、それらを統合した生態系の構造と機能についての理論を深めることをねらいとする。								
授	業 σ.)概	要						立大学研究林の森林を利用し、研究 のための方策についての討論もおこ			
授	業 σ.) 計		2 景 自 植 森 鳥 大 水 水 物 生 人 人 生 13 14 14	の環ののの動生工の系活活系成境特特物物ネ流の動動機のかれれ利のの能ががれれれがのの能	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		の生態系				
授	業の	留意	点	での講義と がらの集中 宿泊施設の	ともに、デ 講義形式と 収容人数の	ーマを設けた。 なるので、それ	グループ学習* いにかかる費用 者数には制限	も行う。この 引 (5,000 円程	となる。フィールドや研究林庁舎 授業の大部分は研究林に宿泊しな 程度) は履修者から徴収する。また、 がある。履修希望者が定員を超過			
学評	生に	対す	る価	レポート (80点)、打	受業態度(20	点)を加味し	て評価する。 				
教(^科 購 入	↓ 必 須	書)	テキストは	使用しない	` °						
参 ()	購入	; 任 意	書)									

				Γ										
科	E	1	名	地球環境科	学									
担	当 教	女 員	名	程木 義邦										
学	年	配	当	1年	単位数	2 単位	開講形態	講義						
開	講	時	期	前期	必修選択	選択	資格要件							
学	習 到	達目	!標	本的な理解	環境科学という学問分野の全体像、地球規模および身の回りで起きている環境問題についての基本的な理解と知識を習得することを目標とする。									
授	業 0)概	要	有害物質を た、森林伐 く悪化させ	近代科学の発展は、人間の生活に利便性と経済的な豊かさをもたらしたが、自然界に存在しない 有害物質を生み、地球・地域規模の循環システムで処理しきれないような負荷をもたらした。ま た、森林伐採や海岸の埋め立てなどの大規模開発による環境破壊と併せ、人間の生存環境を著し く悪化させてきた。本講義では、地球規模・地域規模の環境問題について、自然科学・人文・社 会科学的視点から概説を行う。									
				1 環境	科学序論:	環境問題とは?								
				2 環境	と科学の歴	・	環境変化							
				3 環境	と化学:化	2学物質と環境(1)								
				4 環境	と化学:化	ご学物質と環境(2)								
				5 地球規模の環境問題(1): 地球温暖化(1)										
				6 地球規模の環境問題(1): 地球温暖化(2)										
				7 地球規模の環境問題 (2):オゾン層の破壊と紫外線到達量の増加、生物への影響 (1)										
				8 地球規模の環境問題 (2): オゾン層の破壊と紫外線到達量の増加、生物への影響 (2)										
1777	م علاد	. =1	_	9 地球規模の環境問題 (3):酸性雨による森林・湖沼への影響										
授	業 0)計	画	10 地球	規模の環境	問題(4): 砂漠化								
				11 保全	生態学(1):なぜ、自然を守らな	ければならないの	ひか?						
				12 保全	生態学(2):地域的な開発による	環境影響							
				13 環境	を保全する	ために(1): 環境保全	と開発に関する	法制度とその問題						
				14 環境	を保全する	ために (2): 市民活動	の歴史。合意形成	成の重要性と科学者・行政の使命						
				15 環境	を保全する	ために(3): 環境にや	さしい生活の実践	践						
授	業の	留意	点	ニメロロ・レッフ・				を取り扱う。なるべく分かり易く 一ネットでの検索など)を行うこ						
学評	生に	対す	ーる 価	講義の最終 授業参加態	講義の最終時限に小テストを行う。授業参加態度とテストの点数で成績評価を行う。 授業参加態度 40 点、小テスト 60 点									
教(^利 購入		書()	テキストは特に使用しない。講義時に資料を配布する。										
参 (<i>≱</i> 購入	_	書	特に無し。										

科	E	1	名	地域社会論								
担	当者	女 員	名	小野寺 理信	<u>±</u>							
学	年	配	当	2年	単位数	2 単位		開講形態	講義			
開	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件				
学	習 到	達目	標						と会の特色を把握し、教員や援助職 を到達目標とする。			
授	業 <i>0</i>)概	要	本講義は2部構成とする。2~6回は、地域問題のひとつとしての教育問題に注目し、教育をめくる諸問題を、現代社会、地域社会が抱えている多様な問題と関わらせながら考察していく。続く2~14回は、学説史を踏まえながら、農村や都市等のかたちや現代社会における地域の課題について具体的に学んでいく。教育職・援助職として地域社会を把握する必要がなぜあるのか、保健福祉と結びつけながら講義を展開する。								
				1 はじ	めに							
				2 教育	問題から地	域社会を見る	〈仕事と若者	·>				
				3 教育	問題から地	域社会を見る	〈若者のアイ	デンティティ	\rangle			
				4 教育問題から地域社会を見る〈エスニシティと教育〉								
				5 教育	問題から地	域社会を見る	〈子育てとし	つけ〉				
				6 教育	問題から地	域社会を見る	〈いじめと不	登校〉				
				7 地域	社会の実態	と課題を探る	〈農村社会	1 制度とし	てのムラ〉			
				8 地域	社会の実態	と課題を探る	〈農村社会	2 農村文化〉				
授	業 0) 計	画	9 地域	社会の実態	と課題を探る	〈都市社会	1 都市とは	可力4〉			
			订 凹	10 地域	社会の実態	と課題を探る	〈都市社会	2 都市とエ	スニシティ〉			
				11 地域	社会の実態	と課題を探る	〈住民運動〉					
				12 地域	社会の実態	と課題を探る	〈福祉のまち	づくり〉				
				13 地域	社会の実態	と課題を探る	〈ソーシャル	キャピタル〉				
				14 地域	社会の実態	と課題を探る	〈北海道の地	域社会〉				
				15 おわ	りに							
授	業 の	留意	点	とがある。そ	毎回レジュ を提示する	メを配付する他 場合がある。 5	也、必要に応	じて、当該テ]を考慮して内容構成を変更するこ ーマに関わる論文や資料を配付す なて事前に関係する文献等から学習			
学評	生に	対す	る価	レポートに、	より評価す	る(100 点)。						
教()	購入	^抖 必 須	書()	使用しない。								
参 ()	<i>‡</i> 購入	_	書()	「新版キーワード地域社会学」(地域社会学会編、ハーベスト社、2011 年) 「地域の社会学」(盛岡清志著、有斐閣アルマ、2008 年)								

科	E		名	北海道の地域資源									
担	当 教	7 員	名	石川 貴彦・関 朋昭・荻野 大助・小古間 甚一・古牧 徳生・加藤 隆									
学	年	配	当	2 年 単位数 2 単位 開講形態 講義									
開	講	時	期	通年 必修選択 選択 資格要件									
学	習到	達目	標	地域社会を支える様々な資源(自然環境・施設・文化・人など)への理解を通して、現在やこれからの地域課題や振興策への関心を高め、地域に学ぶ人材として、積極的に解決に関わろうとする意欲を育むことを、この講義の到達目標とする。									
授	業 <i>0</i> .) 概	要	道北地域にある地域資源を活用し、学生自らが地域に対する理解を深め、現在、そしてこれからの北海道の地域形成のあり方について考える。具体的には、なよろ市立天文台きたすばる等の名寄近郊の施設に訪問し、施設見学や職員講話を通して、地域文化の享受や保全、地域振興などの方策を学び、地域に積極的に関わる態度を身につける。									
				1 ガイダンス(石川)									
				2 なよろ市立天文台きたすばるでの講義・施設見学(石川) ※夜間集中開講									
				3 なよろ市立天文台きたすばるでの講義・施設見学(石川) ※夜間集中開講									
				4 村上春樹作品から見た北海道の地域資源活用(関)									
				5 士別市世界のめん羊館での講義・施設見学(関)									
				6 士別市世界のめん羊館での講義・施設見学(関)									
				7 鉄道遺産からみた北海道の地域資源活用(荻野)									
授	業 σ.	計	画	8 キマロキ、北国博物館での講義・施設見学(荻野) ※土曜集中開講									
				9 キマロキ、北国博物館での講義・施設見学(荻野) ※土曜集中開講									
				10 なよろ健康の森でのパークゴルフ体験(小古間) ※土曜集中開講									
				11 なよろ健康の森でのパークゴルフ体験(小古間) ※土曜集中開講									
				12 名寄市内の寺社巡り(古牧)									
				13 名寄市内の寺社巡り(古牧)									
				14 教育という視点から見た地域資源(加藤)									
				15 講義のまとめ・地域資源の活用策について考える(石川)									
授	業の	留意	点	訪問する施設によっては一部集中開講になるので、日程を各自確認しておくこと(例えば、天文台は開館時間の都合上、夜間開講になる)。また、施設までの移動に用いるバスの乗員数や、施設の収容人数の都合から受講者数を25人程度とし、定員を超過した場合は抽選により履修者を決定する。なお、施設の入館料や道具等のレンタル代は自己負担となる。									
				受講態度およびレポート課題 (100 点) によって評価する。									
学評	生に	対す	る価										
				使用しない。									
	杉 購 入	∤ 必 須											
				使用しない。									
参 (考 購入	; 任 意	_										

科		目		夕	北海道の野外レクリエーション								
		1 教 —— 年			Martin Mea 2年	dows 単位数	2 単位		開講形態	宝技			
		講			前期	必修選択			資格要件	<u> </u>			
					北海道の自	 然の豊かさ 合うことで	を理解する。 見えてくる自分 」から自由にな	 }自身を発見す	-る。	0			
授	業	も の	概	要			沼などでカナラトを使用して宿		ーを実践し、	道北の山を自分の足で登ります。			
授	業	ا	計	画	階で 1日 2日 3日 4日	は提示でき 目 — 和寒南 目 — 和寒南 目 — 大雪山 目 — 渓流鉄	ない。が、例4 丘森林公園でた 「丘森林公園から 「でハイキング	∓のプログラ <i>♪</i> フナディアンカ ら愛山渓温泉∽	ムを参考に載 フヌーの基礎: へ移動	-			
授	業	の f	留意	点	食料費など 個人に関わ	1万円程度 る装備品は	員を 22 名まで の出費が求めら 、可能な限り 催するので、履	られる(昨年度 自分で準備する	度は約9,000 。	円)。			
学評		(C 3	対す	る価	受講態度(80 点)およ	こびレポート(2	20 点)を採点(の対象とする				
			必 須		使用しない								
_		_	壬意										

科	E	1	名	北海道の農	と食								
担	当教	女 員	名	今野 聖士									
学	年	配	当	2年	単 位 数	2 単位	開講形態	講義					
開	講	時	期	前期	必修選択	選択	資格要件						
学	習 到	達目	標	の不断の努力	①北海道農業の現状、とりわけ北海道農業を担う各主体の役割を理解する。②農と食が様々な人々の不断の努力によって支えられていることを理解し、北海道の農と食の今後のあるべき姿を論じることができる。								
授	業 の)概	要	道農業の特 なる様とでは は を は は は は に は に は に に は に る ま き が り に る に り に り に り に り に り に り に り に り た り た し た し た し た し た し た し た し た し た	北海道は日本の「食料基地」と呼ばれ、私たちの食生活で大きな役割を担っている。現在の北海道農業の特徴とその問題点を、とりわけ北海道農業を担う各主体の役割(農家や農協、地方自治体など)から理解できるよう講義展開を行う。また、普段何気なく食べている「食」がそれを支える様々な人々の不断の努力で支えられている事を理解出来るよう、座学だけでなく、実習や講演を通じて体験的に学習する。 具体的には、・1回完結型の講義を行い、北海道農業の特徴を理解する。・名寄市内の農家で実際に農作業体験実習を実施し、地域農業・産業としての農業の特徴等について理解を深める。・農や食を支える各主体の担い手に講演をして頂き、その役割や苦労について理解を深める。・生産者と交流を持つことで、生消の相互理解を推進し、今後の消費者のあり方を考える。								
授	業 <i>0</i> .) 計	画	2 農農機 農農農農 5 6 7 8 農農 10 農農 11 12 農農 13 14 生消	業食を食業業道食業業食交体のとの体体農の体体の流験担り担験験業担験験担・実いま実い反っていまにのできまれる。	①田植え・春作業 ②アスパラ収穫など による講演会① 状況(通常講義) による講演会② ③ は種・管理作業 4 除草・管理作業 を付の現まと課題(通常講義 をはよる講演会③ ⑤ 整枝・収穫 6 調整・収穫 による間を重理解の推進 公会② 生消協働)						
授	業の	留意	点	平 正 正 正 一 主 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二	講演者のスケジュールの都合上、通常開講とは異なる時間帯・曜日に開催することがある。 農作業体験実習は名寄市内農家にて3回・各3時間程度(各回2コマ分相当)行う。通常講義と は異なる時間展開・準備が必要となる事がある。詳細は初回の講義時等に指示する。								
評			価	農作業体験実習ごとの実習レポートで計 60 点、講演ごとの講演レポートで 30 点、通常講義の質問票 10 点、の計 100 点で配点し評価する。									
教 (^科 購入			使用しない。	。毎回資料	を配付する。							
参 (購入	_		必要があれ	ば講義の中	で別途指示する。							

科	E		g .	感染微生物学										
				大見 広規										
	年			2年	単位数	2 単位		講形態	講義					
				前期	必修選択			格要件	H1170/2					
	習到:			ヒトに疾病を起こしうる微生物について、感染ということ、感染成立の 3 要素、感染予防としての手洗い・消毒・滅菌・スタンダードプレコーション、化学療法、薬剤耐性、Compromised host、院内感染、免疫・アレルギーを理解するほか、重要な各種の細菌・ウイルス・真菌・原虫・寄生虫の感染症の症状、予防、治療方法を習得する。										
授	業の	概	要	指定するテ 示す。	指定するテキストに沿って解説する。また、必要な追加の説明を印刷物やプレゼンテーションで示す。									
授	業の) 計	画	2 3 4 5 6 7 8 9 10 7 11 12 12 13 14 14	症予防のた 学総論、ク 菌感染症、 ム陰性球特 ルスウイル ミクソウチ ミクス感染症	がの公衆衛生 ブラム陽性菌感染症 グラム陰性球菌感 対菌感染症、スピロ は、ポックス・ヘル ス感染症 ・ブド・フィロ・レ に ロウイルス感染症、 は は は は は は は は は は は は は	染症 ヘータ感染症 パス・アデ パス・カリシ	ノ・パピロ ・ピコルナ	細菌感染症 ーマ・ポリオーマ・パルボ・オル ・フラビ・トガ・ブニヤ・アレナ ーウイルス感染症、プリオン病、					
授	業の	留意	点	せて実施す	る。講義の	· -	問題集を配る	ちする。 ま	プレゼンテーションなどを組み合わた、論述式の復習問題の提出を求から出題する。					
学評	生に	対す	る価	期末試験(100点満	点)で評価する。								
	料購入		書)	小田 紘 著「ビジュアル微生物学 第2版」(ヌーヴェル・ヒロカワ)										
参 (考 購 入		書)	西條政幸「微生物学 パワーアップ問題演習」医学芸術新社 森尾友宏 他「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」メディック メディア										

科	E	1	名	公衆衛生学									
担	当 教	女 員	名	荻野 大助									
学	年	配	当	1年	単位数	2 単位	開講形態	講義					
開	講	時	期	後期	必修選択	必修	資格要件						
学	習到	達目	標		公衆衛生学の基本的概念を学び、今日的課題についても、衛生行政および各種保健活動とも関連 させながら理解を深める。								
授	業 <i>0.</i>)概	要	公衆衛生学は、人を社会生活者と捉え、社会や環境との関連から人の健康障害の原因を明らかにし、健康を保持増進し、疾病・障害を予防し、すべての人がよりよく生きる社会の実現に寄与する学問である。授業では、まず、健康の概念、公衆衛生の目的について述べ、健康に関連する要因(宿主要因、環境要因、病因)と病気の発生、特に、どのような環境およびライフスタイル(栄養、運動、休養、喫煙、飲酒など)が生活習慣病を引き起こす危険性(リスク)を高めるのかについて説明する。さらに、健康指標としての各種の保健統計、健康増進施策、少子高齢化や国民医療費などの今日的課題について、衛生行政および各種保健活動とも関連させながら理解を深めてもらう。									
授	業 σ .)計	画	1 公衆衛生の歴史(日本と外国) 2 疫学の基本事項 3 健康水準・健康指標と衛生統計 4 感染症とその予防 5 食品衛生と衛生管理 6 生活環境(衣服と住居,水道,廃棄物) 7 医療制度(行政,資源,医療費) 8 地域保健(保健所と市町村保健センター) 9 母子保健(母子保健事業,少子化対策) 10 学校保健 11 生活習慣病 12 難病と精神保健 13 産業保健(労働衛生) 14 健康危機管理(災害と健康)									
授	業の	留意	点			… はする重要な事柄が、それそ ではなく、きちんと内容を		全習において頻出する。ただ単にキ 努めることが大事である。					
学評	生に	対す	る価										
教(清水忠彦、佐藤拓代 編『わかりやすい公衆衛生学 第4版』ヌーヴェルヒロカワ 厚生統計協会編『厚生の指標・国民衛生の動向』厚生労働統計協会(2018/2019年) (購入必須)												
参()	購入	_	書)										

				ه خبروا مالس هميو				1					
科	<u> </u>		名	医療概論	-								
				大見 広規		0 W H.	DD =# #/ 46 =						
_	年			3年	単位数		開講形態	革 義					
開	講	時	期	後期	必修選択		資格要件						
学	習到	達目	標	社会福祉士・精神保健福祉士として実地で役割を果たすためには、生体としての人の解剖生理学的な仕組み、各種疾病の原因・発症機序、病態生理、症状・合併症、検査・診断法、治療法の基礎、疾病についての基礎的な医学的知識、疾病によって失われた機能を補償する保健医療福祉制度、を習得しておく必要がある。本講義では、医療現場における福祉職の基礎的な医学的知識の獲得を目標とする。									
授	業 <i>0</i> .) 概	要	人体の構造・機能、疾病・障害および福祉政策、関連法制度について解説する。									
				1 人の	の成長・発達								
				2 人の	の老化								
				3 身体	本構造と心身	vの機能(1): 細胞、体液	、免疫						
				4 身体	本構造と心身	′ の機能(2): 神経							
				5 身体	本構造と心身	vの機能(3): 感覚器、筋	'肉						
				6 身体	本構造と心身	′ の機能(4): 循環器							
				7 身体									
				8 身体									
授	業 の	計	画	9 疾病の概要(1):生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患、高血圧									
				10 疾病の概要(2):糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と謬原病									
				11 疾病の概要 (3): 腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症、神経疾 患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾患、終末期医療と緩和ケア									
				12 障害の概要(1): ICF、視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由、内部障害、知的 障害、高次機能障害									
				13 障害の概要 (2): DMS、発達障害、認知症、精神障害									
				14 リハビリテーションの概要									
				15 健康のとらえ方									
授	業の	留意	点		構義資料を中 問題から出題		の際に問題集と後	复習問題を配布する。試験は問題					
学評	生に	対す	っる 価	定期試験1	.00 点								
教(^科 購入		書 į)			集委員会編集「人体の構 の指標・国民衛生の動向。		「」 中央法規出版株式会社 1 年次の公衆衛生学で使用したも					
参 (購入	-	書	社会福祉士 吉岡利忠、 田中明、宮 社 田中明、宮 の成り立た	:・精神保健 内田勝雄編 宮坂京子、藤 宮坂京子、藤 ら」羊土社:		クブック 共通科 第2版」中央法規 ストレイテッド ストレイテッド ます。	目 中央法規					

科	E	1	名	食生活論									
担	当 教	女 員	名	黒河 あお	黒河 あおい								
学	年	配	当	4年	単 位 数	2 単位	開講形態	講義					
開	講	時	期	後期	必修選択	選択	資格要件	保育士:選択					
学	習 到	達目	標	幼児・児童・生徒の生活環境に適した食教育実践および学習的効果を引き出すため、食生活の意 遷や現状について理解を深め、食文化に関する知識を修得する。									
授	業 0)概	要	前半は既存資料をもとに食生活の変遷現状および 幼児・児童・生徒の栄養・食活状況を把握し、 家庭の食事や学校給食変遷を確認する。後半は日本における食文化を概観し、地域家庭の食事や 学校給食の変遷を確認する。									
授	業 0) 計	画	1 日本における食生活の変遷 2 日本における食生活の現状 3 全国調査にみる幼児児童生徒の栄養・食活状況 4 地域における幼児児童生徒の栄養・食活状況 5 家庭食の変遷 6 学校給食の変遷 7 日本の食文化 8 地域の食文化 9 地場産物と食に関する指導 10 地場産物と給食① 11 地場産物と給食② 12 演習①関心のある地域の地場産物を食べる 13 演習②給食における地場産物の活用を考える 14 演習③食に関する指導における地場産物の活用を考える 15 演習④地場産物についての発表、レポート提出									
授	業の	留意	点			広く関心をもって授業		評価する。					
学評	生に	対す	る価										
	金田雅代編著『栄養教諭論-理と実際3訂』建帛社、2009年 文部科学省『食に関する指導の手引-第一次改訂版』東山書房、2010年 文部科学省『小校習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年 文部科学省『中校習指導要領〈平成20年3月告示〉』東京書籍、2008年												
参 ()	購入	き 任 意	書)										

科	E		名	子どもの権	 利								
担	当 教		名	松倉 聡史	・田中 利	 宗							
学	年	配	当	3年	単位数	2 単位		開講形態	講義				
開	講	時	期	後期	必修選択	必修		資格要件					
学	習 到	達目	標	学習到達目標を①子どもの権利とは何かを理解すること、②子どもの権利の歴史的展開を理解すること、③子どもの権利条約の制定過程と子どもの意見表明権の法的性格を理解すること、④学校における子どもの権利としていじめの事例を考察すること、⑤児童福祉の相談・救済のあり方を理解することとする。									
授	業 σ)概	要	国際連盟は 1920 年に「子どもの権利宣言」(ジュネーブ宣言) において「子どもの最善の利益」を与えるべきことを宣言し、国際連合では 1989 年に「子どもの権利条約」が制定された。「子もの権利条約」を基礎に子どもの虐待、障害児差別、在日外国人の子どもの差別、いじめと人材教育を通して子どもの人権を考察する。									
授	授業の言		画	2子ど3子ど4子ど5子ど6子ど789在10児童	もの権利条 もの権利条 もの権利条 もの虐待 児差別と子 外国人と子 めと教育 福祉と相談								
				13 児童 14 児童 15 児童	福祉と相談 福祉と相談 福祉と相談	・救済(3)・救済(4)・救済(5)							
授	業の	留意	点						、個別的な分野における子どもの」に自己の見解を形成していく態度				
学評	生に	対す	る価	授業参加態度 (30 点)、レポート試験 (70 点) で総合的に評価する。									
教(^科 購 入	↓ 必 須	書)	参考図書として、[逐条解説] 喜多明人編著「子どもの権利条約」(日本評論社) などからプリント配布をする。その他、適宜、必要な文献を紹介しつつ、プリント配布をする。									
参 ()	購入	; 任 意	_										

科	E		名	人権と法								
担	当 教	【 員	名	松倉 聡史								
学	年	配	当	2年	単位数	2 単位	開講形態	講義				
開	講	時	期	前期	必修選択	選択	資格要件					
学	習 到	達目	標	こと、②「 に人間の本 基本とし、 らず社会権	学習到達目標として、①人権を人間の尊厳性という根拠から導かれることの意義と考察を深めること、②「基本的人権の尊重」という法学的な定義に対する見解を考察すること、③人権は第一に人間の本質たる人格性にもとづく、前国家的・生来的権利であり、第二に自由権であることを基本とし、第三に個人権であり、自然人に帰属する権利であることを理解する、④自由権のみならず社会権も基本的人権とすることの根拠を理解する、⑤人権の分類と体系を理解すること、⑥人権の歴史的展開や国際社会における人権を理解することとする。							
授	業 σ.	概	概要 ①世界の人権の歴史的展開をたどり、日本における人権の軌跡を探っていく。②明治憲法下権の特徴と日本国憲法の基本的人権と分類を探る。③国際法における人権分野と国連の働きえる。④生活の中の人権を考え、21世紀の人権のあり方を考える。									
授	業 σ.) 計	画	2基本3456678910子女具具11121314142	の人権の歴 の人権の の人権の の人人 を権の の人人 を権の のの をもらい を を を を を の を もの を もの の もの を もの を もの を	算重の根拠 としての位置づけ 歴史的展開(1) 歴史的展開(2) 歴史的展開 ける人権 マイノリティー集団の権利 へいかの制定経過と特徴 (2) 生命倫理と人権 種とは何であったか・・・単	3争と平和の問	引題を考える				
授	業 の	留 意	点			☆視点から理解することを基 ・事例における問題点を探っ		ら、世界および日本における歴史的 」を養うことに力点を置く。				
学評	生に	対す	授業参加態度 (10 点)、リアクションペーパー (20 点)、レポート試験 (70 点) で総合的に評る る。									
	_科 購入	↓ 必 須		必要な資料	を配布して	、参考文献を紹介していく	0					
参 (購入		書)									

科	E		名	家族社会学										
担	 当		名	小野寺 理										
学	年	配	当	1年	単位数	2 単位		開講形態	講義					
開	講	時	期	後期	必修選択	必修	Ī	資格要件	保育士:選択					
学音	習到:	達目	標	護・福祉・ すために参 解する力を 察し」、「多	保育の専門 照される学 身につける 様な家族観	職者にとって、家 問である。自らが ために、「現代家族	族社会学は 関わる人々 実の成立の原	は、直面する の背後にあ 歴史を知り」	に大きく影響を受ける。栄養・看 の家族問題を深く理解し実践に活か のる多様な家族関係・家族生活を理 、「家族をめぐる日常的な現象を考 可かを考え、自分の家族観を相対化					
授	業 σ)概	要	めるものも。 な視角から 自らレジュ 関連する雑	社会そして家族集団において人々は多様な立場におかれ、立場によって家族の見え方も家族に求めるものも異なる。この授業においては、身近で具体的な事柄を取り上げながら、家族事象を様々な視角からとらえることを学ぶ。受講者には空欄のあるレジュメを配付する。講義を受けながら自らレジュメを完成させていくことにより、自分の問題意識を深めていく。また、必要に応じて関連する雑誌記事のコピーなどを配付し、家族に関わる様々な出来事をより身近に感じとれるようにする。さらに、リアクションペーパー等により自分の思考の柔軟性を点検する。									
授	業 <i>の</i>) 計	画 画	2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 生生生生13 13	とと家家家家にに補補補技技はは族族族族球求助助助術術のののめめ医医医ととといる。とは揺揺るる療療療市市	の (1) 家族に の (2) 自由と おける親子関係 おける親子関係	という語ののを変選何選のという族徴をないまで、おいるのでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、このでは、こ	記想 は は は は は は は は は は は は は						
授美	業の	留意	点	講義予定は上記の通りであるが、進行状況や受講者の関心動向を考慮しながら、内容構成や順番など調整する。テキストの内容すべてを順にとりあげることはしないので各自で学習すること。近代家族の成立とその変容に関する基本的な流れを頭に入れること。毎回の予習としてはテキストの関連個所を読んでおくこと。復習としては、レジュメや配付資料を見直し、テキストの該当箇所を読むこと。										
学生	学生に対する (100 点)。 評 価													
神原文子・杉井潤子・竹田美和 編著 教 科 書 (購入必須) 『よくわかる現代家族』[第 2 版] ミネルヴァ書房 2009 年														
参(貝	考 購入·		_											

科	E		名	社会福祉概論										
担	当 教	7 員	名	清水 冬樹										
学	年	配	当	1年	単 位 数	2 単位	開講形態	講義						
開	講	時	期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士:必修						
学	習 到	達目	標	 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷が説明できる。 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 社会福祉の対象がどのように規定されてきたのかを理解する。 社会福祉の担い手とは一体誰なのかを理解する。 										
授	業 σ.) 概	要	>	現代社会における社会福祉の位置付けについて、専門職の視点だけでなくサービスを利用する側からどのように見えているのか、当事者性を手がかりに授業を展開する。									
授	業 σ.) 計	田	1 イントロダクション: 社会福祉とは何か(保育と社会福祉) 2 児童家庭福祉(1)大人になるとは 3 障がい福祉(1)障がいとは何か 4 障がい福祉(2)理念について 5 障がい福祉(3)差別の観点から 6 障がい福祉(4)サービスの観点から 7 障がい福祉(5)保護者支援の観点から 8 障がい福祉(6)法律について 9 低所得者の福祉(1)生活保護と就学援助 10 低所得者の福祉(2)ホームレス支援 11 高齢者の福祉 12 社会福祉と多文化 13 社会福祉の歴史(1)日本と世界の福祉 14 社会福祉の歴史(2)差別と隔離の観点から										
授	業の	留意	点	最初はとて せん。質問 スカッショ	も難しく感 等を積極的 ンの時間を テキストを	じることが多々あんにして、教員と一般 おけたいと考えてい	ると思います。授業の 緒に理解していく姿勢 います。	いくべきものなのですが、おそらく D受けっぱなしではまず理解できま 内で臨んでください。なるべくディ ています。目を必ず通しておくよう						
学評	生に	対す	る価	講義中に課	すレポート	40 点と期末に課す	レポート 60 点を加明	そして評価をします。						
	教 科 書 (購入必須) 岩崎信也,稲沢公一(2014)『社会福祉をつかむ 改訂版』有斐閣													
参 (購入			古川孝順(2012)『社会福祉の新たな展望』ドメス出版 金子光一(2010)『社会福祉のあゆみ』有斐閣 岩田正美ら(2008)『社会福祉の思想と原理』有斐閣 古川孝順,金子光一(2009)『社会福祉発達史キーワード』有斐閣 東洋大学福祉社会開発研究センター(2011)『地域におけるつながり・見守りのかたち』中央法規 その他は授業の中でその都度紹介をさせていただきます。										

科	E		名	社会保育論									
				中西 さや	か・山野	 良一							
	年			3年	単位数			開講形態	講義				
開	講	時	期	前期	必修選択	必修		資格要件	保育士:選択				
学	習到:	達目	標	社会的な視との意義を		てや保育をめぐる	る諸問題につ	ついての理解	gを深め、社会で子どもを育てるこ				
授	業の)概	要	の歴史的変 の貧困問題	「保育の社会化」あるいは「社会的な保育」とはどのようなことかを学ぶ。子育て文化についての歴史的変遷や国際比較、現在の子育てを取り巻く環境の変化や、深刻化する子どもとその養育者の貧困問題など、社会科学的な視点から保育を論じる。また、先進事例を取り上げながら、子ども自身の育ちという視点からも、社会で保育を行うことについての積極的意義について学ぶ。								
授	業 σ.) 計	画	1 オリエンテーション:社会で子どもを育てるということ(担当:中西) 2 子育て文化の歴史的変遷(担当:中西) 3 子育て環境の変化と子育ての社会化(担当:中西) 4 多様化する保育ニーズと子どもの育ち①長時間保育(担当:中西) 5 多様化する保育ニーズと子どもの育ち②多様な保育サービス(担当:中西) 6 子どもの育ちを支える様々な専門職の連携(担当:中西) 7 保育における学力保障問題一諸外国の事例検討(担当:中西) 8 子どもの視点から考える子育で・保育の社会化(担当:中西) 9 社会保育とは何か(担当:) 10 少子化1:ジェンダー・母性論と保育(担当:) 11 少子化2:労働問題と保育(担当:) 12 子どもの貧困(担当:) 13 子どもの貧困と保育(担当:) 14 子育ての社会保障(担当:) 15 まとめ:保育の社会的意味を考える(担当:)									
授	業の	留意	点						を心がけておいてほしい。				
学評	講義時の小提出物 20 点、レポート 80 点により評価する。 学生に対する 評 価												
教(科 購 入 :	↓ 必 須		講義時に資料等を用意する。									
参 (考 購 入 ·		書)										

科 目 名	保育システム論								
担当教員名									
学年配当	4年 単位数	2 単位	開講形態講義						
開講時期	前期 必修選択	必修	資格要件						
学習到達目標	体験的・能動的な学びにより、現状の保育システム制度の歴史的変遷、現状、課題、将来的な方向等を論理的、客観的に明らかにすることができる。								
授業の概要	本講義では、保育をめぐる状況の変化から保育システム変動の時期を迎えている現在の状況をまえ、保育政策・制度などの視点から、保育システムの歴史的変遷と現代の動向および課題にいて学び、考察する。また、諸外国の制度・政策を視野に入れ、我が国の保育制度・政策にての検討も行う。								
授業の計画	第2回 増える共 第3回 子どもの 第4回 保育ニー 第5回 保育ニー 第6回 保育制度 第7回 前半のま 第8回 システム 第9回 システム	論と保育(1)市場主義的ア 論と保育(2)社会サービス 子育て新制度の歴史的変遷 子育て新制度の現状 子育て新制度の課題 育システム	制度導入の背景プローチ						
授業の留意点	日頃から、子ども・うい。	- 育て新制度をめぐる動向や「	問題に目を向けることを心がけておいてくださ						
学生に対する評 価	・定期試験の成績:70・毎講義時の小レポー)点(講義の理解度、論述に ·ト:30 点	おける論旨を評価する)						
教 科 書 (購入必須)	講義時に資料等を用意する。								
参 考 書 (購入任意)									

科	E	l	夕	保育経営論									
				小尾 晴美									
	年			4年	単 位 数	2 単位		開講形態	講 義				
開				前期	必修選択			資格要件	nii aza				
				現在の保育 し、子ども また、子ど ミュニケー ジェンダー	現在の保育施設に求められる役割や、関連する制度など、保育施設をめぐる構造的な背景を理解し、子どもや保護者にとってよりよい保育を作るための施設運営に必要な知識を獲得すること。また、子どもの保育に携わるうえでも、組織や集団を運営していくためにも、多様な人々とのコミュニケーションが欠かせない。そのため、自分と異なる人間の多様な生き方や価値観(世代・ジェンダー・障がいなど)に対する理解と共感を持つこと。また、多様な個性からなるメンバーみんなにとってよりよい保育を作るために必要な知識やノウハウを獲得すること。								
授	業 σ	、概	要	の授業では 育ニーズの	、保育環境 分析、各園	を保証する安定 の保育の根幹と	した経営、他 なる保育方針	1種企業でも ト・計画の策	のあり方にも大きく左右される。こ 重視されるコンプライアンス、保 「定、多様な個性を持つ保育者の活 必要な事項を扱う。				
授	業 σ.) 計	画	234567891011121314141516787RFFRFFRFFRFFRFFRFFRFFFRFF	事施ト施ト施ト施ト施施ト施い、おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお	型運営の方法①保 での講演 関連営とリスクマ での講演 関連営の方法②人 での講演 関連営の方法②人 関連営の方法②人 関連営の方法②人	育方針・計画 ネジメント 事労務 管理 理理 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	京 採用と人材 就業管理と 賃金制度と	育成 労働時間				
授	業の	留 意	点	講義形式で	行うが、み		質問などに基		だに考えていきたいと思っている。				
学評	生に	対す	る価	・提出物に	よる平常点)点(講義の理解 :20 点 ト:10 点(参加			と評価する)				
教(講義時に資料等を用意する。 対 科 書 (購入必須)												
参 (購入	•	書)										

科		目		名	社会保育論演習										
					宮内 俊一		 ·美								
学					3年	単位数			開講形態	演習					
開	講		時	期	通年	必修選択	選択		資格要件						
学	習至	到道	達目	標	体験的・能動的な学びにより、子育て環境の整備、保護者支援、保育に関する社会の責任等「会的な保育」に関する課題を明らかにすることができる。										
授	業	Ø	概	要	ぶ。教員が	「社会保育論」での学修を踏まえ、実践レベルで「社会的な保育」をどう実現していくのかを学ぶ。教員が指定する各種ボランティア等保育に関わる社会的な取組を体験するフィールドワークをもとに、「社会的な保育」という観点からの課題を明らかにし、その解決に向けた方策を検討する。									
授	業	Ø	計	画	1 オリエンテーション 2 演習計画作成 3 ボランティア①実施 4 ボランティア②実施 5 ボランティア③まとめ 6 イベント①企画 7 イベント②実施 8 イベント③実施 9 イベント④まとめ 10 調査①(当事者インタビュー及びフィールド)①計画 11 調査②実施 12 調査③実施 13 調査④まとめ 14 演習全体の振り返り 15 報告会とまとめ										
授	業 <i>0</i>	か 冒	留意	点				教員が指定したなる場合もある。		選択することになり、具体的な回					
学評	生に	こ対	すす	る価	取組ごとの	 まとめ(2	0点)、報告		 受業後に提出	するレポート(60点)による。					
	購力		必須		特になし。										
_	購力	-		書)											

科		目		名	保健医療福	祉連携論						
							牧・高野・領	笹木・佐藤	痿(郁)・	中澤	・木下	・武部・長谷部(佳)・矢野・結城
担	当	教 .	貝	~			・大坂・柳原					
学	年	酉	3	当	3年	単位数	1 単位			開講	形態	講義
開	講	時	Ŧ	期	通年	必修選択	必修			資 格	要件	
学	習到	達	目:	標	ワークで各	専門職の業	務や役割を	共有すると	とともに	こ、専	門職連	する話題提供を踏まえ、グループ 連携の推進に向けての課題や取組の 野を広げることを目的とする。
授	業(の :	概	要	生など) に の実践に向	よる話題提 けての課題	供を行う。 や取組の方	そして、? 向性につい	ト専門耶 ハてグ <i>ノ</i>	戦の役 レープ	割を互 プワーク	ゲスト講師(教員・卒業生・4年 いに理解し、そこから専門職連携 を行う。検討したことを整理し、 上げていく。
授	業(か ;	言十	画	 グル グル グル グル 報告 全体 	ープ別講義 ープ別講義 ープ別講義 ープ別講義 会の準備 報告会	(2)					
授	業の	留	意		各学科の講	義や実習の		、出席する				び教室等に留意すること。 3生じた場合は速やかに担当教員と
学評	生に	対		る価	レポートに	より評価す	る。					
	購入	•		_								
_	購入	-		_								

科	E	1	名	保育原理				
				中島常安				
	年			1年	単位数	2 単位	開講形態	講義
開	講	時	期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士:必修
学	習到	達目	標	に沿って理 2. 発達の 3. 海外及 4. 家庭的	解する。 原理につい び日本にお 保育が近代	ての基本を乳幼児期の発達 ける幼児教育・保育思想と :以降において社会の中心に	の概略と併せ その歴史につ なったことを	
授	業 0.)概	要	ども園の間 教育とは、 が含まれて 課題につい	には、教育 その考え方 いる。その ても学ぶ。	での部分において、共通化が と内容、方法が大きく異な 保育の原理を中心に学ぶと	図られている っており、「仍 ともに、合ね :、教育学、発	程育所、幼稚園、幼保連携型認定こが、幼児教育は小学校以上の教科 展育」という用語の内に教育の意味 かせて、現代社会における子育ての 経達心理学、小児医学、生物学、哲
授	業 <i>0</i> .) 計	画	2 3 4 3 4 5 6 7 8 8 9 10 保 果 現 現 11 12 13	園園園心心心思思思社社社教教教理理理想想想会会会要要要のののカカカ子子子ののチカカチ子子子のでにはままます。	語および保育所保育指針の基語および保育所保育指針の基語および保育所保育指針の基語および保育所保育指針の基礎(1)保育所保育指針第5礎(2)「赤ちゃん学革命」をでは、3)「赤ちゃん学革命」キュラム観の歴史(1)海	本的理解(2 本的理解(3 本的理解(4 2章 と乳児の発う 外におけるを 外におけるを 外におけるを 外におけるを 子育て各論	達 達(続)及びまとめ 医史:児童中心主義思想の源流 医史(続)及び日本における歴史 逐遷 なび各論:西欧の研究
授	業の	留意	点	究の深化に	よって変化 のようにわ	でする。従って重要なのは記	憶することで	。学問における知識の内容は、研 ではなく理解する力である。理解は に深まる。そのような能動的受講態
学評	生に	対す	る価			、期末試験 90 点によって割 考えを求めるものではない。		の評価基準は授業内容の理解の程度
教(^科 購 入		書()	本社)		所保育指針 『幼保連携型認 も園教育・保育要領解説』		育・保育要領 原本』(チャイルド 館)
参 (* 購入	f 任 意	書()					

科		目		名	教育原	理									
							 か・加藤	<u>降</u>							
		¥			1年		単位数			開講形態	講義				
開	i	構	時	期	前期		必修選択	必修		資格要件	保育士:必修・幼稚園:必修				
学	習	到 :	達目	標	・学校	教育	の内容と方	な視点から5 法を理解する 理解し、これ		考える視野を	醸成する。				
授	業	<u></u> ග	概	要	学校教育を中心とする教育に関する基礎理論や思想を取り上げるとともに、学校教育の成り式と教育方法について学ぶ。また、現代の子どもの現状や学校教育が抱える問題、教師に求めらる力量や資質についても考察する。										
授	業	് ഗ	· 計	画	2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	子子教教幼学教子授教学教教育ど育育児校育ど業育力師育	てと教育 もをどの思想と歴 の思想と歴 教育の と 歴 と 歴 と 世 と 世 と し カリ	を 生 生 生 生 は は ま は よ か ま は よ か ま よ の の の の と を を の の の の の の の の の の の の の	か―子ども観の別法の歴史 本の教育思想と別						
授	業	の ł	留 意	点					で授業に臨むこと						
学評	生	IC :	対す	る価	講義 終	1時(沙 かレホー	下 (20点)	わよい佐出課 疑	昱(80点 <i>)</i>	により評価する。				
教(必 須	書	福本真	由美	編『はじめ	— ての子ども孝	教育原理』有斐閣						
_	購	-	任意	書)											

科	E		名	教職概論	 (幼稚園)				
		7 員	名	加藤隆					
学	年	配	当	1年	単 位 数	2 単位		開講形態	講義
開	講	時	期	前期	必修選択	必修		資格要係	‡ 幼稚園:必修
学	習到	達目	標		る具体的な事			_	理解を深めることを目標とする。 教 事内容を学び、目ざす教師像につい
授	業 σ.)概	要	変化して	ない側面は何)子どもの生活	かについて	学ぶ。		てきたのか、或いは、時代を超えて 見えてくる課題と教師のかかわりに
授	業 <i>0</i> .) 計	画	2	な職への就職の さども (特にないない) がいまない はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい は	方児令化割割割問問の示戦 (1) は (1) は (1) は (2) は (2) が 国の目 (2) が 国の目	課程学のである。とこれである。とこれである。これである。これである。これである。これである。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	の職務や服務の役割の変化をどの条件になる。 の数での条件にはない。 の数でのないのないのないのないのないのでは、動きないをできた。 数ややを抱きない。 かられる人のでは、動きない。 ないのでは、動きないのでは、動きないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ない	検査の対応 活と学校の現実の理解と課題 計画で教えるか 育指導の在り方 教育相談 権利についての事例 えて仕事をしているか 学級経営の在り方 力や役割 を学ぶ
授	業の	留意	点					ス席はしないこ への提出 30 点	と。 、及び試験 40 点として評価する。
学評	生に	対す	る価						
教 (購入	↓ 必 須		適宜プリ	ント等を配布	する。			
参 (購入	<i>-</i>	書)						

科	E	1	名	子ども家庭	福祉 I			
担	当 教	人 員	名	宮内 俊一	・小尾 晴	·美 	Ţ.	
学	年	配	当	1年	単位数	2 単位	開講形態	講義
開	講	時	期	前期	必修選択	必修	資格要件	保育士:必修
学	習到	達目	標	2. 児童家 3. 児童家 4. 児童家	庭福祉と保 庭福祉の制 庭福祉の現	児童家庭福祉の意義と歴史的 音との関連性及び児童の人材 度や実施体系等について理解する。 はと課題について理解する。 はしと展望について理解する。	権について理 解する。	
授	業 0)概	要	を理解し保	育との関連 て実際の具	性及び子どもの権利につい	て学ぶ。また	制度や実施体系等の基本的な知識、子ども虐待等における事例研究・ と状や動向を学び、今後の課題や展
				1 児童	福祉と子ど	も家庭福祉 (担当 宮内)		
				2 「子	ども家庭福	証」を考える(担当 宮内)		
				3 子ど	もたちを取	はり巻く環境(担当 宮内)		
				4 「子	ども」概念	の誕生と発展(担当 宮内)		
				5 子ど	も家庭福祉	に関する法律(担当 宮内)		
				6 子ど	も家庭福祉	の制度(担当 宮内)		
				7 施設	養護と家庭	的養護(里親)(担当 宮内))	
				8 子ど	も虐待の理	解(担当 宮内)		
授	業 0	計	画	9 子ど	もと家族へ	の支援(担当 宮内)		
				10 子ど	もと家族へ	の支援の具体例~セカンド	ステップ等の	取り組み (担当 宮内)
				11 デー	タからみる	子育て不安・子育て困難の	現実(担当 /	小尾)
				12 子育	て世代の親	たちの就労環境と子育て困	難(担当 小月	尾)
				13 保育	所入所児童	での家庭への支援(担当 小尾	<u>(</u> 2)	
				14 諸外	国の子育て	支援に学ぶ(担当 小尾)		
				15 子育	て支援サー	-ビスの課題(担当 小尾)		
授	業の	留意	点	る。後半は	子ども虐待		を考え、具体	っため、教科書を用いて授業を進め な的な実践事例を取り上げて、その トも配布して使用する。
				講義時に行	うリアクシ	ョンペーパー 30 点、課題	・レポート 7	0 点
学評	生に	対す	る価					
	購入	•	書)	山縣文治編	「よくわか	る子ども家庭福祉」ミネル!	ブァ書房	
参 (購入	=	書			編「社会福祉用語辞典」ミニント 小六法」ミネルヴァ書房	ネルヴァ書房	

科 目 名	子ども家庭福祉Ⅱ			
	家村 昭矩・宮内 1			
	2年 単位数		開講形態	演習
開講時期	後期 必修選択	選択	資格要件	保育士:選択
学習到達目標	ることができる。	必要とする子どもや家庭へ	の理解及び関わ	り方およびその課題を明らかにす
授業の概要	地域に根差した様々		、子ども家庭福	り方を学ぶ。名寄市及びその周辺 社の視野を広げる。また、これか り方についても学ぶ。
授業の計画	2 子育てとは何 3 家族とは何か 4 地域での実践 5 地域での実践 6 地域での実践 7 地域での実践 9 地域での実践 10 地域で取り組 11 地域で取り組 12 地域で取り組 13 地域で取り組	か(1) (子どもはなぜかわいか(2) (子育てはなぜ行きまから学ぶ(1)命を育てるから学ぶ(2)子どもは地域のから学ぶ(3)共同で子育てをから学ぶ(4)学童の子どもだから学ぶ(5)子どもによりまから学ぶ(6)子どもによりまか社会的養護(児童養護施む社会的養護(児童自立支む社会的養護(児童相談所む児童虐待(1)	taoのか) D宝 たい文化を① はい文化を② はい文化を② 設・里親) 援施設)	
授業の留意点 学生に対する価 科必の 等に対する価 も う の留意点 を う は う は う の留意点 を う は う る の る の る の る の る の る の る の る の る の る	授業での意欲・態度			点、テスト 40 点により評価する。。

科		目		名	相談技	 爰助										
担	当	教	員	名	宮内	俊一										
	年				2年		単	位 数	1 単位				開講	形態	演習	
開	講	ŧ }	時	期	後期		必	多選択	必修				資格	要件	保育士:必修	
学	習至	到追	達目	標	2. † 3. †	目談援 目談援	助の 助の	方法 &	こついて! : 技術に ウ展開に ーシャル!	ついて理 ついて理	U解する。 U解する。	·	がを通	通して	対象への理解を深める	0
授	業	ø	概	要	たうえ	えで相	談接	助の具	具体的展	開事例、	保育に	おける	シソー	シャル	る働について基本的な気 シワークの応用と事例気 混論と実際の双方から』	分析を通して
授	業	Ø	計	画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	相相保相よ相個個集集相関虐談談育談り談別別団団談係待	援援と援よ援援援援援機の男男用りり	相の技技技技のとの分析が、	を か を まために が が が が が が が が が が が が が	ワーク) ワーク) プワーク プワーク 技法(シ	の演習 7) の形 7) の演 ジェノグ	態と方 習 ラムを	ī法			
授	業 0	の旨	習意	点					を踏まえ Dプリン					りその)意味を一緒に考える機	養会を作る。
学評	生に	ر ح	すす	る価	講義印	寺のリ	アク	ション	ノペーパ	一 20 点	、ミニゔ	テスト	10 点	、定類	期試験 70 点	
			3 須		小林育	育子・	小舘	静枝	 ・日高祥-	子 著者	「保育	 者のた	 .めのホ	— 泪談援	助」萌文書林	
_			壬意	_												

科	E	l	夕	社会的養護					
				宮内 俊一					
	年	配		1年	単位数	2 単位		開講形態	講義
開				後期	必修選択				保育士:必修
	習到:			1. 現代社 2. 社会的 3. 社会的 4. 社会的	L 会における 養護と児童 養護の制度 養護におけ	社会的養護の意 福祉の関連性及 や実施体系等に る児童の人権擁 と課題について	表と歴史的変 び児童の権利 ついて理解す 護及び自立支		理解する。
授	業の)概	要	童相談所を	中心とした 養護の人権	児童養護の仕組	みや制度、第	尾施体系等に	原理について学ぶ。次に、現在の児 こついて学びさらに、実際の家庭的 ら、今後の社会的養護のあり方につ
授	業の) 計	画	2社3社4社56628910厘111213141414	的的的後護後の養護の別的的後護を養護のの別のの別と基めの後のの別と基の後の族のなりのなりのというのというのは、	童の権利擁護 中的変とは 制 要 は まままままままままままままままままままままままままままままままま	ア		
授	業の	留意	点						必要に応じて、具体的な実践事例 所聞記事などのプリントも配布して
学評	生に	対す	る価	講義時のリ	アクション	ペーパー 20 点、	ミニテスト	10 点、課題	夏・レポート 70 点
	料購入:			千葉茂昭 絹	幕著 保育者	養成シリーズ「ネ	社会的養護」	一藝社	
_	考 購 入 ·		書)			編「社会福祉用 文治編「社会福祉		ネルヴァ書原	房

科			名	保育者論				
担	当	——	名	傳馬 淳一	郎・小尾	晴美		
学	年	配	当	3年	単 位 数	2 単位	開講形態	講義
開	講	時	期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士:必修
学	習 到	達目	標	(2) 保育= (3) 保育= (4) 保育=	上の制度的が 上の専門性に 者の協働にな	倫理について理解する な位置づけを理解する こついて考察し、理解する ついて理解する 的成長について理解する		
授	業(の概	要	や専門性、	保育者に求		て学ぶ。また	:ともに、保育士の制度的位置づけ :、保育実践から専門職者としての
授	業(D 	画	2 4 4 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	「士の財産的 「士の専門性」 「士の専護の協協の事の事でです。」 「大き」 「大き」 「大き」 「大き」 「大き」 「大き」 「大き」 「大き	:倫理(担当 傳馬) D位置づけ(担当 傳馬) E 養護と教育(担当 傳馬) E 養護と教育(担当 傳馬) E 養育士の資質・能力(担当 傳馬) E 保育士の資質・能力(担当 傳馬) E 保育士の資質・能力(担当 傳馬) E 保育職観及び専門機関との連携 家庭的保育者等との連携(担当 小尾) E 保育の省察(担当 小尾) B 的成長 生涯発達とキャリア 諸課題(担当 小尾) B 認題(担当 小尾) B 以保育者を目指して(担当 に	其 持 (担当 傳 長 (担当 傳馬) (小尾) (小尾) (小尾) (形成 (担当	,
授	業の	留意	点	講義形式で	はあります	が、演習や討議を含め主体的	的に参加する	ことを求めます。
学評	生に	対す	· る 価	期末レポー わせて総合			、講義時のリ	アクションペーパー(30 点)と合
教(^抖 必須		講義時に資	料を配布す	- る。		
参 (鯨岡 峻『で 垣内国光・ と専門性』)とがひとる 川村雅則・ ひとなる書	小尾晴美・奥山優佳・義基 房、2015 年	性と相互主体 祐正『日本の	ヴァ書房、1997 年 本性』ミネルヴァ書房、2006 年 0保育労働者―せめぎあう処遇改善 とる視点として』北大路書房、2011

科		目		名	幼児教育史				
					塚本 智宏				
	 年				3年	単位数	2 単位	開講形態	講義
開	講		時	期	前期	必修選択	選択	資格要件	幼稚園:選択
学	習至	則道	直目	標	思想並びに 今日的意義	教育制度を の視点にた	取り上げ、その時代	背景や文化、社会村 こでは、教育者の約	史に目を向け、過去の遺産たる教育 構造など考慮しながら、歴史的及び 力児教育実践の土台となる人間尊重
授	業	တ	概	要	治の大きな の思想家・	変動にと連 教育者がと	動するマクロな歴史と	としてとらえると。 ども観をもって子。	ら観の歴史を、メディア・経済・政 ともに、その歴史の中で、幼児教育 どもという人間に向き合ってきたの
授	業	Ø	計	画	2近世世3近世4近代567近イ8910子12子13	文末社リンツ学リアもも次次でする。本社スス近校ア革のの業民的判教と達達大大のの世界、大	うと幼児教育思想・施 記	殳 ロシア ポーランド 現	
授	業 0	D 留	習意	点	集中講義と	して実施す	こる。欠席などの内容に	こすること。	
学評	生に	こ文		る価	授業途中に	課す小レポ	『一ト(30点)及び核	受業終了時に課すし	ンポート (70点) による。
教 (購力		必須	_	講義時に資	料を配布す	⁻ る。		
参 (購力	_		書)					

科	F		名	教育法概論				
担	当者		名	松倉 聡史				
学	年	配	当	3年	単 位 数	2 単位	開講形態	講義
開	講	時	期	後期	必修選択	必修	資格要件	幼稚園:必修
学	習 到	達目	標	と、②教育 と、③学校	基本法の法 教育法を含	的性格とともにどのようた め教育関連三法の改正の。	な改正過程と改 意義について理	いかに転換されたかを理解するこ 女正教育基本法の特徴を理解するこ 性解すること、④教育権の所在の争 習と理解を確認することとする
授	業(の概	要			に学び、戦後の教育諸課題 「や動向をさぐることもあれ		を中心に具体的に考察する。また、 課題とする。
授	業(か 計	画	2	教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教教	としての教育	内容をめぐる。 ・体罰をめぐっか・不登校をです。 ・体罰をめぐった。 ・ 本ではと教師のできる。 ・ 学校・地域で教育基本法ので	法的問題 (2) って めぐって て 研修 の協力と連携 改正
授	業の	留意	点	教育と法と期待する。	の関係を具	.体的に把握するようにつ。	: めること。 教	対職に対して熱意ある学生の受講を
学評	生に	対す	る価	/TT . 1- 7	度(10 点)	、リアクションペーパー(20 点) 、レポー	- ト課題(70 点)により総合的に評
		斗 必須		テキストは	使用しない	。配布プリント等を使用す	-る。 -	
_		考 任 意	_	参考書を必	要に応じて	指示する。		

		_		_	4 >- > > = = = 4											
科		目			生涯学習論											
					大坂 祐二	554 TT #P	0 W /-		88 -# 17 公	±# ₩						
_	年===				4年	単位数			開講形態							
用	請	事	時	期	前期	必修選択		1) - 24 × 10 1		幼稚園:選択						
学	習:	到词	達目	標	への気づき	日本の生涯学習・社会教育実践の蓄積に学び、人々の「学ぶ権利」の保障について、また、問、への気づきから解決に向かう過程とそれに対する支援について理解を深める。身近な生涯学習機会に関心を持ち、その意義について考えることができる。										
授	業	Ø	概	要	生涯学習や社会教育は、単なる生きがいづくりやキャリア・アップの手段ではない。生活の困難に立ち向かい、主体的力量を形成する(=エンパワーメント)学びであり、人々の学ぶ権利は「月間の生存にとって不可欠な手段」(ユネスコ「学習権宣言」)である。こうした視点から本講義では、保健・医療・福祉・保育との関連も念頭に、生涯学習・社会教育の本質と構造、実践について概説する。											
					1 生涯	学習とは何	「か ―保健・医	療・福祉・信	呆育との関連	にもふれて						
					2 成人	にとっての	「学び」 一自	主夜間中学	を例に							
					3 生涯	学習の国際	的な動向と「学	習権」の発展	展							
					4 家庭	・学校・地	域の連携と社会	教育の役割								
					5 生涯	学習・社会	教育の法と行政									
					6 生涯	学習・社会	教育の施設と職	溳								
					7 自己	教育活動と	仲間づくり・集	団づくり								
					8 北海	道の地域で	らくりと生涯学習	・社会教育								
授	業	の	計	画	9 子ど	もの職業体	験にみる学習の	組織化								
					10 誰が学習要求を組織するのか											
					11 学習	過程とその	支援(1)子育	て支援と親の	の学習							
					12 学習	過程とその	支援(2)健康	学習を例に								
					13 学習	の構造化	―青年・若者を	めぐる社会	教育実践(1)						
					14 自分	さがしと居	場所づくり 一	青年・若者を	をめぐる社会	教育実践(2)						
					15 若者	自立支援と	社会教育 一青	年・若者をと	めぐる社会教	育実践(3)						
					教育宝習に	ともからケ	 席状況等によっ	て授業の順差	野を変更する	ことがある。						
	NII.			_	3 7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,7,		WILL C & 2									
授	業(の旨	留意	点												
学評	生(にす	対す	る価	期末レポーう。	卜 (70 点)	のほか、小レポ	ートやグルー	ープワークの	参加状況等(計 30 点)で評価を行						
					指定のテキストは使用しない。毎時、プリントを配布する。											
教 (科 入 』	必 須	書												
参 (考入(壬意	書)	小林文人・伊藤長和・李正連 編著『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013 年 鈴木敏正『[増補改訂版]生涯学習の教育学』北樹出版、2014 年 社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』エイデル研究所、2017 年											

科		目		名	発達心理学								
担	当	教	員	名	中島 常安	・奥村 香	:澄						
学	年	<u> </u>	配	当	1年	単位数	2 単位			開	講形態	講義	
開	講	ŧ }	時	期	後期	必修選択	必修			資	格要件	保育士: 必修・幼稚	園:必修
学	習至	到這	達目	標	1. 発達心 2. 講義か び子どもの	ら得た発達	理論の知	印識に基		保育に	おける∃	子ども理解・発達理解	の重要性およ
授	業	Ø	概	要	理解を確実	にするため は仮説の上	に、章 に成り ī	末にある 立ってお	る復習課題 るり、異な	夏を小レ さ理論	ポートと 上の立場	教科書に沿って講義として課す。講義を進 ま、学説があること、 る。	めるにあたっ
授	業	Ø	計		23444456789101112121314121314 <th>) と心理学 と心理学 もの発達理 当:中島) もの発達理 情の発達を</th> <th>(2) は (3) を (2) と (3) を (4) を (5) を</th> <th>呆発情情発情 即如ととと 担:担害実観社社(社発養さどどに対:</th> <th>表 会 会 と 幸 幸 っ っ ら や 中 の 子 性 性 当 性 ~ ~ の の の 島 ・島、 田 と 観 達 達島 達))((発 発 ア 発))((東 達 達 増 料))((</th> <th>心理保 (1 (2) (3) 歩 考 (1) (2) (3) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</th> <th>(観))) やの愛発社当担人 水の産産の産の産の産の産の</th> <th>新:中島) 情とは何か/基本的感 見的自己意識の発達と 情的有能さの発達/他 ころの発達(担当: グ心の理論(担当:奥 が成と発達(担当:奥 が成と発達(担当:奥 が成と発達(担当:奥 が成と発達(担当)</th> <th>情とその理解 自己意識的評 は者感情の理解 奥村) 村)</th>) と心理学 と心理学 もの発達理 当:中島) もの発達理 情の発達を	(2) は (3) を (2) と (3) を (4) を (5) を	呆発情情発情 即如ととと 担:担害実観社社(社発養さどどに対:	表 会 会 と 幸 幸 っ っ ら や 中 の 子 性 性 当 性 ~ ~ の の の 島 ・島、 田 と 観 達 達島 達))((発 発 ア 発))((東 達 達 増 料))((心理保 (1 (2) (3) 歩 考 (1) (2) (3) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	(観))) やの愛発社当担人 水の産産の産の産の産の産の	新:中島) 情とは何か/基本的感 見的自己意識の発達と 情的有能さの発達/他 ころの発達(担当: グ心の理論(担当:奥 が成と発達(担当:奥 が成と発達(担当:奥 が成と発達(担当:奥 が成と発達(担当)	情とその理解 自己意識的評 は者感情の理解 奥村) 村)
授	業 0	の旨	留意	点	究の深化に	よって変化 のようにれ ある。	する。行 からない	逆って <u>『</u> ハのか』	重要なのは を認識す	記憶すること	ることで	5。学問における知識ではなく理解する力で ではなく理解する力で で深まる。そのような	ある。理解は
学評		こす	すす	る価									
(購力	入 yi	必須		屮島 常安編	∥保育の心	埋字~坩	也城• 名	に会のなか	で育つ	ナどもた	ち〜』(同文書院)	
参 (_	£意	_									

科	E	1	名	子ども教育	心理学										
		-		子ども教育心理学 糸田 尚史 1年 単位数 1単位 開講形態 演習											
学	年	配	当	1年	演習										
開	講	時	期	前期	必修選択	必修	j	資格要件	保育士: 必修・幼稚園: 必修						
学	習到	達目	標	・子どもに ・子どもに	関する教育 関する教育	わる心理学の理論と 心理学の理論と知識 心理学の理論を現場 責任を持つ。	後を習得す	る。	につける。						
授	業 0) 概	要	教育心理学の理論を子どもにかかわる実践において活用できることを目指して行われる。子の教育は単なる経験からだけでは行えず、机上の理論だけでも役には立たない。子どもに関心理学の理論をしっかりと身につけ、それを教育の現場で活かせるようにする。「学習」と「(発達障害)」を中心に、動機づけ(モチベーション)、記憶、知能、性格・人格などについ多くの時間を割いて取り扱う。											
				1 ガイ	ダンス:履	修上の注意事項、成	戈績評価の	方法、簡易	な教育心理学的実験の演習						
				2 学習	の心理:条	件づけとその応用									
				3 学習の理論を生かす: 「学び」の新しいかたち											
				4 動機											
				5 記憶											
				6 知能	とは何か:	知能にかかわる理論	論と知的発	達の過程							
				7 知能											
授	業 0	計	画) - 	. 							
						と行動の発達を見て		. <i>H</i>							
						の発達:心の芽生え									
					.,.	の発達:社会的な自			九人)四 兴						
						の発達:社会への通									
						[客] の理解:障害を									
						完全证》、小小连的	7.人孩: 品	床心理子的	技法と長所活用型の特別支援教育						
				15 まと	<i>(</i>)										
授	業の	留意	点	既に配布済 毎回、持参		遡って使用すること	こがあるの	で配布資料	- - - - - - - - - - - - - - - - - - -						
学評	生に	対す	る価	試験 (60 点)・提出物 (20 点)・受講態度 (20 点) の合計点で評価する。提出物 (20 点) は毎時の「気づき・学び」にかかわるリアクションペーパーの作成・提出である。											
	購 入		書)	N・C・ベンソン著(清水・大前訳) 『マンガ 心理学入門:現代心理学の全体像が見える』 談社(ブルーバックス) 2001年											
_	<i>‡</i> 購入	_	下山晴彦・遠藤利彦・齋木潤編 『誠信 心理学辞典 (新版)』 誠信書房 2014 年 鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編 『心理学(第5版)』 東京大学出版会 2015 年 E 意)												

科	E		名	子どもの保信											
					大見 広規・永谷 智恵・佐々木 俊子・矢野 芳美										
学		配		2年	単位数					形態	講義				
開	講	時	期	通年	必修選択	必修		資	格	要件	保育士:必修				
学	習到	達目	標	母子保健の 応、精神保健	保育に必要な子どもの保健に関する基礎を理解する。その内容として、子どもの保健活動の意義、母子保健の水準と活動、生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健、疾病と予防および適切な対応、精神保健とその課題、環境の安全衛生管理、施設での健康安全実施体制を理解し、実践のための基礎知識を身につけることができる。										
授	業 σ.	,概	要	健活動の重望 2.今日、発生 それらの問題 3.子どもの付 4.子どもの する。	要性を理解 こしている- 題に適切に 建康状態を 疾病異常や 建康が家庭	する。 子どもの心身の 対処できるよう 、個人生活と保 事故の特徴とそ や地域との密接	健康問題の原 にする。 除育生活等の の予防につ	原医 集団	が、 団生 て理	養育環活のレダ	意味を認識し、保育実践における保境や養育方法にあることを認識し、ベルで理解する。 さらに緊急時の基礎的対応を可能にし、家庭や地域との連携を通じた保				
授	業 <i>の</i>) 計	画	234567889101000000000000000000000000000000000000	型の2000 次 次 次等を生を(2000で)では、)発発発発疾 疾 疾等全生全大精精ィ精見生法(育育育育病 病 病関衛活衛見神神ア神)活に永・・・と と と連生で生)保保と保 習お谷発発保 保 保 保疾管間管 健健子健 慣け)	を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	1(2) (大大大大病 1 2 、 全見全 大心 も の見見) (大大大大病 1 2 、 全見全 大心 も の が 国 の と り ま ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	19 20 21 22 23 24 25 26 27 28)) · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	朗子子子子女子區子更子頁子或片子室子热片呆(はどどどどど、ど吐ど秘ど痛ど染)ど攣ど中)育佐永ももももせも、も、もり、もの、もっ、「埃オーのののの」の下の抄の腹のだっ。一の下の対の腹のだって、「埃オーの	2生活と健康問題 幼児期(永谷) 2生活と健康問題 学童期(永谷) 2年活と健康問題 学童期(永谷) 2年病気の特徴と症状の見方と対応(矢野) 20病気の特徴と症状の見方と対応(矢野) 20病気の特徴と症状が応見方と対応(シガ病気の特徴と症状がの見方と対応(シガ病、脱水の見方と対応(矢野) 20病気の特徴と症状の見方と対応(矢野) 20病など痛みの訴症状の見方と対応(シガ病気の特徴と症状の見方と対応(シガ病など痛みの訴症状の見方と対応(を対応) 20病など痛みの表疹の見方と対応(佐と対応) 20病気の特徴と症状の見方と対応(佐と対応) 20病気の特徴と症状の見方と対応(佐と対応) 20病気の特徴と症状の見方と対応(佐と対応) 20病気の特徴と症状の見方と対応(佐と対応) 20病気の特徴と症状の見方と対応(佐と対応) 20病気の特徴と症状の見方と対応(佐と対応) 20点における事故防止及び危機管理 20点における事故防止及び危機管理				
授	業の	留意	点	解を深める。 子どもの生1	よう講義を 命を守り養	進めるので、各	ト自母子健康 こしての仕事	手帅	長を	用意す	小児の成長・発達、疾病に関する理ること。(大見) 切な授業であることを認識して、積				
学評	生に	対す	る価	論述式筆記 定期(筆記)		点(大見) - 点(永谷、矢!	野、佐々木)								
教 (購入:			指定しない。	講義時に	資料を配布する) ₀								
_	考 購入		書)												

科	E	1	名	子どもの保	健 Ⅱ			
			_		-	俊子・矢野 芳美		
	 年				単位数	T	開講形態	演習
開	講	時	期	後期	必修選択	必修		保育士: 必修
学	習到	達目	標			・抱っこの仕方、おむつ? て乳幼児の病気やケガ管		沐浴などの日常生活の養護につい の手当について学ぶ。
授	業 σ.	概	要	・乳幼児の	体温・呼吸	出来る養護について理解 ・脈拍の測定方法がわれる 急手当てについて理解し	いり実施できる。	۰
授	業 <i>0.</i>) 計	画	2 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	における着気におけるる人ではおけられる。これではいいいのののののののののののののののののののののののののののののののののの	護徳の方法:子どもの抱護徳の方法:食事の与えた。 護徳の方法:食事の与えた。 護護の方法: 口腔内の清洗。 護護の方法: 口腔内の清洗。 (本知ろう:乳幼児の身体)。 (本知ろう:乳幼児の身体)。 (本能を知ろう:体温、呼吸 (本能を知ろう:体温、呼吸)。 (本は)。 (本)。 (本)。 (本)。 (本)。 (本)。 (本)。 (本)。 (本	き方、おんぶの仕ります。 おんぶの仕り とう はんぶん 人工 とう いい かい かい はい かい かい かい かい かい はい かい	させ方など (、頭囲、胸囲)と発達評価 (、頭囲、胸囲)と発達評価 (、頭囲、胸囲)と発達評価 (法とその見方 (法とその見方 (4 方法など (4 方法など (4 方法など (4 方法など (4 方法など (5 方法など
	業の					教科書や資料を確認して		てください。
字評	生に		価	小林美由紀	編著『子	どもの保健演習ノート』	診断と治療社	
教 (購入)					
参 (購入	; 任 意						

科	E	3	名	子どもの食	 と栄養										
担	当者	数 員	名	長谷部 幸子											
学	年	配	当	3 年 単 位 数 2 単位 開講 形態 演習 前期 必修選択 必修 資格 要件 保育士:必修											
開	講	時	期	前期	必修選択	必修		資格要件	保育士:必修						
学	習到	達目	標	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解することができる。 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深めることができる。 3. 食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解するとができる。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解することができる。 5. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解することができる。 数科書や教員作成資料を用いて基本的知識を学んだ後、演習に取り組むことで理解を深めてい知識を確実なものにしていくために小テストを実施していく。											
授	業 0	の概	要												
授	業 0	D 計	画	2 小 栄 養 見 児 児 児 鬼 新 別 別 別 別 別 に 育 11 13 14 15 16	のにに期期期期・のののや一発を関のののの思想を食食食をを慮慮ををををををでいる。	正礎知識(1) 栄養 正礎知識(2) 献立 (1) 乳児期の負 (2) 乳汁栄養、 (1) 幼児期の負 (2) 幼児期の負 (2) 幼児期の負 の食生活、生涯発 でする子どもの食	立作成・調理達養 離乳の発生活ととととまる との 生活 でを とり とと とき を を を を を を を を を を を を を を を を を	の基本と成長とより、大変を表している。との実施と保証を保証を保証を表している。	育者としての対応 本調不良の子どもへの対応 ギーのある子どもへの対応						
授	業の	留意	点	教科書の該	当箇所を事	前に予習してく	ること。								
学評	生に	対す	る価	(2016) ま											
	購入	斗 必須	_												
_	購入	考 任 意	_												

科		目		名	家庭	支援論								
					-		郎・小尾	晴美						
学	4	ŧ	配	当	2年		単 位 数	2 単位		開講形態	講義			
開	Ī	講	時	期	通年		必修選択	必修		資格要件	保育士:必修			
学	習	到 :	達目	標	(1) 家庭の意義とその機能について理解する。 (2) 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 (3) 子育て家庭の支援体制につてい理解する。 (4) 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。									
授	業	<u></u> ග	概	要	要 子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解を深め、家庭支援の意義について理解する。様な機関の家庭支援の取り組みを学び、連携のあり方を考察する。また、保育者として家庭支援行っていくために必要な基本的なコミュニケーションについて、実際の保育場面等をイメージながら学ぶ。									
					1	家庭	支援の必要	[性(傳馬)						
					2	家族	の意義と機	能(小尾)						
					3	現代	の家庭にお	おける人間関係	(小尾)					
					4	地域	社会の変容	ドと家庭支援 (ノ	小尾)					
					5	男女	共同参画社	会とワーク・	ライフ・バラン	ンス(小尾)				
					6	子育	て支援施策	・次世代育成 カ	支援施策の推済	隹 (小尾)				
					7	保育	者が行う家	医支援の原理	(傳馬)					
					8	子育	て家庭の福	音祉を図るため の	の社会資源(何	專馬)				
授	業	の	計	画										
				10 保育所入所児童の家庭への支援(傳馬)										
					11	地域	の子育て家	を 庭への支援 (値	專馬)					
					12	要保	護児童及び	べその家庭に対っ	する支援 (傳見	馬)				
					13	子育	て支援にお	おける関係機関	との連携 (傳見	馬)				
					14	子育	て支援サー	-ビスの課題(作	專馬)					
					15	まと	め 家庭支	援における保育	者の役割とは	(傳馬)				
					講義	形式で	はあります	が、演習や討論	養を含め主体的	内に参加する	ことを求めます。			
授	業	の ł	留 意	点										
学評		(C ;	対す	る価										
			井村圭壯・相澤譲治編著『保育と家庭支援論』学文社											
教 (必 須											
参 (考入	任意	書()	中島省	常安・	清水玲子編	著『事例からり	lえる 子ども	の育ちと保	育』同文書院			

科		 目	夕	保育指導論							
				中島常安							
	 年			2年	単 位 数	2 単位			開講形態	i i i i i i i i	
開				前期	必修選択						
	習 到			・教育方法	の基礎理論	および情報				理解する。	いて理解する。
授	業(の 概	要	幼稚園教育 がら、指導						ついて、具体	× 的な事例を取り上げな
授	業(か 計	・画	2 教幼 教そ 教伝 幼 子 子童 育稚 育の 育え 稚 ど ど	中心主義の 方と 大大 大大 大大 大大 で 大大 で 大 で 大 で 大 で 大 で	基本的理解的概観 2 (との関係 の概観 3 の概観 4 の概観 4 (と幼児教育の幼児教育の幼児教育の幼児教育の	アと計画 中 活動中 活動中 本 () 方法 ()	i的児童中 i心主義の i心系統自 i心系統自 : (1) 遊 (2) 遊	中心主義として 戸流れと誘導係 主義とその保育 主義とその保育 をびと発達 をびと学び	での誘導保育 R育論(2) 育(1) 系	
				9 人間 10 発達 11 環境 12 遊び 13 基本 14 基本	発達の基本 と教育・保 を通して行 を通して行 を通して行	:育 ヴィゴ :う教育の意 :う指導の意 :の自立と当	iツキー i味と方 i味と方 i番・係	の最近接 法 法 活動の指	f導(1) 自		な育・保育のあり方 内の意義と指導方法
授	業の	留意	意点	究の深化に	よって変化 のようにわ	する。従っ	て重要	なのは記	2億することで	ではなく理解	おける知識の内容は、研 解する力である。理解は とのような能動的受講態
学評	生に	対す	ナる 価	授業内レポ	- ト (10 ヵ	点)及び期ラ	末試験	(90 点)	により評価す	る。	
教(購入	科 . 必 須	書 頁)	ド本社)					認定こども園		要領 原本』(チャイル :
_	購入	_									

科		E		名	保育内容総	<u></u> 論						
		当 教			中西 さや							
学		年	配	当	1年	単 位 数	1 単位			月	非講形態	演習
開		講	時	期	後期	必修選択	必修			Ĭ	資格要件	保育士:必修・幼稚園:必修
学	習	到:	達目	標	保育内容の 合的な保育				解し、乳	幼児の	発達に即じ	した環境構成・指導計画に基づく総
授	身	美 σ.	概	要	幼児教育の リキュラム							礼幼児の発達と学びを促すためのカ
授	第	ξ σ.) 計	画	2 3 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13 13 14 14 15 15 16 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17		保・保価 体ム (() (校 リ リ 内育 保育 性の)) 教 キ キ 容内 育 内 ロー	容所容 保成指計のララ多を関する 保成指計のララ多種を対してはない はいにない はいまん はいまん はいかい はいかい はい	史旨 なと 画 展・おお 保の 子の 開接 けけ 育変 に がん と 様 と 続 る る ニ遷 お	け 観 価見育育ズ 保保 え容容認	た保育内容 (1) 就等 (2) 生活	字 学準備型のカリキュラム 舌基盤型のカリキュラム
	生		留意		主体的に授				が提出課	題(7)	0点)によ	り評価する。
教(生田貞子・	水田聖一・	中村恵	編『保育	育実践を	<u></u> 支える	保育内容	序総論』福村出版、2018 年
参 (購	才	; 任 意	音	『平成 29 [£] 本>』チャ			育要領 保	 保育所保	育指針	幼保連携	型認定こども園教育・保育要領<原

科	E	1	名	保育内容·	 言葉									
	当 教		名			· か								
学	年	配	当	2年	単位数	2 単位	ı	開講形態	演習					
開	講	時	期	後期	必修選択	必修	j	資格要件	保育士:必修・幼稚園:必修					
学	習到	達目	標	・ナともの言葉の育らを文える指導法およい保育者の役割を理解する。										
授	業 σ.)概	要	保育内容「言葉」について、幼稚園教育要領におけるねらいと内容の理解、子どもの言語発達に理解を基盤とし、子どもの言葉の育ちを支えるための指導法を実践的に学ぶ。										
授	業 σ.) 計	ender and the second of the s	2 幼稚 3 子ど 5 6 7 「ここ 8 9 10 言子子ど 11 子子ど 13 子ど	園教育要領もの言葉のとば環環境」とはば環境がムー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	育ちの道筋(2) を考える~保育環を考える~自分のを考える~質問をを考える~質問をを考える~質問をを考える~質問をを考える~質問をを考える~質問をを考える~質問をを考える~質問をできない。 ・育む保育の実際(・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	乳児期の言言 対別児期の言言 できませる (別別の) できます (別別の) により	語発達(中 中 中 中 中 を に た た え る る る る る る る る る る る る る る る る る	西) 葉(堀川) その1(堀川) その2(堀川) べうたに親しむ(堀川) iをつくる(堀川) の1(堀川)					
	業の生に			主体的に授授業時の小		ること。 (20点) および振	是出課題(8	0点) によ	り評価する。					
評教			価書	値適宜プリント等を配布する。										
参 (購入	•	書)											

科	E		名	保育内容·	人間関係 I											
担	当 教	女 員	名	糸田 尚史												
学	年	配	当	1年	単位数	2 単位	1	開講形態	演習							
開	講	時	期	後期	必修選択	必修	:	資格要件	保育士:必修・幼稚園:必修							
学	習 到	達目	標	・領域「人 ・幼児期の	間関係」の 人間関係の	て、子どもの対 ねらいと内容を 発達を理解する。 育内容「人間関	理解する。		育者をめざす。 について修得する。							
授	業 <i>0</i>)概	要	係の発達の 教育におい 体的にはテ て、模擬保	特徴を学ぶ て構成すべ キスト、映 育、集団討	。子どもが自立 き保育内容の支 像、スライド、	心をもち、人 援法(指導法 ホワイト・ボ ーク、集団で	、とかかわる () を種々の (ード、紐、	間関係」について、幼児期の人間関 方力を養うために保育者が幼児期の 対演習により実践的に理解する。 紙、テープなどのツールも活用し ロールプレイ、即興劇などの方法も							
				1 領域	「人間関係	」の内容とねら	V									
				2 幼児	期の人間関	係の発達(1) :	子どもと養育	者とのアタ	'ッチメントや信頼関係の発達							
				3 幼児	期の人間関	係の発達(2) :	子どもどうし	の仲間関係	における情緒・社会性の発達							
				4 幼児	期の人間関	係の発達(3) :	子どもの人間	関係をめぐ	*る現代的課題							
				5 幼児	期以降の人	.間関係の発達										
				6 子ど	もと保育者	とのアタッチメ	ントや信頼関	係の形成								
				7 子ど	もの社会的	自我の発達と情	動の統制									
				8 子ど	も集団のな	かでの介入・支	援									
授	業σ)計	画	9 遊び	における人	.間関係(1) :遊	びをとおして	対人関係性	この発達を促す支援 (模擬保育)							
				10 遊び	における人	.間関係(2) : 寄	り道散歩(模	擬保育)								
				11 遊び	における人	.間関係(3) : ふ	り遊び、ごっ	こ遊びと発	達支援(模擬保育)							
				12 遊び	における人	.間関係(4):ルー	ールのある遊び	び、社会的ス	スキル遊びと発達支援(模擬保育)							
				13 幼児	期の人間関	係におけるつま	ずき(1) :神	経発達症((気になる子) への支援							
				14 幼児	期の人間関	係におけるつま	ずき(2) :家	庭との連携	ら、専門職連携(IPW)の方法							
				15 子ど	もたちの社	:会的環境と領域	「人間関係」	との連関((即興劇)							
授	業の	留意	点	屋外、地域	ケア実習室	席を指示するこ 、児童文化演習 討論や実技には	室などで行う		o							
学評	生に	対す		り道散歩」	にかかわる		作成・提出で	ある。毎時	計点で評価する。中間提出物は「智 提出物は授業毎の「気づき・学び							
教 (^耗 購 入				2017 年 塚孝・中島	達が気になる子 常安 (編著) も使用する)			カラダほぐしあそび 改訂増補版』 同文書院 2003 年 (※「子と							
参 (購入	_	書)	年	修・指導)	著) 『社会情動』 『人とのかか 新版 遊びの指導	わり方を育て	るスキルな								

科	E	1	名	保育内容・											
				鹿嶋 桃子											
学	年	配	当	3年 単位数 1単位 開講形態 演習											
開	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件	保育士:選択・幼稚園:選択						
学	習到	達目	標		解を深める	。幼児の人間に			程を学び、保育者の援助のあり方 で役割についても自ら考察できるよ						
授	業 の) 概	要	を確認する について学 ーの遊び論	。次に人間 ぶ。そのう を取り上げ	発達に対するね ち主要な視座。	社会文化的アコ として「遊び!!) や保育事例の	プローチ論に は幼児の発達	の内容から乳幼児の対人関係の発達 基づいた乳幼児の対人関係の発達 色の主導的路線」とするヴィゴツキ スカッションを通じ、遊びの指導						
				1 オリ	エンテーシ	ョン領域「	人間関係」につ	ついて							
				2 子ど	もにとって	の他者とは									
				3 子ど	もの発達と	他者との関係	ヴィゴツキー	-の発達理論	から						
				4 対人	関係の発達	(1) 大人と	の関係								
				5 対人	関係の発達	(2) 子ども。	との関係								
				6 遊び	とは何か										
				7 乳幼	児の遊びの	発達(1) ピア	アジェを中心に	2							
				8 乳幼	児の遊びの	発達(2) ヴ	ィゴツキーを	中心に							
授	業 <i>0.</i>	計	画	9 協同	的関係のな	:かで遊びを創る	るということ								
				10 即興	的パフォー	マンスとしての	の遊び(1) 他	也児との共同	行為としての遊び						
				11 即興	的パフォー	マンスとしての	の遊び(2) の	保育者との共	:同行為としての遊び						
				12 遊び	のなかで生	まれる創造性	他者や環境と	との相互作用	に着目して						
				13 模擬	保育-保育	者による遊び打	爰助のあり方	指導中心か	子ども中心か						
				14 演習	の振り返り	とディスカッ	ション								
				15 理解	度の確認										
				演習科目で	あり、活発	な議論を行う」	上で予習を行う	うこと。							
授	業の	留意	点												
				講義中のミ	ニレポート	(20点) とレ	ポート (80 点))での結果を	をもとに総合的に評価します。						
学評	生に	対す	る価												
пт			Щ												
				なし。											
教	•		書、												
(購入	必須)												
				文部科学省	『幼稚園粉	育要領』 厚生	労働省『保育	 所保育指針『							
				茂呂雄二•					ゲーヴィゴツキーに学ぶ』 世界思						
参 (考 購入		_	想社 Hughes, F.	P. Childre	en.Plav. and F	evelopment F	`ourth Editi	ion. SAGE Publications. L.E.バ						
	WH3 /	T 10	,	ーグ A. ウィ	ソスラー	蒈(田島信元・	田島啓子・玉								
				育法 幼児	の足場づく	り』 北大路書	書房								

科	E]	名	保育内容・												
担	当者	数 員	名	柳原 高戈	柳原 高文											
学	年	配	当	2 年 単位数 2 単位 開講形態 演習												
開	講	時	期	前期	必修選択	必修		資格要件	保育士:必修・幼稚園:必修							
学	習到	達目	標		の子どもと	いと内容を理角 環境とのかかれ		学び、保育実	E践における保育内容「環境」の指							
授	業の	D 概	要	ついて学び の好奇心・	ド、保育内容 探究心を高	ド「環境」に関す	する基礎的なE れらに積極的	里解をする。 Jに関わって	れて育つ。この授業では、それらにまた、周囲の環境に対する子どもいくための保育方法について学ぶ。							
授	業 0	D 計	画	2 領域 3 子 4 孔 5 6 7 子 8 子 9 子 10 大 11 12 13 模 14 模	ではばばばばられる保証があるととととと境の育様の育様のでは、これのでは、これのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	わらいと内容	Eえ とのかかわり のかかわり での文字・数・ ノとのかかわり かわる情報やが 養者 ゆる環境構成 きる環境構成 きるでとが	・図形とのか) 施設への興味 旨導案作成と 長り返り	デ・関心 評価方法							
授	業の	留意	点						いくので、活発な論議を行う上で予 らので行動しやすい服装、準備をす							
学評	生に	対す	る価	授業の取り	組み方・意	欲 20 点、制作	物 20 点、発表	₹ 20 点、定期	朝試験 40 点							
	^拜 購 入			幼稚園教育	下要領	-										
_	<i>‡</i> 購入	号 任 意	_	必要に応じ	で適宜指示	· する。										

科	E	l	名	保育内容・	環境Ⅱ									
				柳原 高文										
	 年			3 年 単位数 1 単位 開講形態 演習										
開	講	時	期	後期	必修選択	選択	Ì	資格要件	保育士:選択・幼稚園:選択					
学	習到:	達目	標						導法を実践的に学ぶ。 保育実践の在り方を考察する。					
授	業 σ)概	要	する指導法 培、動物の	についてよ 生態につい		具体的には 身につける。	、野外での	ざまな環境のかかわりとそれに対活動を通して自然観察、植物の栽いく。					
授	業 <i>の</i>) 計	画	2 自然 3 自然 5 植物 5 6 動物 7 8 子子幼身 10 子が 11 12 月 13 子	環境(2) (1) 植物 (2) 植物 (1) (2) 自動物 (2) 自自自然 (3) 自自自然 (4) を (4) を (5) を (6) を (7) を (7) を (7) を (7) を (8) を (8) を (9) を (9	身近な自然を観察 自然のなかでの遊 を観察する 別栽培と保育実践 近な生き物を探す の飼育と保育実践)「森のよう)模擬保育)模擬保育 の在り方 る園庭の整 での環境と保	①指導案の②指導案に備有実践						
授	業の	留 意	点						くので、活発な論議を行う上で予 ので行動しやすい服装、準備をす					
学評	生に	対す		授業の取り	組み方・意	欲 20 点、制作物 2	20 点、発表	20 点、定期	明試験 40 点					
	科購入:		書)	文部科学省	『幼稚園教	育要領』								
_	考 購 入 ·	<i>*</i>	書)	必要に応じ	て適宜指示	する。								

科	目		名	保育内容・健康 I												
				三井 3		-										
				1年		単位	数	2 単位		開講形態	演習					
開	講	時	期	後期		必修证	選択	必修		資格要件	保育士:必修・幼稚園:必修					
学	習到:	達目	標	・子ども	・領域「健康」のねらいと内容を理解し、その指導法を修得する。 ・子どもの発達を支える領域「健康」の役割と、その保育実践の在り方について理解する。 ・身体を使った遊びを実践的に学び、その知識・技術を習得する。											
授	業の	概	要	身の発育	領域「健康」の内容を、具体的な保育実践から学び理論的に位置づける。遊びや生活を通して心身の発育発達を支える具体的な指導法について実践的に学ぶ。園・保育者と保護者との関係が子どもの心身の発達に影響を及ぼすことから、保護者支援の実践的課題について検討する。											
				1 1	受業	のガイ	゚゙ヺン	/ ス								
				2 1	保育	内容	「健康	き」について 健や	かな心と具	身体を育てる	とは 実践に学ぶ					
				3 -	子ど	もの心	身の)健康 園生活全体	xと長期的原	展望から捉え	3					
				4	子ど	もの心	身の)発育と発達 環境	電との関係 が	から考える						
				5	教材	研究 1	対	†象への働きかけと	:その変化	感覚と心						
				6 f	建康	の具体	的内	容と保育指導案	教材研究	1に基づいて	基本的な考え方を学ぶ					
								É具等の特徴と安≦ 『実践にどう配置す		え方・実際	危険をどうとらえるか ハラハラ					
授	業の	計	画			習慣のる自信		身と保育者の関わり	生活の	自立を支える	5保育実践 あこがれや自分の力に					
				9 1	食育	と保育	手践	長の具体的事例 1	身体づくり	りとの関係						
				10 1	食育	と保育	手践	長の具体的事例 2	生活と遊び	びを通した食	育の在り方					
				11 園生活の時間と子どもの時間 家庭との関係を視野に入れて(子育て支援の実際)												
				12 柞	莫擬:	授業 1	運	動構造と指導法の)体系を学び	び指導計画を	立てる					
				13 柞	塻擬:	授業 2	2 用]具を使った遊び <i>0</i>	指導法を学	学ぶ						
				14 柞	塻擬:	授業3	外	遊びの実際と発達	重の関係							
				15	今ま	での学	学習の	まとめと振り返り								
				参考文献	鉄・う	資料に	目を	·通すこと。								
授	業の	留意	点													
				課題提出	出7	5 点、	実技	への取り組み25	点によって	て評価する。						
学評	生に	対す	る価													
教(科 購 入 <i>!</i>		書)	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』												
参 (考 購 入 ⁽		書)	参考文献・資料は授業の中で提示する。												

科	E	1	名	保育内容・健康 II												
担	当 教	員 人	名	三井 登					T							
学	年	配	当	3年	単位数	1 単位		開講形態	演習							
開	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件	保育士:選択・	・幼稚園:選択						
学	習 到	達目	標	・領域「健」・領域「健」・運動意欲	「保育内容・健康 I 」での学修をふまえ、以下の点を深める ・領域「健康」の観点から子どもの発達を保障する実践的課題と方法について学ぶ。 ・領域「健康」に関する指導計画、環境構成、保育者の役割について実践的に学ぶ。 ・運動意欲を育む指導、危険や安全を意識するための教師の具体的援助や指導について学ぶ。 ・食育の方法や子どもの健康を保障するための子育て支援の具体的方法について学ぶ。											
授	業 <i>0</i>)概	要	的実践から ら課題を発	領域「健康」で対象とする、心身の発達、運動指導、生活習慣、安全、食育などについて、先進的実践から学びながら、学生自身が調査研究する。指導計画を立てて実践し、集団で議論しながら課題を発見し、子どもの発達を教師が保障する指導の在り方を学ぶ。また、保護者と保育者・園との関係を、子どもの心身の発達保障という観点から、その共同の在り方を検討する。											
				1 授業	のガイダン	[′] ス										
				2 子ど	もの健康	運動・食事・	・睡眠									
				3 子ど	もの心身の	発育と発達	欲求と運動									
				4 保育 割学		の「健康」	幼稚園教育要	領、保育所保	民育指針より環境	意構成、保育者の役						
				5 運動	遊びの系統	的指導からみ	みた年間計画等	の指導計画を	考える							
				6 生活	習慣の獲得	と保育者のな	いかわり 基本	的生活習慣·	安全についての)指導・援助を学ぶ						
				7 基本	的生活習慣	(、運動遊び、	安全生活に関	わる指導計画	iについて調べて	発表する						
授	業 σ.) 計	画	8 子育 ぶ	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1											
				9 教材 方	研究1(運	動遊び・体育	育遊びの展開そ	の1)運動機	能の発達・心 ℓ	の発達と教材の選び						
				10 模擬	授業1(運	動遊び・体育	育遊びの展開そ	の2)鬼ごっ	こあそびなどの	指導案の実践						
						動遊び・体で にして学ぶ	育遊びの展開そ	の3)運動を	っそびの系統的打	指導の研究方法を遊						
				12 模擬	授業2(運	動遊び・体育	育遊びの展開そ	の4) 競い合	う遊びの指導案	どの実践						
				13 健康	と食育につ	いて 食育0	り指導における	取り組みにつ	いて調べ指導計	一画を立てる						
				14 食育	の取り組み	から学んだこ	ことを実践する									
				15 今ま	での学習の	まとめと振り) 返り									
				参考文献·	資料に目を	通すこと。										
授	業の	留意	点													
				課題提出8	0点、実技	への取り組み	メ20点によっ	て評価する。								
学評	生に	対す	る価													
教(科 購 入		書)	文部科学省『幼稚園教育要領』 厚生労働省『保育所保育指針』												
				参考文献・	資料は授業											
参 (考 購 入		書)													

科	E		名	保育内容・	 表現 I				
担	当 教		名	三国 和子	・今野 道	 裕・堀川 真			
学	年	配	当	1年	単 位 数	2 単位	開講形態	演習	
開	講	時	期	後期	必修選択	必修	資格要件	保育士:	必修、幼稚園:必修
	習到:			念や子ども 領域「表現	の表現の発 」に関わる	達に関する知識を学び指	導法を身につけ 構成や教材の提	る。	表現についての一般的概 もの表現の受容など多方。
授	業 の	· 計	画	2344345656788表表表表表表表表表表模模10111223表表表模模1112134模模141444444	園ももとと感ののののの保保教ののの動伝方方方育育ま出出のえ法法法法(1)(2)(3)(4)(4)	絵と歌とことば (担 工作 (担当:今野)	三国) 今野) (担当:堀川) 当:今野) 当:今野) 堀川) 三国)	の理解	(担当:三国)
授	業の	留意	点			識しながら受講すること。 (30点)、課題提出 (30点)		ト(40 点)	により評価する。
学評	生に	対す	る価						
教(科 購 入:		書)			育要領』 厚生労働省『係 クト編『青井みかんと一			
参 (考 購 入 ·		書)	今野道裕『	 作ってあそ	べる製作ずかん ~3・	 4 ・5 歳児の保	 育に〜』	学研

科		E	l	名	保育内容・	表現Ⅱ(音	·楽)				
					三国 和子						
学		年	配	当	3年	単 位 数	1 単位		開講形	纟態	演習
開	i	講	時	期	前期	必修選択	選択		資格要	更件	保育士:選択・幼稚園:選択
学	習	到	達目	標			での学修を踏ま 能を身につける。		表現」に	おけ	る音楽活動の内容及び指導につい
授	業	€ σ.)概	要	養われる子	どもの音楽	・ 的感性や表現に	関する事項に	こついて	、実	行われる音楽活動やそれを通して 技やグループワークを交えながら 支援のあり方について深めていく。
					1 イン	/トロダクシ	/ョン 保育にお	ける音楽の信	立置づけ		
					2 子と	ぎもの音楽表	表現とその発達(1)) (グループ	゚ワーク)	観察	72
					3 子と	ぎもの音楽表	表現とその発達(2)	(グループ	゚ワーク)	考察	<u> </u>
					4 子と	ぎもの音楽表	表現とその発達(3)	(全体)報	告とまと	とめ	
					5 音導	※活動のねら	110				
					6 音導	※活動の教材	け研究(1) レク・	チャー			
					7 音導	※活動の教材	付研究(2) 演習				
					8 音第	※活動の指導	享(1) レクチャ	_			
授	業	€ σ.	計	画	9 音楽	※活動の指導	享(2) 演習				
					10 音楽	※活動の指導	享(3) 模擬保育				
					11 音楽	¥活動のメン	/ッドとアプロー [・]	チ(1) レ	クチャー		
					12 音楽	¥活動のメン	/ッドとアプロー [・]	チ(2)			
					13 音楽	&遊びの実践	え(1)(グループワ	リ ーク)			
					14 音楽	&遊びの実践	(2) (全体)				
					15 まと	: <i>b</i>					
					場合によっ	ては動きや	すい服装が必要。	となることか	ぶある。		
授	業	の	留 意	点							
					レポート調	題(50点	()、授業における	課題提出(50点)	によ	こって評価する。
学評		. IC	対す	る価							
教(私	↓ 必 須	書)		`『幼稚園教 「究プロジェ		かんと一緒に	こ考える	幼児	の音楽表現』大学図書出版
参 (入	f 任 意	書)							

科 目 名	保育内容・表現Ⅱ (造形)
担当教員名	今野 道裕
学 年 配 当	3 年 単位数 1 単位 開講形態 演習
開講時期	前期 必修選択 選択 資格要件 保育士:選択・幼稚園:選択
学習到達目標	「保育内容・表現 I 」での学修を踏まえ、以下の事項についてより高度な知識・技能を身につける。 ・造形活動の実際を体験し、集団的な遊びを通して指導していく上での留意点や工夫について考える。 ・パネルシアター等の製作を通し、保育者が指導する上での表現力・パフォーマンス力向上をめざす。
授業の概要	前半の「遊びを組織する」はグループでの討論・製作・発表(模擬保育)を基本に「考える」過程を重視する授業を行う。後半のパネルシアター等の製作は個人での活動を中心に行う。基本的技術・仕掛けの工夫についての知識はテキストとして提供し、必要に応じて個別に対処し、個々の発想を重視した活動とする。
授業の計画	 オリエンテーション 遊びを組織する(1)遊びの大会を計画しよう テーマ・内容の決定 遊びを組織する(2)遊びの大会を準備しよう ゲームの道具作り 遊びを組織する(3)遊びの大会を準備しよう 景品作り 遊びを組織する(4)遊びの大会を準備しよう 景品作り・運営の方法確認 遊びを組織する(5)直前準備・遊びの大会を楽しもう 遊びを組織する(6)遊びの大会を楽しもうー模擬保育・反省と評価 様々な造形パフォーマンス パネルシアター(1)基本的なしかけを理解する パネルシアター(2)制作の実践 製作上の諸注意 パネルシアター(3)制作の実践 特殊なしかけとその効果 パネルシアター(4)制作の実践 発表の基本 パネルシアター(5)発表訓練 効果的なパフォーマンス パネルシアター(6)発表ー模擬保育 児童参加型にするための工夫 パネルシアター(7)発表ー模擬保育 グループごとの発表とまとめ
授業の留意点	都度必要な道具を連絡するので準備すること。
学生に対する評 価	授業における取り組み(30 点)、発表および制作物提出(40 点)、レポート提出およびその内容(30 点)。
教 科 書 (購入必須)	
参 考 書 (購入任意)	

科		目		名	保育内	羽容・		語)								
担	当	教	員	名	堀川	真										
学	年		配	当	3年		単 位 数	1 単位		開講形態	演習					
開	講		時	期	前期		必修選択	選択		資格要件	保育士:選択・幼稚園:選択					
学	習至	到道	達目	標	(2)	こど	もの表現活		言語領域」	発達につなが	るものへの理解を深める。 るものをみつける力を高める。 。					
授	業	<u>ග</u>	概	要	こどもが受容する児童文化財および表現活動を、幼児教育における「言語領域」という視座からその変遷も含めて概説し、こどもの言葉の発達をうながす知識、技能の習得と、教材の作成および開発、指導法を実践的に学ぶ。											
					1	ガイ	ダンス「	うた」で覚えるこ	ことば~NHK	(「みんなのう	た」視聴					
					2	児童	画にみる表	現の発達								
					3	絵画	の中のメッ	セージ								
					4	現代	美術におけ	る表現とことば	の往還							
					5	見た	ものが導く	ことば~「こど	もの言葉は	:詩なのか」を	考える					
					6		親しむ									
					7			ニスライドショー								
塪	業	മ	計	画	8			ニスライドショー	をつくる	発表編						
JX	~	0,	п		9 四行詩をつくる 10 四行詩な 5 t に の b 7											
						10 四行詩をうたにのせる 11 「かるた」であそぶ										
							_									
							るた」をつ 化とことは									
								、)海外アニメーシ	ョン							
						まと		/4時/ドノー/ハーン	3 2							
					10	80	~>									
					主体的	ルタ	業に参加す	・ステレ								
授	業 <i>0</i>	り目	留意	点	<u> </u>)(C)X;	米で参加す	2 C C 0								
学評	生に	こヌ	すす	る価	授業中	『の小	課題(60	点)、レポート割	果題(40点	気)により評価	苗する。					
教 (購力		必 須													
_	購力	_	壬意													

科		E	 I	名	乳児保育 I					
					鹿嶋 桃子					
学			配		2年	単位数	1 単位		開講形態	演習
開		講	時	期	後期	必修選択	必修		資格要件	保育士:必修
学	習	'到	達目	標			と保育におけるいて科学的な記			乳児保育を担う保育士の役割およ標とします。
授	う	ξ σ.)概	要						R育について学び乳児保育の基礎を 保育観の形成を総合的に図ります。
授	 1	έ σ.) 計	画	2 6 カ 3 6~1 4 0~1 5 12~ 6 18~ 7 2 歳 8 3 从 保別 10 保別 11 乳児 13 乳児	18 ヶ月児の 23 ヶ月児の 児の保 児の保 り り り り り り り り り り り り り り り り り り り	保育 保育 保育まとめ の保育 の保育 の保育者と保育 画 場の 郡 選・親の	の発達		
授	業		留意	点	グループで って取り組			話し合い、製作	乍など)も耶	なり入れますので、各自が責任を持
学評		: (=	対す	る価	人 44.1× (元)	します。な				試験(80 点)での結果をもとに総 た場合は評価しかねますので留意し
教(↓ 必 須				資料でわかる トを配布します		所時代』(ひき	となる書房)
参 (; 任 意	_						

科		目		名	乳児保育Ⅱ					
		-			有好 恵子					
	<u> </u>				4年	単位数	1 単位		開講形態	
					前期	必修選択				保育士:必修
					保育の現場 当にかわい	L での子ども いな、不思	<u> </u> たちとのいろい	知りたい」。	L - ドやビデオ と思えるよう	 などを交えながら、「子どもって本 な授業をしたいと思っています。
授	業	<u>ග</u>	概	要			と特性を学びまっべうた、絵本なる)、発表した	りします(実践)。
授	業	Ø	計	画	2 乳児児 本本本育育育 どどと 13 13 14 12 13	的生活習慣して活習ではいいののののののののののののののののののののののののののののと	性(1) 性(2) はの形成(1) はの形成(2) はの形成(3) み子どもの生活とら み子どもの生活とら み子どもの生活とら み子どもの生活とら な子どもの生活とら	遊び (2) 遊び (3)		
授	業 0	の 旨	留意	点			技を織り込んでい シペーパー50 点			Iしてください。
学評	生に	ت ک	対す	る価	再	ッァクンヨ	ン・ハー・ハー 80 点	., レゕート	50 从。	
	購り		必 須		講義時に資	料を配布し	ます。			
参 (購り	_	壬意	_	「今求めら	れる質の高	保育0歳児」秋美い乳児保育の実践 い乳児保育の実践 」佐々木正美著	浅と子育て ま	支援」 榊原洋	: かもがわ出版 :一、今井和子編著 ミネルバ書房

科目	名	就学児保育	A (思春期	の支援)		
担当教員						
		4年	単位数	· 	開講形態	演習
開講時	期	前期	必修選択	選択		保育士:選択
学習到達目	標	2. 就学児 3. 就学児 4. 就学児 5. 就学児	保育と児童 保育の制度 保育におけ 保育の現状	就学児保育の意義と歴史的福祉の関連性及び児童の格子や実施体系等について理解る児童の人権擁護及び自立と課題について理解する。ちの心の問題をよく理解し	種利擁護につい 解する。 Z支援等につい	て理解する。
授業の概	要	課題がいじ れら「問題	めや、非行 行動」への	、不登校などのいわゆる	「問題行動」と の成長に大きな	れ故にまた、それまでの心と育ちの として現れやすい時期でもある。そ ☆影響を与える。この授業では、こ :ぶ。
授業の計	画	第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 1 1 2 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回	い 要 が 長 う ス き 書 記 ま か 青 症 等 で み き き 着 童 行 き 緒 で を 養 少 こ 障 を 養 少 こ 障 を 養 か ま ま の ま の に か に か に か に か に か に か に か に か に か に	り巻く状況 (担当宮内俊体表現性障害 (担当佐々な で ま 来 で (行 為) 障害 (担当佐々木彰) トゥレット障害 (担当佐々木彰) で ま・緘黙 (担当佐々木彰) で 害・緘黙 (担当佐々木彰) る子どもたち (担当宮内俊一) ・ 不登校児童 (担当宮内俊一) ウンセラーとスクールソー	木彰) (担当佐々木i 左々木彰) 彰) 々木彰) 俊一) 宮内俊一)	
授業の留意	点	具体的な事する。事前			を作る。また、	関連するプリントも配布して使用
学生に対す評	る価	授業時のリ	アクション	ペーパー30 点、課題・レバ	ポート 70 点	
教 科 (購入必須	書)	山縣文治編	「よくわか	~る子ども家庭福祉」ミネル	・ヴァ書房	
参考(購入任意	書)	山脈大海海		編「社会福祉用語辞典」ミ:小六法」ミネルヴァ書房	ネルヴァ書房	ş

IN		_	Þ	补	D (쓰초/ロ	本)										
科中		<u> </u>			就学児保育B(学童保育) 谷地元 雄一											
	当 年			4年	単位数	1 単位		開講形態	演習							
	講			前期	必修選択				保育士:選択							
		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		・学童保育 ・学童保育	・学童保育の理念・歴史・制度について理解する。 ・学童保育に通う子どもの生活と発達について理解する。 ・学童保育指導員の業務内容と専門性について理解する。											
授	業	の概	要	ない小学生 指す。近年、 ある。本講	学童保育とは、児童福祉法では、「放課後児童健全育成事業」といい、保護者が就労等で家庭にいない小学生を対象に、放課後や学校の休業日の生活を豊かにすることを目的とした事業の総体を指す。近年、学童保育のニーズは、高まっているが、保育内容や専門職の養成など多くの課題がある。本講義では、学童保育の成り立ちや目的、関連法について学ぶとともに、学童保育における生活づくりの進め方や指導員の職務について学ぶ。											
授	業	の計	画	第 第 第 第 第 第 8 8 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	緊急時対応 子どもへの対応	の関係 幸 解 た生活づくり									
授	業 の)留意	5点	各テーマに・	ついてグル	ープディスカッ	ションと発え	長を行う場合	がある。							
学評	生に	こ対す	っる 価	課題の取組	伏況(50 点	烹)、レポート(50 点)等で	評価する。								
教 (科人必須		資料を都度配布する。												
参 (考 任 意	書(5)													

科		目		名	病児・	病後	児保育							
					永谷 智恵・佐々木 俊子・矢野 芳美									
	<u> </u>				4年		単 位 数				 開講形態	演習		
開	Ī	講	時	期	後期		必修選択	必修		:	資格要件	保育士:選択		
学	習	到:	達目	標	実態に	上触れ						:儀なくされた子どもとその家族の 痛が、子どもの成長発達に及ぼす影		
授	業	: の	概	要	な取りる演習)組み gを多	から闘病生 く取り入れ	活を送る	子どもや家 より実践的	で族へのす りな学びを	え 援の実際に	習したうえで、国内外における様々 こついて学ぶ。グループワークによ みの様々な問題解決にも対応できる		
授	業	· Θ	計	画	第1 第1		院外においている。 院外においている。 では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中	の現状と課状とない。 おけい 見の おけい 見の おけい 見の おかい かい か	病疾病慢性が 要が 要が 要に が が を が を を を を を を を り の の の の の の の の の の の の	里解 I E B M I イ プ リ プ ア 子 存 応	とNBM オームド・ レーション レーション	する支援の実際 I 家族支援総論 コンセントとアセント I		
授	業	の ł	留意	点	各テー	ーマに	ついてグル	ープディス	スカッショ	ンを交え	て進行する	0		
学評		(C ;	対す	る価	課題の	取組	伏況(50 ,	点)、レポー	-卜(50 点	京)等で記	平価する。			
	購		必須		資料を	都度	配布する。							
_	購	_	任 意											

				T										
科	E		_	社会的養護内容										
担	当教			鹿野 誠一										
	年			2年	単位数			開講形態						
開	講	時	期	後期	必修選択	必修		資格要件	保育士:必修					
学	習到	達目	標	支援や処遇を目標とし	の歴史、現て、実践的	状、将来展望な に学習する。	まどについてお	深求すると共	とりわけ、児童福祉施設における はに、自らがよき支援者となること					
授	業 σ.)概	要	ム、生活し	ている子と	もたちの実情な	ょどを学び、自	自立支援のあ	社会的養護の法制度、支援のシステ のり方などについて考える。児童問 について重点をおいてすすめたい。					
				1 ガイ	ダンス(諱	義の概要と進め	う方)							
				2 社会	的養護の体	系 I ~社会的養	を護の歴史と明	見状						
				3 社会	的養護の体	系Ⅱ~社会的養	を護の法制度、	支援のシス	、 テム					
				4 施設 状	養護の実際	₹ I ~児童養護系	系の施設(乳児	見院・児童養	を護施設・母子生活支援施設) の現					
				5 施設	養護の実際	₹Ⅱ~児童養護施	施設の生活形態	まと支援の実	際					
				6 施設	養護の実際	<Ⅲ~児童養護施	 直設における支	で援のあり方	iと児童の権利擁護					
				7 家庭	的養護の実	際〜里親制度と	老養子緣組制度	Ę						
1777	₩ σ	. =1	H	8 施設	養護の実際	KIV~施設養護と	家庭的養護の)比較						
授	業 σ.)計	画	9 施設	養護の実際	₹V∼児童自立支	で援施設、自立	Z援助ホーム	における支援					
				10 施設 設)										
				11 施設	養護の実際	₹VⅡ~障害のある	5子どもの施設	2②(肢体不	自由児施設・重症心身障害児施設)					
				12 ケー	ス記録・生	:活記録の意義と	記録法							
				13 自立	支援計画の	策定の意義と力	法							
				14 児童	福祉施設の	職員になるため	りに~実習や家	北職活動の心	構えと職員に求められるもの					
				15 まと	め									
授	業の	留意	点						発言を求めて進行します。 業に臨むことを求めます。					
学評	生に	対す	る価			ポート、課題レ、ミニレポート			·。 性 2 0 点とする。					
教(^科 購 入		書)	『児童の福	祉を支える	【演習】社会的	養護内容』	萌文書林						
参 (精入	-	書)	『保育士を ァ書房、 『ファミリ 『児童と 『ネグレク 『凍りつい	めざす人の ーソーシャ かっろ真ぐる トた瞳』(さる がんばって	ルワークと児童 』(杉山春〜朝 ゃんはなぜ死ん さやななえ/椎名	だ』(株)みらい 「福祉の未来』 日新書) いだか』(杉山 「ち、集英社	ハ『よくわか (資生堂社会 春~小学館) t)	かる養護内容・自立支援』ミネルヴ 会福祉事業財団〜中央法規) 『四十一番の少年』(井上ひさし〜					

科	F	3	名	保育相談支				
				糸田 尚史				
		配		3年	単位数		開講形態	演習
_		時			必修選択			保育士:必修
1713	нгт		,,,	-		~~ 意義と原則について理解する		PN 13 - 1 - 2 - 12 - 12 - 12 - 12 - 12 - 1
学	習 到	達目	標			本を理解する。 実際を学び、内容や方法を理	里解する	
-						业施設における保護者支援の		(理解する。
				現在保育現	場で重視さ	これでいる。保護者に対する	保育相談支援	の意義と原則や、子どもの最善の
+==	₩ /	7 +HI		利益の重視	、信頼関係	を基本とした受容的関わり	等、保護者支	援の基本について学ぶ。また、保
权	未 0	刀饭	女	育別寺児里 る。	価値施設に	-ねりる保護有文援の美除、	尤里怕 談///等	の相談支援の実際について理解す
				Mr				
						援とは何か (担当 傳馬)		(REC)
				21 v = [1.13 . 141=	と保育士の専門性を生かした	->	(特馬)
				>14		善の利益と福祉の重視 (担	1437	
					, = 0 ,,,,	長の喜びの共有 (担当 傳)	**	
						育力の向上に資する支援 (如归杜の女子 (知以 唐田)
						基本とした受容的関わり、		会保持の 等重 (担当 傳馬)
						ける保育相談支援と実際(
				2,,	_ ,, _ ,,,,	の活用と関係機関等との連携		
						援の実際①:保育相談支援の		W
授	業 0	の計	画			援の実際②:保育相談支援(
						援の実際③:保育相談支援の		
						設における保育相談文援(J) (担当 糸田)	:保育別におり	ける特別な対応を要する家庭への支
							: 児童養護施記 当 糸田)	受(一時保護所)等要保護児童の家
						設における保育相談支援③) での保育相談支援の実際		(児童発達支援センター・児童発達 田)
						設における保育相談支援④ 実際 (担当 糸田)	: 児童相談所・	児童家庭支援センター等での保育
				ケース・ス	タディやグ	· ループ・ワークでは積極的		発に意見を述べ合うことを期待す
授	業の	留意	点	る。			, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
				(1) 期末翁			当分 40 占)	
学評	生に	対す	る価			ションペーパー20 点	ョ <i>刀</i> 40 <i>杰)</i>	
					to to a second			
教 (^抖 必須	書)	西村重勝·	青井夕貴編	『保育相談支援』 中央治	去規 2015 年	Ē
		1.		陳省仁・古	塚孝・中島	常安編著 『子育ての発達	心理学』 同	文書院 2003 年
参 (考 任 意	書)	井村圭壯·	相澤譲治編	著 『保育と家庭支援論』	学文社 20	15 年

科 目 名	子ども理解	レ数を相談				
担当教員名			•			
	2年	単位数	2 単位		開講形態	講義
開講時期	前期	必修選択	必修		資格要件	幼稚園:必修
学習到達目標	・幼児期の・カウンセ・教育相談・幼児期の・	子ども理解 リングの基 の意義を理 子どもの発	にかかわる基礎的 礎理論を理解し、 解し、教育支援の 達と家庭や社会に	が理論と幼児 カウンセリ の諸技法を実 こおける現代	型期の子ども ングに必要 	論及び実践方法を学ぶ。 の教育との関連を理解する。 な諸技能を修得する。 「について学び、それに対する実際 状況即応的に応用できる。
授業の概要	きた相談(解と教育相)	ソーシャル 談での活用 その教育相	·ワーク) やカウン について修得する	∨セリング <i>0</i> 5。近年、注 ê達症や情終	D基礎理論と E目されてい 者・社会性の	、保健医療福祉分野で実践されて 方法を学び、教師が行う子ども理 る神経発達症(発達症/発達障害) 発達にかかわる教育相談、支援の 解説する。
授業の計画	第11回 第12回 第13回 第14回	と子び子臨子ス子発子ウ重子心子達子性子子子子子偏どのど床ど理ど達どンのど身ど症ど学どどどどどどりも協も発も論も検もセ特ものも)も習ももももももも関連達理と理査・リンプの障があった。かかかの問題を選出され	 選挙のでは、 では、 では、	害里 期 イ 察ABをプロスシェ題題題談門、 論 の ト 法C-教子 お 達 ペ教子①②③:職い認 育 論 面、支イ る 滞 ト相も不子集育携め知 理 と 接N援・ と 、 ラシ・登と団委(、 を	カウンセリングマインドによるカ 家族療法、長所活用型指導、2E(二 臨床症状、神経発達症(発達障害)、 ーション症、知的能力障害(知的発 注意欠如・多動症(AD/HD)、限局 ける精神的な障害の理解と支援
授業の留意点	ケース・スる。	タディやク	゛ループ・ワークで	では積極的に	こ参加し、活	発に意見を述べ合うことを期待す
学生に対する評 価			ンョンペーパー20	点		
教 科 書 (購入必須)	陳省仁・古	塚孝・中島	常安(編著)			つなぐ』 北大路書房 2016年 同文書院 2003年 (※「保育内
参 考 書 (購入任意)	佐伯胖・大 書房 2013	豆生田啓友 年		『子どもを	「人間とし	会 2014年 てみる」ということ』 ミネルヴァ 、』 金剛出版 2008年

Til			-	[D -	22					
科	E			児童文化演						
				今野 道裕					Tr Ab	\rightarrow \text{TITI}
学品		配		2年	単位数				形態	
開	講	時	期	通年	必修選択		. + n +			保育士:選択・幼稚園:選択
学	習到	達目	標	し、その基 保育場面で 絵本は誰も	礎的な技術 の活用意欲 が幼児期に	・技能を身につ を高める。 親しんできたも	oけるとともい oのであろう。	に、集 。その	団で創 絵本作	織者となる必要がある。演習を通 造することの喜びと感動を体験し 家および絵本という表現形態への 授業の目的である。
授	業 の	概	要	日本の昔動物園に	話を素材に 行き動物の	形制作の実習と した影絵劇の作 特性を理解した 絵本の魅力を知	■成と上演を行 こがら、絵とし	_{亍う。} して描	く際の	ポイントを知る。
授	業 <i>の</i>) 計	画	2 3 4 5 6 7 8 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	当劇 劇作劇(劇台劇)園グ園当園(園当園当劇脚劇行きを、を、を担を今を当を、をルを:を担を:を本を)野つデーつへつ:つ野つ:つ、作一作堀作当作堀作畑つ作く)くザーく彩くそく)く今く、ろプろ川ろもの)くる	5 (4) 製作仕 5 5 (5) 練習 F) 5 (6) 発表会 (1)素材の特: サ 5 (2)グループ (3)製作 1 個別 (4)製作 2 配置 5 (5)完成 製作 5 (5)完成 製作 6 (4)製作 2 配置 6 (5)完成 製作 6 (7) 表別 (7)	/(/当小 上 ~ (・虱ご 刂 畳 ~ 役 作ジ担 ジ:道 げ 修 担 動川と 動 ~ ト 割 の今 形)製 習 練 今 特 画 製 げ 流 分 担の今 形)製 習 練 今 特 画 製 げ 流 分 担	1 7 1 8 1 9 2 0 2 1 2 2 2 3 2 4 2 5 2 6 2 7 2 8 2 9	役影と影工影今動川動動川動川動川物堀物る物当物えま(担割絵光絵夫絵野物)物物)物)物)語川語(担語:語ると当の劇の劇と劇)と「をを「を」を「を」をはめ:	描いてみよう(4) 終わり方を考 担当:堀川) 絵本と絵本作家・絵本と子ども
	業 の					ため、できるた (40 点)、発表				ポート提出およびその内容(30 点)
評教		ļ	価書	により評価	する。	をプリントを暫				. 35, 25, 5, 5, 6, 7, 7, 100 ////
参	購入購入	.	書							

科		目		名	自然保育実	践演習					
担	当	教	員	名	三井 登・	柳原 高文					
学	年	F.	配	当	2年	単 位 数	2 単位		開講形	態演習	
開	請		時	期	通年	必修選択	必修		資格要	件	
学	習:	到;	達 目	標	自然に対すとができる。		きる。自然の中で遊び	がをつくりだすこ			
授	業	Ø	概	要	実践を構想 理論と、先 生活や遊び	し、実践的 住民族文化 の保育計画	に学び、方法を 、人間と自然の を5領域との	を習得するこ。 の対立構造な。 関係を明確に	とを目的 と どを理論的 しながら構	学び、地域の自然環境 ごする。子どもと自然 的に学ぶ。四季を通り 構想し実践することを を身に付ける。	***だの関係に関する。 **た自然の中での
授	業	Ø	計	画	 第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	かすすで、山とと論ででで、でしてでいる。 でいまり できょう でいま はいま はいま はいま はいま は が ない ない ない ない かん かん いい は は が かん いい いい かん いい	る自然 豊かな 市 豊かな 市 をクト 名 自然	自然の実生、というでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	\$170 \$180 \$190 \$200 \$210 \$220 \$230 \$240 \$250 \$270 \$270 \$270 \$270	自る自自自自自自自自自生自生自生自生生生生生性が必要的自自自自自自自自自自生自生生生生生生生生生生生生生生生生生生生生生生生生生	ああるるるを をききききけん。 を
授	業(の ł	留意	点			学生は事前に木				
学評	生(اد <u>۶</u>	対す	る価	1)定山物 (0 万	·····································	D取り組み 30 点	<i>T</i> i			
教 (必 須	書)	なし						
参 ()	購.	考 入 (壬意	書)	講義時に提	示する。					

科	E		名	国語										
担	当 教	7 員	名	堀川	真									
学	年	配	当	1年		単位数	1 単位	[開講形態	演習				
開	講	時	期	前期		必修選択	選択		資格要件	幼稚園:選択				
学	習到	達目	標	理解す	ける。	また、乳丝		文字に関心の持		L幼児期にふさわしい教材について ぶできるよう、絵本の読み聞かせ、				
授	業 <i>0</i> .)概	要	ことに	ば遊び	などの演習		解と表現技能の		例も取り上げつつ、絵本や紙芝居、 、していく。各回のテーマに沿わせ				
				第1	回	オリエン	テーション 小	学校学習指導	要領を読む					
				第2	2回	赤ちゃん	絵本① 国内で	のはじまりと	構成上の特徴	数				
				第3	3 回	赤ちゃん	絵本② 古典と	新作、魅力と	展開					
				第4	1回	のりもの	絵本① 制作者	の視点から~	「あかいじと	どうしゃよんまるさん」を中心に				
				第 5	5 回	のりもの	絵本② 古典と	新作、魅力と	展開					
				第 6	6回	オノマト	ペ絵本 方言、	不思議な造語	も視野に入れ	いて				
				第 7	7 回	紙芝居	歴史とバリエー	ション						
				第 8	3回	たべもの	絵本 食に親し	む手立てとし	て					
授	業 σ.	計	画	第9	第9回 からだの絵本 不思議を知る、自分を知る									
				第1	0回	せいかつ	の絵本 暮らし	の習慣を導く						
				第11回 昔話絵本① 昔話の特徴と日本の名作絵本に親しむ										
				第12回 昔話絵本② 海外の民話を含む名作絵本に親しむ										
				第1	3回	絵本史①	アメリカ古典	絵本を中心に						
				第1	4回	絵本史②	ロシア絵本の	20 年代と日本	における絵	本の近現代史				
				第1	5回	文字のな	い絵本~まとめ							
授	業の	留 意	点	授業/ さい。	内で絵	本読み聞え	ゝ せの実践や簡単	単なワークショ	ョップを行い	います。気負わずに取り組んでくだ				
学評	生に	対す	る価	授業内	内の課	題やレポー	- トの提出を 50	点、期末レポ	ートの提出を	を 50 点として評価する。				
教 (^科 購 入	↓ 必須		講義時	寺に資	料を配布す	-3.							
参 (購入	4	書)											

Ŧ:J			A	生活				
科中	目		名	サイス かり かり かり あっと かり あいま あいま でんし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かいし かい				
	ョ 叙 年	配		1年	単位数	1 単位	開講形態	演習
	講			1 +	必修選択			幼稚園:選択
	習到:			・生活科と	 幼児教育と	の教育内容の関わりを把 て、遊びや活動の意味づ	屋する。	77 I FEB 1 22 17
授	業の	概	要	観と生活科	の関連、地	つながりについて実践的 域に根付いた文化、環境 ク、ワークショップ形式	を知り教材に活	
				第1回 7	ガイダンス	講義計画、評価方法		
				第2回 ラ	大学の自然	環境① 身の回りの自然額	見察	
				第3回 ラ	大学の自然	環境② 身の回りの自然を	を教材にする	
				第4回 7	大学の自然	環境③ 教材発表		
				第5回 生	生活科の歴	史的実践的系譜と展開①	戦前の名著「	自然の観察」
				第6回 生	生活科の歴	史的実践的系譜と展開②	アクティブラ	ーニングと生活科
				第7回 설	生活科の「持	受業」にふれる		
				第8回 설	生活科の教	育内容論(1)生活科の目	的	
授	業の	計	画	第9回 生	生活科の教	育内容論(2)幼稚園教育	と生活科の関わ	ρŊ
				第10回 均	地域の歴史	・文化・環境にふれる①	地域の中から	教材となり得るテーマを発見する
				第11回 均	地域の歴史	・文化・環境にふれる②	発見したテー	マを探求する
				第12回 均	地域の歴史	・文化・環境にふれる③	グループワー	ク・劇発表の手法と準備
				第13回 劇	削発表①			
				第14回 劇	劇発表②			
				第15回	まとめ			
授э	業の ^り	留意	点					いくので、活発な論議を行う上で予 ので行動しやすい服装、準備をす
学生	生に:	対す	る価	授業の取り	組み方・意	欲 20 点、制作物 20 点、	発表 20 点、定算	明試験 40 点
ы			ш					
				小学校学習	指導要領生	 活		
教(則	科 購 入 :	必須	書)					
				幼稚園教育	要領、その	都度紹介する。		
参(貝	考 購 入 [·]		書)					

科		目		名	音楽 I							
		教			三国 和子							
学	左	Ę.	配	当	1年	単位数	2 単位		開講形態	演習		
開	i	構	時	期	通年	必修選択	必修	Į	資格要件	保育士:必任	修・幼稚園:	必修
学	習	到证	達目	標			とる音楽理論に関する基礎 能を修得し、音楽に対し					幼児に指
授	業	Ø	概	要	能を修得す	る。知識・ や器楽のあ	もの音楽表現の様態を5 理論とともに実技を行いり方について学ぶ。さら	八、貞	身体の動きと	: 結びついた	音楽表現や、	幼児期に
授	業	Ø	計	画	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	リリスを受いると、これでは、1(12)のでは、アンスを調を普楽礎楽児楽児楽児楽意楽に、スムム的と聴のと的とへとのとのと識と適いが、一般では、1が1さに、1が1では、1	A子と音符の長さ ままざまなパターン 楽記号ー井とりなど 、さまざまなモード ラシー :(1) リトミック(1) きとソルフェーシック(2) 導 :(3) わらべうた(1) に即して :(4) わらべうた(2) とその発展 (5) ダンス(1) 拍 ステップ	第第 第第第第第 第 第 第	17回1819回19回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回回	どもの歌 (3) 唱 楽遊びをつく 器遊び (1) 器遊び (2)	リコータ 替 る 幼ミ合音 音楽 楽 (1) よう 音音楽 会 (2) よう 音音楽 全 (4) 手音楽 (5)	ゲーを用い た楽器 クベル 企画立 グルー
授	業	の旨	留意	点			すい服装が必要となる。	⇒π/π·	(4.0.5)			
学評	生	に対	対す	る価	ヘーハーア	A	点)、日常の課題・実技	計価	(4 U 点)	により評価す	ି	
教(科 入 』	必 須	書)			た200』チャイルド社 ントを配付。	Ł、『	新版 たの	しいドレミフ	ア・ランド』	教育研究
参 (_	壬意	書)								

科	E		名	音楽Ⅱ(ピ	アノ)					
	当			三国 和子	-					
学	年	配		2年	単 位 数	2 単位		開請	觜形態	演習
開	講	時	期	通年	必修選択	選択		資格	各要件	- 保育士:選択・幼稚園:選択
学	習 到	達目	標	音楽Iでの 能力を修得		え、簡単な楽譜	等やコードネ	ームを	を見て、	、子どもの歌のピアノ伴奏ができる
授	業(の概	要	る伴奏付け	を学ぶ。次		ベムに合わせ			奏ができるよう、コードネームによるよう連弾を行う。さらに、個々の
授	業(D 計	error er	第 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 4 3 </th <th>ドロを古を古と古に古を古古古の古り古で古半奏、手中手中手を手 E手中手手手動手シ手ブ手ィ手奏)マメ心メ心メ中メ m.メ心和和和き和ュ和ン和ド和付イデーデーデにデ、デーととと、とオと、とこと発</th> <th>コード、セフィーと左手 和 音 イーと左手 和 和 和 和 和 和 和 を</th> <th>ブンス) (1) C、F、G (2) G、C、D (3) F、B b、 (4) Am、Dm、 (4) Am、Dm、 (5) Gm、A) メマイー ィ デ ジ ス ペ 半 で ジ ス ペ 半 で ツ か 歌 プ い か い か い か い か い か い か い か い か い か い</th> <th>第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第</th> <th>では、一旦の一旦の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の</th> <th>理弾(1)個人練習(1) 譜読み・補正 理弾(2)個人練習(2) アゴーギグ、ダ ナミクス 理弾(3)流れの確認 理弾(4)総合表現 ダイナミクス、バラ ス 理弾(5)総合表現 アゴーギグ、タイミ が (5)総合表現 アゴーギグ、タイミ が (6) 仕上げ 理弾発表会(前半グループの演奏) 理弾発表会(後半グループの演奏) でロ曲練習(1)譜読み の曲練習(2)譜読みの補正 の中無練習(3)譜読みの補正、ダイナ の口曲練習(4)譜読みの補正、アゴー で ロ曲練習(5)総合表現、暗譜 の中曲練習(6)総合表現、暗譜の補正 の中地練習(7)仕上げ</th>	ドロを古を古と古に古を古古古の古り古で古半奏、手中手中手を手 E手中手手手動手シ手ブ手ィ手奏)マメ心メ心メ中メ m.メ心和和和き和ュ和ン和ド和付イデーデーデにデ、デーととと、とオと、とこと発	コード、セフィーと左手 和 音 イーと左手 和 和 和 和 和 和 和 を	ブンス) (1) C、F、G (2) G、C、D (3) F、B b、 (4) Am、Dm、 (4) Am、Dm、 (5) Gm、A) メマイー ィ デ ジ ス ペ 半 で ジ ス ペ 半 で ツ か 歌 プ い か い か い か い か い か い か い か い か い か い	第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第	では、一旦の一旦の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の日の	理弾(1)個人練習(1) 譜読み・補正 理弾(2)個人練習(2) アゴーギグ、ダ ナミクス 理弾(3)流れの確認 理弾(4)総合表現 ダイナミクス、バラ ス 理弾(5)総合表現 アゴーギグ、タイミ が (5)総合表現 アゴーギグ、タイミ が (6) 仕上げ 理弾発表会(前半グループの演奏) 理弾発表会(後半グループの演奏) でロ曲練習(1)譜読み の曲練習(2)譜読みの補正 の中無練習(3)譜読みの補正、ダイナ の口曲練習(4)譜読みの補正、アゴー で ロ曲練習(5)総合表現、暗譜 の中曲練習(6)総合表現、暗譜の補正 の中地練習(7)仕上げ
授	業の	留意	点	グループ単 絡を怠らな		レッスンを基本	×的な授業形	態とす	するた.	め、特に欠席・遅刻等についての連
学評	生に	対す	る価			表会(20点)、 常の課題への取				(20点) およびソロ発表会 (20 3。
教 (^抖 必須	書)			ミファ・ランド 一プ編『歌唱教			동術社	
参 (考 任 意	書)							

科 目 名	辛惠Ⅱ	(ギター)									
担当教員名											
	3年	単 位 数	2 単位	開講	形態	演習					
開講時期		必修選択		資格	要件	保育士:選択					
学習到達目標	音楽 I 力を修	」 での学修を 得する。	踏まえ、アコースティックギク	ターを	用いて	「子どもの歌の伴奏ができる技術的能					
授業の概要	奏楽器 性、コ よる伴 などの	として、大: ミュニケー: 奏法を学ぶ。 奏法を用い [*]	きな利点がある。また、自由セ ション力を育む効果が期待出タ 。 左手でコードをおさえ、右ヨ	生の高 kる。 Fでス	い演奏 この授 トロー	は、保育現場で子どもが歌う際の伴 が可能な点から、子どもたちの創造 業では、アコースティックギターに -クやアルペジオ、スリーフィンガー りしながら歌うことが出来るように、					
			ィックギターに必要な基礎知 ニングの仕方について	1 6	アル	· ペジオ演奏の基礎					
		コードネー 礎練クロマ [・]	ム、ダイヤグラムの基礎、基 チック練習	17	様々	なアルペジオのパターン					
		主要コード ナー)	の押さえ方(メジャー、マイ	18	アル	·ペジオで伴奏しながら歌唱練習					
	4	ストローク	練習(8 ビート、1 6 ビート)	19	グル	ープを分けて課題曲練習					
	5	課題曲練習	、発表	2 0	グル	ープ発表会(前半)					
	6	弦の張り替	え	2 1	グル	ノープ発表会(後半)					
	7	主要コード	の応用(7 th コード)	2 2	スト 弾き	·ローク、アルペジオを組み合わせた ·方					
授業の計画	8	8 主要コードの応用 (sus4、add9) 2 3 スリーフィンガー				ーフィンガーの基礎知識					
	9) $//\sqrt{1}$		ーフィンガーの課題曲練習、発表							
		パワーコー 応用	ドを使ったコードパターンの	2 5		な応用テクニック (ハンマリングオ プリングオフ、スライド)					
	1 1	ミュート、	ブラッシング、カッティング	2 6		ローク、アルペジオを応用した様々 ウニック					
		主要コード ーギュメン	の応用(ディミニッシュ、オ ト)	2 7	ソロ	曲練習					
	1 3	ストローク	で伴奏しながら歌唱練習	2 8	ソロ	曲仕上げ(表現の仕方、弾き方 等)					
	1 4	グループを	分けて課題曲練習	2 9	ソロ	発表会(前半)					
	1 5	グループ発	表会	3 0	ソロ	発表会(後半)					
授業の留意点	基本的	には、ギター	一の初学者・初心者を対象とし	た実技	支授業	である。					
学生に対する評 価		前期に行う伴奏付けグループ発表会(20点)、後期に行うグループ発表会(20点)およびソロ発表会(20点)の演奏、および日常の課題への取り組み(40点)による。									
教 科 書 (購入必須)	『知識ゼロからのアコースティック・ギター入門 (ゴンチチ)』幻冬舎										
参 考 書 (購入任意)											

科		E	1	名	図画工作 I									
					今野 道裕									
学			配		1年	単位数	1 単位		開講形態	演習				
開		講	時	期	前期	必修選択	必修		資格要件		士:必(修・幼稚園	園:必修	
学	習	了到	達目	標		な基礎能力	身につけ、自9 である子ども2							
授	**	業 σ)概	要			導の基礎を学 技術および指導				壁面構成	成等を実際	祭に製作する	
					第1回 >	オリエンテ	ーション(保育	が における造形	分野の役割)					
					第2回	クレヨンに打	挨拶							
					第3回 約	会の具とのは	出会い・食べ物	かを描こう						
					第4回	自然を描こ	う							
					第5回 /	人を描こう								
					第6回 約	会の具遊び	・その他の技法	-						
					第7回 打	折り紙の魅	力(かえでの実	そ・かぐや姫・	カッパのお	面)				
					第8回 🏗	節単工作 (約	紙の万華鏡・紐	氏ヘリ・紙のホ	イッスル・原	虱車)				
授	*	美 0.	計	画	第9回 第	飛ぶ工作(1)	(折り紙飛行	機・簡単ロケ	ット・紙トン	ボ)				
					第10回 飛ぶ工作(2) (紙皿飛行機・紙コップロケット)									
					第11回 i	遊ぶ工作(3)	(割り箸でっ)	ぽう・けん玉)						
					第12回 i	遊ぶ工作(4)	(リングくる	くる・割れない	ハしゃぼん玉	()				
					第13回	プレゼント	工作(飛び出す	カード)						
					第14回	壁面構成を位	作ろう							
					第15回 3	まとめ								
					必要に応じ	て道具・材	料を指示するの	ので準備するこ	_と。					
授	業	きの	留 意	点										
学評		E (C	対す	る価	授業におけより評価す		(30 点)、制作	下物の提出(40	点)、レポー	トの	提出お。	よびその内	7容(30 点)に	
教(↑ 青入	‡ 必 須	書()	『乳幼児の	絵画指導~	スペシャリス	トになるための)理論と方法	 』(黎		松岡義和	1 : 著)	
参 (表	· 任 意	書	[3·4·	5 歳児の保	育に 作ってあ	そべる製作ず	かん』(学研	今野	道裕:	著)		

科	E]	名	図画工作Ⅱ				
担	当者	数 員	名	今野 道裕				
学	年	配	当	2年	単 位 数	1 単位	開講形態	演習
開	講	時	期	後期	必修選択	選択	資格要件	保育士:選択・幼稚園:選択
学	習 到	達目	標	を高め、子 ・応用的造 る。	どもたちの 形技法の製	自己表現能力をどうしたら 作体験を通し、保育活動の向	引き出せるか 幅を広げる可	ら際に必要な創造力、絵画的センスでより深める。 「能性と留意点を考えることができな造形表現を考えることができる。
授	業 0	D 概	要			基礎とし、一般的な幼児の 。また、保育活動に役立つ。		を法のみならず、より高度な技法も り等の製作活動を行う。
授	業 0	D 計	画	第 第 第 第 第 第 第 第 第 9 回 回 回 回 回 回 回 回 回 回	会本作り(3) 会本作り(4) 会本作り(5) 会本作り(6)	 絵画 パステル1 下総 絵画 パステル2 仕上 絵画 切り絵1 デザイ 絵画 切り絵2 仕上け 工作 木工1 デザイン 工作 木工3 仕上げ アイディア・構想 作画1 下絵・彩色 作画2 彩色・文章 製本 製本の技法 糊付け 	ごげ ン・切り出	し作業
	業の生に			授業におけ	る取り組み	料を指示するので準備する。 (30 点)、制作物の提出(40		・トの提出およびその内容(30 点)に
評 教(購入	斗 必須 ——	価書)書	特になし。		必要な資料を配付する。		

科		目		名	体育									
担	当	教	. 員	名	三井	登								
学	白	Ę.	配	当	1年		単 位	数	1 単位		開講形態	演習		
開	i	構	時	期	通年		必修選	択	必修		資格要件	保育士:	必修・幼科	惟園:必修
学	習:	到:	達目	標	体育! 習得す		保育内容	₹ & 3	里解し、子どもの	運動遊び	ドを豊かに原	景開するた	とめに必要が	な知識・技術を
授	業	<u></u> න	概	要		びの指導			の関係や身体に関 遊具、用具、素材					
					第	1回	ガイダン	ノス						
					第	2回	子どもの	り発	達と運動機能 運動	動機能の	系統的発達	欲求と運	動	
					第	3回	子どもの	り身	体発達と食					
					第	4回	食育をi	重じ	た身体づくり実践	の事例系	3介			
					第	5回	生活リン	ズム	の構築と運動指導	[
					第	6回	教材研究	七の	視点 運動遊びのえ	系統的指	導 理論的机	 刺		
					第	7 回	教材研究	芒(1	道具を使った	運動遊び	バ 伝承遊び			
					第	8回	教材研究	七(2	道具を使った	運動遊び	バ ボールを [・]	使った遊	びの指導法	÷
					第	9回	教材研究	芒(3	道具を使った	運動遊び	バ 縄跳び遊	びの指導	法	
授	業	の	計	画	第1	0回	模擬授美	美(1	運動遊びの系	統的指導	算 指導計画	の作成		
					第1	1回	模擬授	美(2	運動遊びの系	統的指導	算 指導計画	の実践		
					第1	2回	環境設定	言と	運動遊び					
					第1	3回	環境に個	動き	かける運動遊び					
					第1	4回	運動遊び	バを	導く環境の創造					
					第1	5回	学習の言	まと	めと振り返り					
授	業	の ヤ	留意	点		受業を含ること。	むため、	動	きやすい服装と靴	を用意す	うること。野	E往症があ	る場合は、	必ず事前に報
学評	生	IC ;	対す	る価	提出华	勿70点	、実技〜	の 国	立り組み30点 に	より評価	する。			
教(科 入 :	必 須	書)	特にプ	なし。そ	の都度、	必要	要な資料を配付す	る。				
参 (考 入 f	· 任 意	書)										

科 目 名	児童文化										
担当教員名	今野 道裕・堀川 真	•									
学 年 配 当	1年 単位数	2 単位	開講形態 講義								
開講時期	後期 必修選択	選択	資格要件 幼稚園:選択								
学習到達目標	・主な「児童文化」に関する知識と実際を知り、その特性や実践上の留意点について理解する。 ・「児童文化」が保育分野に果たす役割を考える中で日本の子ども文化の特性を知る。 ・幼稚園・保育所・学校・地域における文化活動の発展の方向を考える。										
授業の概要	割をできるだけ実例携	伝承遊びからおもちゃ・絵本・人形劇・紙芝居・テレビ等まで、個々の「児童文化」が果たす役割をできるだけ実例提示・実演する中で紹介し、その特性と課題について学ぶ。その中から実践する上で留意すべき事柄を考える。									
	1 概論 子どもを	取り巻く文化状況について	データを元にして知る(今野)								
	2 あそびについて	「あそび」の持つ意味 ∮	集団づくりに役立つ遊び(今野)								
	3 伝承あそび	伝承遊びの今日的役割 伝承	遊びの紹介(堀川)								
	4 おもちゃについ	って おもちゃの役割・特性	、手作りおもちゃ(今野)								
	5 おもちゃで遊ぼ	ぼう グッドトイの紹介(今野)								
	6 ネイチャーゲー	-ム 自然と遊ぶ 、自然で遊	ぶ、子どもが自然と関わることの大切さ(堀川)								
	7 ゲームについて	コンピューターゲームのバ	はじまりとコミュニケーションの問題(堀川)								
	8 紙芝居の世界	発達史、紙芝居と絵本の違い	、、 紙芝居を演じる上ので留意点(堀川)								
	9 人形劇 人形劇	の基本的な技法(今野)									
	10 劇遊び 子ども	が楽しい「劇遊び」の指導活	去(堀川)								
授業の計画	11 昔話 日本の主	Eな昔話の紹介、昔話とは何z	ら、昔話の魅力(堀川)								
	12 絵本創作の背景	せを探る 絵本作家茂田井武	と加古里子を軸に(堀川)								
	13 絵本への思い	絵本の歴史と戦後「岩波絵ス	よ」「福音館絵本」の果たした役割(堀川)								
	 1 4 テレビ論 児童	宣向けテレビ番組に見る社会	との同期性について(堀川)								
	 15 まとめ 授	業の感想と児童文化について	の考察・発表(堀川)								
	港羊利口ベルナフゴ	利日の歴物 1. カホの海辺3	·								
授業の留意点	再莪科日ではあるか、	科目の性格上、多少の演習を	(검U)								
以来の田志点											
	 授業における小レポー	 ·ト(40 点)レポートの提出									
学生に対する		(== 7,10)									
評 価											
教 科 書	その都度必要に応じて	プリントを配布する。									
(購入必須)											
参考書	特になし。										
(購入任意)											

科	E	1	名	障がい児保育									
担	当 教	女 員	名	安永	啓司								
学	年	配	当	2年		単(立 数	1 単位			開講	形態	演習
開	講	時	期	後期		必修	選択	必修			資格	要件	保育士:必修
学	習到	達目	標	(1) 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児及びその保育について理解する。 (2) 様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成について学ぶ。 (3) 障がいのある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。 (4) 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 (5) 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。									
授	業 <i>0</i> .)概	要	育の		(4)	家庭及	び関係機関					おける発達の援助、(3) 障がい児保 5子どもの保育にかかわる現状と課
授	業 σ.) 計	画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	障障障障障状障障障障障家がががががががががががががががががががががががががが	いいいいいいい課いいいいひん見見見見見の題のの見見けび	のののの保保あああ保保保関連理理理育育るるる育育育係解解解解をを子子子ののの機	· 支える理 · どもの保 · どもの保 · どもの保 · と · と · と · と · と · と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・	援援援急念育育保個子携助助助ののににで育々どのののでにはなるがいのもに	神経がいい児現現現で促かいいり、児現現では、いいいり、児現現では、かったのでは、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学では、大学	障ののの概令ととと指生わ族が能理育と基題の課課課導活りに対するとなりに	・アー障は①②③画産育け知スが、保支個作の合理	特性 メント ハ児保育の歴史的変遷 民健・医療・福祉・教育における現 援の場の広がりとつながり 別の支援計画の作成 成と記録および評価 環境 い、職員間の協働
授	業の	留意	点	演習和	科目で	あり、	積極	的な発言等	等を求め)ます。			
学評	生に	対す	る価	リア	クショ	ンペー	ー ノペー	30 点、レ	ポートで	70 点で評値	 面する。		
教(科 購 入		書)	- TBJ 先達障害のめる Tのための 14 マンル マン休月」天成ノロンノム』 12011 120114 中									
参 (考 購入	_	書)					倉田新編 常安編著		手のある乳2 すての発達			法』 明治図書 2008 年 文書院 2003 年

科	E	1	名	障がい児福	차-				
				大友 愛美					
	年			4年	単位数	2 単位		開講形態	演習
開	講	時	期	前期	必修選択	選択	I	資格要件	
学	習 到	達目	標			現状と課題を学 るようにする。	ぶとともに、	子どもの権	利や障害に関する歴史を学ぶこと
授	業 0)概	要			いろんな角度か るような工夫を		開する。知識	として学ぶだけではなく、自分の
授	業 0) 計	画	2 歴 数 公 重 子 6 7 就 障 地 子 国 国 障 1 1 1 2 1 3 1 4 ICF	から障害一次を心を猶学にも児障者のの予重あの童害権利点を対してもののののをををした。	:永ヒ素ミルク中 !と福祉"この子 障害 :免除 !後	:・近代・現代 : : : : : : : : : : : : :	t) を学ぶ いりに"	
	業の 生に					ープディスカッープディスカッ			的に参加すること。
教 (↓ 購入		価 書)	その都度必	要に応じて	プリントを配布	する。		
参 ()	購入	=	書)	高谷清著『	重い障害を	生きるというこ	と』2011 年紀	岩波新書	

科	E		名	障害児支援の基礎理論											
				矢口											
	年			1年		単位	立数	2 単位			開講形	態	講義		
開	講	時	期	後期		必修	選択	必修			資格要	件	特別支援:必修		
学	習到	達目	標	教育か 教育の 点につ	ら特別 歴史 いて	別支担 を概観 深く理	援教育 見し、 里解す	へ、障害! 先達の理念	児教育も 念と努力を て、障害	大きく変を と学ぶこと 見教育を学	わりつつあ : を通して 学ぶスター	うる	な時代的転換が訪れている。特殊 。わが国が築きあげてきた障害児 その意義及び目的と継承すべき 視 ラインとして、職業的自覚や今後		
授	業 σ.)概	要	を、明 おける 障害全	特別支援教育で何が目指されるのかを学び、続いて障害児教育の歴史、特にわが国における歴史を、明治、大正、昭和にわたって学習するとともに、世界の動向について知る。また、わが国における優れた教育実践とその創意工夫から、現在の制度や教育実践を再評価する。 障害全体の概要を知り、障害や特性に応じた支援の根拠を導くことを目指す。障害児教育の担い手として必要な知識・技術の概要を知り、今後の学習計画の基盤とする。										
				第1	可 朱	持殊教	育か	ら特別支援	受教育へ						
				第2回	可障	害児	教育	の歴史(1)	欧米に	おける障害	害児教育の)成	立と展開		
				第3[可 隨	害児	教育	の歴史(2)	わが国	こおける見	明治期の障	害	児教育に尽くした人々		
				第4[可 隨	害児	教育	の歴史(3)	わが国	こおけるこ	大正期・昭	和前	前期の障害児教育		
				第5	可 障	害児	教育	の歴史(4)	わが国	こおける質	戦後の障害	引	教育		
				第6回	可 障 杉		教育	実践-先達	をに学ぶ	近江学園]、糸賀一酒	雄、	田村一二、旧東京教育大学附属学		
				第7回	司 世	世界の	動向	とインクル	ノージョン	障害者	の権利に	関す	する条約、教育的統合		
				第8	可 隆	害児	教育	制度と就学	どを巡る問	題 就学	支援、適	正息	光学、認定就学		
授	業 σ.	計	画	第9回	可 朱	护别支	援教	育の概要	特別支援	学校と特	別支援学	級、	通級による指導、訪問教育		
				第10	回う	ライフ	ステ	ージと教育	f(1) 障害	発見から	学齢期				
				第11	回う	テイフ	ステ	ージと教育	育(2) 高等	教育から	就労移行	、	支援付き就労、自立		
				第12	回福	福祉と	教育	の連携(1)	「個別支	援計画」	と「個別	の孝	教育支援計画 」		
				第13	回福	福祉と	教育	の連携(2)	「個別の	指導計画	门と「移	行艺	支援計画」、支援会議		
													通常の学級に在籍する障害児		
				第15	回他	也領域	との	連携 スク	ールソー	・シャルワ	ーク、心	理訓	平価、保健・福祉・医療		
				ディス	カッ	ション	· を行	うため、私	責極的に	*かするこ	<u>-</u> と。				
授	業の	留意	点												
学評	生に	対す	る価										や議論や質問等について、講義時 結果(70 点)と併せて評価する。		
教(科 購 入		書)	特別支援教育の基礎理論:教育出版											
参 (考 購入		書)	この子	らを	世の光	七に:	柏樹新書、	ちえおぐ	_ 〈れと歩く	———— 〈男:柏樹	新			

科		目		名	知的障害者の心理・生理・病理												
担	当	教		名	奥村	香澄											
学	左	Į.	配	当	2年		単 位 数	2 単位			ı	開講形態	講義				
開	i	冓	時	期	前期		必修選択	選択			j	資格要件	特別支援:必修				
学	習	到:	達目	標	るよう	知的障害を理解する上で定型発達について理解し、発達の偏りやアンバランスについて理解できるようにする。知的障害の要因や状態、心理や社会背景などを捉えることで、多様な障害を理解する基盤を形成することを目標とする。											
授	業	: ග	概	要	メカニ	ニズム	として理解	するこ	とが求る	められる	。全般		様態や表象に現れる様々な こしてではなく、機序や構造 。				
					第1回 発達の生理学的基礎 身体、脳、原初期の反応、社会的相互作用、学習(担当: 奥村												
					第2	第2回 知的障害の定義 障害の認定と教育(担当:瀬戸口)											
					第3	3 回	知的障害(口)	の分類と	障害の	要因	印的障害	害の発生機	字、学習や行動の特徴(担当	当:瀬戸			
					第4	日	社会的には	曽悪する	知的障	害社会	会的相互	1作用、評	価(担当:瀬戸口)				
					第5	回	遺伝の仕組	狙みと異	常遺	伝形質、	先天性	生、後天性、	,内因、外因(担当:奥村)				
					第6	回	脳機能の	発達 健	常児の	発達(打	旦当:勇	包村)					
					第7	7 回	脳機能の降	章害 認	知、脳	i波、脳血	血流量	、認知神経	心理学、生理心理学(担当	: 奥村)			
					第8	3回	知的障害児の学習特性 ステレオタイプ、固執性、学習された無気力(担当:瀬戸口)										
授	業	の	計	画	第9	回	脳機能障害	害児の運	動特性	操作、	協調性	性運動発達	障害(担当: 奥村)				
.~	-1			_	第1	0回	知的障害」	見の言語	発達	他者意图	図理解、	共同注意、	, 自閉症(担当: 奥村)				
					第1	1回	知的障害」	見の社会	性の発	達経り	険、学習	習(担当:	頼戸口)				
					第1	2回 知的障害児の行動問題の理解と支援 自傷行動、他害行動、応用行動分析(担当:瀬 戸口)											
					第1	3回	ダウン症値	戻群 染	色体異	常、行動	動特性、	学習特性	(担当:奥村)				
					第1	4回	Williams	症候群	染色体	本異常、	行動特	性、学習特	性(担当:奥村)				
					第1	5 回	その他の類群、ソトス					・ランゲ、	フェニールケトン尿症、レッ	ット症候			
授	業	の [†]	留 意	点	ディス	スカッ	ションを多	数行うだ	こめ、利	責極的に	参加す	ること。					
学評	生	<u>ا</u>	<u>対</u> す	る価	講義における小レポート (20 点)、課題の取組状況 (30 点)、レポート (50 点) 等で評価する。												
	購		必須		-												
_	購	-	· 任 意	書)	特別支援教育における障害の理解:教育出版												

科		E	1	名	肢体不自由:	者の心理・	生理・病理								
担	ì	当 孝	女員	名	平元 東・	小野川 文	 :子								
学		年	配	当	3年	単 位 数	2 単位		開講形態	講義					
開		講	時	期	後期	必修選択	選択		資格要件	特別支援:必修					
学	끹	3到	達目	標	をいう。そ	の発生原因	となる疾病		それぞれの疾	P運動動作に制限がある状態のこと Ξ病に応じた特性をテーマにし、そ					
授	All V	集 0)概	要						こついて学ぶ。また、認知・社会・ その支援について学習する。					
					第1回	肢体不自!	由とは 肢体	不自由の状態、	療育、教育	(担当:小野川)					
					第2回	姿勢と運	動の発達(1)	運動の機序と障	章害(担当:	平元)					
					第3回	姿勢と運	動の発達(2)	運動操作におり	ける障害と心	身の発達(担当:平元)					
					第4回	脳性マヒ	の特性 脳性	ヒマヒの病理と生	理(担当:平	平元)					
					第5回	脳性マヒ	の支援 就学	学前期から学歴期	の支援(担当	当:平元)					
					第6回	二分脊椎	の特性と支援	爰(担当:平元)							
					第7回	筋ジスト	ロフィーの特	対性 筋ジストロ	フィーの状態	態と病理(担当:平元)					
					第8回	筋ジスト	ロフィーの支	変援 学校におけ	る支援、家庭	医における支援(担当:平元)					
					第9回	その他の	技体不自由	発達性協調運動	障害、脳機能						
120		!!- ~	S =1	H	第10回 てんかん てんかんの特性と支援(担当:平元)										
按	ž	₹)計	쁴	第11回	回 肢体不自由を伴う子どもの心理発達過程とその支援 学齢期を中心に(担当:小野川)									
					第12回 肢体不自由を伴う子どもの心理・認知機能とコミュニケーションの支援 代替機器、 心理検査(担当:小野川)										
					第13回	肢体不自!	由を伴う子と	でもの社会性及び	関係発達 褚	土会との接点、困難(担当:小野川)					
					第14回	肢体不自!	由を伴う子と	ぎもの就学、就学	支援 検診、	就学相談、移行(担当:小野川)					
					第15回	もう一度、	. 肢体不自由	まとは 見える困	難、見えない	、困難 (担当:小野川)					
授	業	きの	留意	点	ディスカッ	ションを多	数行うため、	、積極的に参加す	けること。						
学評	生	<u> </u>	対す	る価	講義中の課	題(20 点)	、課題の取	組状況 (30 点)、	レポート(50 点) 等で評価する。					
教 (₹ 请入	^抖 必 須	書)											
参 (肆	<i>‡</i> ∮入	ኝ 任 意	書()	特別支援教育における障害の理解:教育出版										

科 目 名	病弱者の心	理・生理・	 病理					
担当教員名	平元 東・		 子					
学 年 配 当	3年	単位数	2 単位		開講形態	講義		
開講時期	後期	必修選択	選択		資格要件	特別支援:必修		
学習到達目標			生理・病理に景を考えるこ		るとともに、	具体的な事象や事例から病弱の子		
授業の概要			子どもにみら. について学ぶ。		理・病理や病	気の子どもの心理的理解と求めら		
	第1回 ス	ナリエンテ・	ーション 学習	習マップ、授業	美の進め方(打	担当:平元)		
	第2回 阅	建康、病気、	障害の概念	ICIDH から	ICF への転担	奠(担当:小野川)		
	第3回 /	小児期の慢	生疾患(1) ぜ	んそく、アレ	ルギー(担当	: 平元)		
	第4回 /	小児期の慢	生疾患(2) 腎	臓病・心臓病	(担当:平元)			
	第5回 /	小児期の慢	生疾患(3) 糖	尿病(担当:	平元)			
	第6回 惠	悪性腫瘍 ※	がん、脳腫瘍	(担当:平元)				
	第7回 道	進行性筋ジ	ストロフィー	(担当:平元)				
	第8回 で	てんかん(担当:平元)					
授業の計画	第9回 🖆	血友病とその	の他の疾患(担	旦当:平元)				
	第10回心	心身症と精	神疾患の支援	学齢期と就労	党(担当:小野	野川)		
	第11回 2	2次障害と	しての心理不通	窗応 発達障害	F、不登校(拍	担当:小野川)		
	第12回 病	気がもた	らす心的な影響	響(1) 慢性疾	患によるもの	(担当:小野川)		
	第13回 病	対気がもた	らす心的な影響	馨(2) セルフ	コントロール	(担当:小野川)		
	第14回 病	病弱の教育!	的定義 就学、	自立を巡って	て (担当:小野	野川)		
	第15回 障	章害の特徴	と心理的支援・	配慮の在り方	教育、家庭	:、社会(担当:小野川)		
	ディスカッ	<u></u> ションを多	 数行うため、®	積極的に参加。	 すること。			
₩ * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	7 11 2 77 7	• - •	300 13 7 7C 17 1	(英区F710077F	, 2			
授業の留意点								
学生に対する	講義中の課	題(20 点)	、課題の取組	状況 (30 点)、	レポート (50 点)等で評価する。		
評 価								
	適宜紹介す	る。						
教 科 書								
(購入必須)								
	特別支援数	杏における	暗宝の理解・	数 吞出版				
参 考 書	特別支援教育における障害の理解:教育出版							
(購入任意)								

科		目		名	知的障害者教育課程論											
担	当	教	員	名	安永 啓司											
学	白	F	配	当	3年	単位数	2 単位		開講形態	講義						
開	i	第	時	期	前期	必修選択	選択		資格要件	特別支援:必修						
学	習	到词	達目	標	を可能とするために、国によって定められる「学習指導要領」に基づいて、各学校で編成される 教育課程の意義と立案の際の留意点等について理解をしていく。											
授	業	o	概	要	活動を計画	し、実践す	る際のよりどころ	となる教育	課程の概要	が教育形態の概要と、学校が教育的 を理解する。 」度・教育的変遷の意義と課題を概						
					第1回	知的障害。	とは(イントロダク	フション)	認知、学習	3、生活、自立						
					第2回	障害児教育	育の概要(1) 東京学	学芸大学附属	属特別支援等	学校の教育の実際						
					第3回											
					第4回 障害児教育の対象の拡大と教育の本質的課題 「生きる力」を中心に											
					第5回	障害児教育	育の教育形態(特別	刂支援学校、	特別支援等	学級、通級学級、特別支援教室)						
					第6回	教育課程の	の概念と原理 国に	こよる法令と	上基準							
					第7回	学習指導	要領改訂の変遷と意	意義 社会社	背景と教育内	内容の整備						
					第8回	教育課程の	の開発と編成 個別	川の教育支持	爰計画、個別	川の指導計画						
授	業	の	計	画	第9回	各教科の技	旨導 生活科、かす	ド・ ことば								
					第10回	領域の指導	算 自立活動									
					第11回	各教科等	を合わせた指導 生	上活単元学 習	習、総合的な	2学習						
					第12回	学習指導等	となった とれる とれる それ それ とうしゅ それ とうしゅ とうしゅ とうしゅ とうしゅ とうしゅ とうしゅ とうしゅ とうしゅ	受業改善、持	受業評価							
					第13回	チームテ	ィーチングの方法	授業計画、	授業反省と	· 教材開発						
					第14回	教育制度。	と法令 学校制度、	教科書、	学級編制							
					第15回	障害児教育	育の専門性と教師キ	チャリア ±	也方公務員法	去、教育公務員特例法、服務、研 修						
					ディスカッ	ションを多	数行うため、積極	的に参加す	ること。							
授	業	の冒	留意	点												
学評	生	にす	対す	る価	講義におけ	る小レポー	ト (30 点)、最終	試験結果((70 点) に』	より評価する。						
	購,		必 須	特別支援教育の基礎理論:教育出版 特別支援学校教育要領・学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説(総則等編) 特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編)												
_	購,	_	壬意	書)												

1 1				A	知的医生老	4 女士: \	<u> </u>									
科	11/	目			知的障害者	教育力伝 論	i ————————————————————————————————————									
					安永 啓司	224 LL 14L	0 74 14	88 =# T/ 46	3# \hat{\tau}							
_	年				2年	単位数		開講形態								
開	請	韩	時	期	後期	必修選択			特別支援:必修							
学	習:	到:	達目	標		き、その効			:ついての理解を深め、効果的な指 -Do-See)の意義と具体的な指導に							
授	業	σ	概	要	単一または 教育や対応 にあるとい	複数の関連 は、それぞ える。障害	において生活上の困難とし [*] れの発達的背景と機序を理	て継続してV 解することか メントから指	どの諸側面における障害の状態が、いるものである。したがって、そのいら、具体的な指導法を導くところ導方針を立て、指導方法を導いて、学べるようにする。							
					第1回 知的障害教育がめざす自立の姿とは 私は自立しているといえるのか											
					第2回 行動観察とアセスメント 観察視点と評価観点											
				第2回 打動観祭とアセスメント 観祭悦点と評価観点 第3回 支援ツールの開発と活用 視覚的支援と身体促進の方法												
					第4回 積極的行動支援法 応用行動分析学に基づく行動調整 第5回 自発的行動を高める支援 子どもの情動の把握と支援方法 第6回 家庭との共同を生む支援 連絡帳、「個別の指導計画」 第7回 主体的活動を促す手がかりツール 行動の初発の支援											
					第8回	コミュニク	ケーションの発達と支援 他	者意図理解、	共同注意、共同行為、言語発達							
100	╨	•	<u>=</u> ⊥	ıæ.	第9回											
按	未	U)	計	쁴	第10回 認知評価の方法 知的障害と認知処理過程											
					第10回 総知評価の万法 知的障害と認知処理適性 第11回 教科の指導 生活科、かず・ことば											
							算 自立活動の展開									
							を合わせた指導 生活単元学	習 総合的力	2学習							
							舌動を支えるチームティーチ									
					第15回 学習指導案と授業 授業研究の視点、改善のプロセス											
ļ																
					ディスカッ	ションを多	数行うため、積極的に参加す	すること。								
授	業(の ⁱ	留 意	点												
学評	生(<u>ا</u> ت:	対す	る価	講義におけ	る小レポー	下(30 点)、最終試験結果	(70 点) に	より評価する。							
教 (科 入 :	 必 須	吉	*************************************											
参 (考 入	任 意	書 高畠庄蔵著「みんなの自立支援をめざす応用行動分析学」明治図書 前川久男・長崎勤編「障害理解のための心理学」明石書店 意)												

科		目		名	肢体を	不自由	者教育課程	<u></u>								
							・小野川									
	年		配		3年		単位数			開講形態	講義					
開	講	Ī	時	期	前期		必修選択	選択			特別支援:必修					
学	習至	到i	達 目	標	つい	て理解					・方法を学び、教育課程の基本に 理解し、教育実践の基盤を形成す					
授	業	တ	概	要			児の障害の た教育を行		乱し、肢体	本不自由教育	での教育課程、指導方法について実					
						1回2回		目由の定義 障害認 目由教育の現状 B		寺別支援学校	を、特別支援学級、通常学級					
					第3回 肢体不自由教育のあゆみ 療育から教育へ											
					第4回 発達と障害の基礎理解 乳児期の反射、学習、経験											
					第5回 脳性マヒの発達と障害の基礎的理解 動かない障害、学習経験を制限される障害											
						第5回 脳性マヒの発達と障害の基礎的埋解 動かない障害、字省経験を制限される障害 第6回 肢体不自由の教育課程(1) 学習指導要領、教育課程の特徴										
						7回		自由の教育課程(2)								
						8回		自由の教育課程(3)		ケーション						
						9回		目由の教育 準ずる			一面(
授	業	の	計	画		10回										
					第10回 重度重複障害の実態把握 障害の足し算、障害のかけ算 第11回 重度重複障害の教育実践(1) 特別支援学校の教育内容											
						第12回 重度重複障害の教育実践(2) 訪問教育、医療的ケア										
						13回		自由児と家族の生活								
						14回		自由教育の今日的調								
								算案と授業 授業研								
					21.		•	.,,,,	,, = ,,,,,,							
					<u> </u>				(46) - 40 to 1	-7 - 1						
授	業 0	D f	留意	点	アイク	ヘ 刀 ツ	ンヨンを多	数行うため、積極	的に参加す	්බ <u>ි</u>						
学評	生に	_ ;	対す	る価	講義「	中の協	議課題(20	(点)、課題の取組	.状況(30)	点)、レポー	ト (50 点) により評価する。					
教 (購力	科入力		書)	特別支援学校教育要領·学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説(総則等編) 特別支援学校学習指導要領解説(自立活動編)											
参 (購フ	考入(書)												

科 目 名	肢体不自由者教育方法論										
担当教員名	野村春文										
学 年 配 当	3年	単 位 数	2 単位		開講形態	講義					
開講時期	後期	必修選択	選択		資格要件	特別支援:必修					
学習到達目標	育課程が用	意されてい		、肢体不自自		□的発達の程度に応じて、複数の教 ☆通しながら、指導内容・指導方法					
授業の概要	う重複障害	の子どもを		まで含めて、	肢体不自由	と伴わない教育から、知的障害を伴 日児の実態把握や指導内容・方法を 成する。					
	第1回	第1回 イントロダクション 授業の進め方、学習マップ									
	第2回 肢体不自由児教育の概要(1) 筑波大学附属桐が丘特別支援学校の教育の実際										
	第3回	障害児教育	育の概要(2) 特別	別支援学級の)教育の実際	•					
	第4回	肢体不自由	由児の実態把握	身体面、心	理面、学習同	面					
	第5回	肢体不自同室)	由児教育の教育形	態(特別支持	援学校、特別	別支援学級、通級学級、特別支援教					
	第6回	準ずる教育	育と就学の変化	障害の多様	化、障害の重	重度化、障害の重複化					
	第7回	個別の指導	算計画と個別の勢	女育支援計画	就学、教育	育、就労自立					
	第8回	教育課程の	の開発と編成 個	別の教育支	援計画、個別	別の指導計画					
授業の計画	第9回	各教科の技	旨導 学習支援の	方法、支援	ツールやテク	クノロジーの活用					
	第10回 領域の指導 自立活動										
	第11回 領域・教科を合わせた指導 生活単元学習、総合的な学習										
	第12回 学習指導案の作成の視点 授業改善、授業評価										
	第13回 指導内容の設定と授業技術 教示、児童との物理的距離、接近や介助の配慮										
	第14回	授業研究	反省協議、学習	指導案への	反映						
	第15回 肢体不自由のある子どもの生活と家族支援 地域生活、社会的理解、自立した生活										
	ディスカッ	ションを多	数行うため、積	極的に参加す	つること。						
授業の留意点											
汉 木 切 田 心 灬											
	講義中の協	議課題(20	 (点)、課題の取	組状況(30)	点)、レポー						
学生に対する	111421 1 1000		7117 (18/10/21/21/21/21	177 / (00 /	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	((() M) (- 3() H) IM () D)					
評 価											
	ations to the state	Library Co. 11	W. 77 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11								
教 科 書	特別支援学校教育要領·学習指導要領 特別支援学校学習指導要領解説(総則等編)										
(購入必須)	特別支援学	校学習指導	要領解説(自立	活動編)							
	特別支援教育の指導法:教育出版										
参 考 書											
(購入任意)											

科	E	l	夕	病弱者教育	 論									
				小野川 文										
				3年	単位数	2 単位	開講形態	講義						
開	· .		,	後期	必修選択			特別支援:必修						
学	習到	達目	標		 の歴史と意			たに応じた教育の特徴について概要 を目的とする。						
授	業 σ.	、概	要	学ぶ。病弱	教育の対象		教育を行う	、病弱教育の意義と課題について に当たって配慮すべきことを考察 て学ぶ。						
				第1回第2回	病弱者教育	ダクション 授業の進め方、 育の歴史的変遷と定義 療育	から教育へ							
				第3回 病弱者教育の意義と目的 学ぶ権利の保障 、教育課程の整備 第4回 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(1) 呼吸器疾患、内分泌疾患										
				第4回										
				第5回 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(2) 腎・泌尿器疾患 第6回 病弱者教育対象の子どもの病気の種類と教育的配慮(3) 心疾患、筋疾患										
				第6回 第7回		『対象の子ともの病気の種類 育対象の子どもの病気の種類		,						
				第8回		「考える ターミナル期にあ								
				第9回			215 BWE	X FI						
授	業 σ.	計	画	i										
				第10回 病気とともに生きるということ グループワークの協議を通して 第11回 拡大する病弱教育の対象 不登校、被虐待、ネグレクト、精神疾患										
				第11回 拡大する病弱教育の対象 不登校、被虐待、ネグレクト、精神疾患 第12回 病弱教育の設置基準と教育の場 特別支援学校、学級、院内学級										
				第12回 病羽教育の設置基準と教育の場 特別又後子仪、子紋、阮四子紋										
				第13回 - 病状に合わせた指導計画 - 集団の形成、授業時数の設定 										
				第14回 医療機関と教育の関係と連携、系庭との連携 連携のあり方、連絡帳、病状ノート 										
				77.100	カェ 3 四 - 州初日 43 月 47 元 [147] 床起 - 区原い同及化、州 3(い多体化									
				ディスカッ	ションを多	数行うため、積極的に参加す	ナスこと							
授	業の	留意	点	7 4 7 7	v 1 v E 9	98.11 テルビの、 有側室4月に参加4)	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,							
学評	生に		る価	講義中の協	議課題(20	点)、課題の取組状況(30	点)、レポー	ト (50 点) により評価する。						
教(科 購入	•	書)											
参 (購入		書)	特別支援学 特別支援学	校教育要領 校学習指導 校学習指導	門:クリエイツかもがわ ・学習指導要領 要領解説(総則等編) 要領解説(自立活動編) :教育出版								

科		目		名	視覚障害者教育総論									
担	当	教	員	名	星 祐子									
学	年	:	配	当	3年	単 位 数	1 単位		開講形態	講義				
開	講		時	期	後期	必修選択	選択		資格要件	特別支援:必修				
学	習至	Ŋì	達目	標	導方法など	について学	び、視覚障害		る知識を習得す	育の歴史・教育課程・指導内容・指 □るとともに共生社会形成の基礎と				
授	業	o	概	要	像教材、実 1. 視覚障 2. 視覚障 3. 視覚障	物教材を使 害の概要(害教育の歴 害教育の教	用しながら打	受業を行う。 及び視覚管理 指導計画		て、テキスト、プリント資料、 映				
授	業	Ø	計	画	2 視覚 3 視視 4 視覚 5 教 6 教 1 点 7	障害の生理 障害の心理 障害児の歴 課程と指導 課程と指導 内容及書き	是及び病理と希望 特性、発達を 要と制度 計画① 教育 計画② 学習 等方法① を の指導、空間	視覚管理② を規定する要 が開発の意義、 習指導要領 視覚障害教育 間概念の指導	見機能と視覚障: 因と発達の特徴 教育課程の編 における指導上 、歩行指導、言	、視覚器の構造と視覚障害 書、眼疾患と教育的配慮 故、アセスメント、観察評価 成と指導計画の作成 この配慮事項、盲児の触知覚の特性、 意葉と事物・事象の対応の指導 障害児の指導、教材教具				
授	業 0	り目	留意	点	視覚障害体	験なども行	うため、積極	極的に講義に	参加すること。					
学評	生に	ت ک	対す		提示課題の	取り組み状	況 (30 点)、	、レポート課	題(70 点)に	より評価する。				
教 (必 須	_	適宜、プリ	ントを配布	する。							
参 (考入化	壬意	吉	特別支援学	校学習指導	アース教育新 要領解説(約 要領解説(自	総則等編)						

科		目		名	聴覚障害者	教育総論			聴覚障害者教育総論								
担	当	教	員	名	庄司 和史												
学	年	. [2	当	3年	単位数	1 単位	ı	開講 形態	講義							
開	講	- E	寺	期	前期	必修選択	選択	:	資格要件	特別支援:必修							
学	習至	到 達	目	標	価法などに	ついて学び		関する知識	を習得する	育の歴史・教育課程・指導方法・評 るとともに、発達期における心理的							
授	業	ග	概	要	の装用に対	する心理的	な抵抗が生じる場	合もある。	聞こえの障	巻達上の困難が生じる。補聴器など 章害を多角的に捉えて、他者を深く た講義としていく。							
授	業	Ø	計	画	第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 8 第 8 第 8 第 8	聴覚障害の 聴覚障害の 聴性脳幹が 聴覚障害者 聴覚障害者 聴覚障害者	の心理特性と発達 反応と人工内耳 心 致育の歴史と制度 数育における教育課	聴覚機能とコミュニが理的支援、聾唖学校、聲と指導言と指導言	聴覚障害、アーション、保護者支持ろう学校、十画① 各勢十画② 各等	疾患と教育的配慮 社会性、学習 爰、早期介入 口話、手話							
授	業 σ.	D 留	意	点	聴覚障害体	験なども行	うため、積極的に記	講義に参加	すること。								
学評	生に	二文		る価	講義におけ より評価す		卜 (20 点)、提示	課題の取り	組み状況((20 点)、レポート課題 (60 点) に							
	購力																
参 (購力	考し任		書)	特別支援学特別支援学	咬教育要領 咬学習指導 咬学習指導	ハンドブック:ジブ・学習指導要領 ・学習指導要領 要領解説(総則等終 要領解説(自立活動 :教育出版	編)	新社								

科		目		名	重複障害・発達障害の評価										
					奥村 香澄		н г иш								
			配		2年	単位数	2 単位			開講形態	演習				
開		冓	時		後期	必修選択	必修				保育士:必修・特支:必修				
学	習	到分	達目	標	を理解する	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態との関係を理解する。重複障害と発達障害の正しい理解のもとに、詳細なアセスメントの方法と解釈について、演習を中心として理解する。									
授	業	: の	概	要	的障害を伴 基づいた正	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知 的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。そこでは障害の理解に 基づいた正確なアセスメントが求められてくる。多様な評価について学び、実際のアセスメント の知識と技術を身につける。									
					第1回	アセスメン	ノトとは	評価、	心理、社会	会、生活(担	当:瀬戸口)				
					第2回	アセスメン 瀬戸口)	/トの方法	去 観察	、解釈、 訂	己録、聴き取り	、定量的評価、定性的評価(担当:				
					第3回	重複障害の	の評価を	反応形成	、フィー	ドバック(担)	当:瀬戸口)				
					第4回	医療的数值	直 脳波、	脳血流	記量、血中 四	酸素、その他の	ひ数値(担当: 奥村)				
					第5回	心理検査の	の理解①	認知理	論、心理村	倹査の発展過程	呈 (担当:瀬戸口)				
					第4回 心理検査の理解② C-H-C 理論、PASS 理論、知能の定義(担当:奥村)										
					第5回	心理検査の	り理解③	WISC-3	3、WISC-4、	K-ABC, DN-C	CAS(担当:奥村)				
					第6回 心理検査の実際① WISC-3 (担当: 奥村)										
授	業	: ന	計	画	第7回 心理検査の実際② WISC-4 (担当:奥村)										
JX	^				第8回	第8回 心理検査の実際③ K-ABC (担当: 奥村)									
					第9回	心理検査の	の実際④	DN-CAS	(担当:奥村	寸)					
					第10回 心理検査の解釈① WISC-3、WISC-4(担当:奥村)										
					第11回	心理検査の	り解釈②	K-ABC	DN-CAS	(担当:奥村)					
					第12回	心理検査の 奥村)	の解釈③	総合	的な解釈、	検査レポート	、倫理的責任、支援計画(担当:				
					第13回	保護者支持	爰 障害党	受容、養	育の見通)	し、家族との詞	調整(担当: 奥村)				
					第14回	自立支援	本人受容	字、将来	設計 (担)	当:奥村)					
					第15回	支援の実際	祭 アセス	スメント	、支援計画	画、介入、コン	ンサルテーション (担当:奥村)				
授	業	の ł	留意	点	実際の心理	検査などを	行うため	、グルー	ープワーク	の際は欠席な	どの無いようにすること。				
学評		(C 3	対す	る価	講義におけ	る小レポー	ト (20 년	点)、課点	題の取組状	況(30 点)、	レポート (50 点) 等で評価する。				
教 (科 入 :	必須	書											
					特別支援教	育における	障害の理	解:教司	育出版						
参 (_	任意	_											

科	E	1	g g	重複障害・発達障害の教育										
				里核障舌· 奥村 香澄		秋 月								
	 年			2年	単位数	9 単位		開講形態	講 差					
_	<u>'</u> 講				必修選択				特別支援:必修					
	習到			重複障害と く把握する	重複障害と発達障害の困難の状況を理解し、困難のメカニズムと社会的に直面する事態とを正しく把握することができ、適正な支援の方法と障害のある幼児、児童、生徒の社会的自立の見通しを立てることができるようにする。									
授	業 σ.)概	要	現代の特別支援教育においては、一方で障害の重度化や重複化を、もう一方では発達障害等の知 的障害を伴わない子どもたちの存在を支援していく必要に迫られている。障害の重複を具体的に 捉え、自己決定を保障する方法を学ぶと共に、6.5%といわれる発達障害の概要を理解し、多様な ニーズに応えられる知識と技能を身につける。										
				1 重複	障害とは	障害の重複、困	難の重複、複	复合的な相互	作用 (担当:瀬戸口)					
				2 重複	障害の教育	教育課程、指	6導法(担当	: 瀬戸口)						
				3 重複	障害の予後	施設、病院、	家庭、社会参	多加 (担当	:瀬戸口)					
				4 発達	障害とは	LD、注意欠如/	多動症(AD/HD)、自閉スペ	クトラム症(担当:奥村)					
					障害の困難 奥村)	聞く、話す、	読む、書く、	計算する、扌	能論する、コミュニケーション(担					
				6 発達	障害の教育	通常学級、通	角級による指導	る指導、適応教室、不登校(担当:奥村)						
				7 発達障害の教育課程における位置づけ 特殊教育、特別支援教育(担当:瀬戸口)										
	NI4 -			8 学習やコミュニケーションの困難の機序 感覚、知覚、認知(担当: 奥村)										
授	莱 σ.)計	計画	9 LD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン 、2 次障害 (担当:奥村)										
				10 AD/HD の指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン、2 次障害 (担当:奥村)										
				11 自閉症スペクトラムの指導 支援ツール、ユニバーサルデザイン 、2 次障害、アスペルガー症候群(担当: 奥村)										
				12 発達障害の社会的自立 障害認定、適応(担当: 奥村)										
				13 社会における発達障害 定義、啓発、受容 (担当:奥村)										
				14 発達障害に関わる制度の変遷 教育、福祉、就労 (担当:奥村)										
				15 重複 口)	障害・発達	障害のまとめ	自己認識、社	土会的相互作	用、社会的背景(担当: 奥村、瀬戸					
				実際の発達	障害支援の	 実務者の活動を	·取り混ぜるfi	 予定である。						
授	業の	留 意	点											
学評	生に	対す	る価	講義における小レポート (20 点)、課題の取組状況 (30 点)、レポート (50 点) 等で評価する。										
教 (^科 購入		書)											
				特別支援教	 育における	障害の理解: 教	 (育出版							
参 (購入	-	書)											

科	E]	名	障害児教育実習事前事後指導									
				小野川 文									
学	年	配	当	4年	単 位 数	1 単位	開講形態	実習					
開	講	時	期	後期	必修選択	選択	資格要例	‡ 特別支援:必修					
学	習到	達目	標	実習の意義と目的、実際の幼児・児童・生徒の実態把握の方法、指導計画の作成と指導案作成及び 模擬授業を行い、それぞれの実習時期に合わせながら、全体及び個別指導を行う。事後指導にお いては、再度、教職の意義、教育公務員特例法の意義と教員の義務、キャリア形成等について復 習し教職に対する心構えを確認する。									
授	業 σ.	、概	要		特別支援教育に特有のアセスメントなどを再度確認の上、指導計画の作成を通じて障害児教育実習への準備を行う。実習後は授業研究などを通じて、実際の実習の振り返りと教職の意義の確認を行う。								
授	業 σ.) 計	画	* * * * * * * * * * * * * * * * * * *	態把握のた 別のアセス 別指導の方 間指導計画 別の指導計画 別の指導部 科・領域の記 習指導案の	法と集団のダイナミス 前の策定 一画の作成 指導計画 の作成 が成 がいた教材の意義の確	ぐムの活用方法	かた					
授	業の	留 意	点	相互模擬授	業などを行	うため、原則としてケ	次席は認めない。						
学評	生に	対す	る価	模擬授業・	指導計画作	成・実習報告などを紛							
教(^科 購 入	↓ 必 須											
_	購入	; 任 意											

科	E]	名	障害児教育	実習			
	当 教		名	小野川 文	子			
学	年	配	当	4年	単位数	2 単位	開講形態	実習
開	講	時	期	後期	必修選択	選択	資格要件	特別支援:必修
学	習到	達目	標			実習を通じて、それ。 能力など教員として。		応した指導力及び、校内・校外に につける。
授	業 σ.)概	要	各支援学校	において、	指導案の作成、研究抗	受業などを行う。	
授	業 の) 計	画	務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	稚部から高 教科・領域 属学級にお 児、児童、 別の指導	等部及び専攻科を通 の授業参観 らける学級経営の視点 生徒の実態の把握 ・画と学級経営を元に の指導計画の作成	した、教育の一貫性 と方法	力参加実習)と教員の専門性及び服と自立支援の実際(講義及び見学)
授	業の	留 意	点	実習の所定	時間はすべ	て出席が求められるが	ため、実習中の欠席	は認められないので注意すること。
学評	生に	対す	る価	学習指導、		実習態度について、ぽ	実習校担当者が評価 第一	し、事前・事後指導の評価と総合し
教(^科 購入	↓ 必 須						
参 (購入	•	書)					

科	E	1	名	保育指導論演習									
担	当 教	7 員	名	中島 常安									
学	年	配	当	2年	単位数	1 単位		開講形態	演習				
開	講	時	期	後期	必修選択	選択		資格要件	幼稚園:選択				
学	習 到	達目	標	つける。	の実態に即	1した適切な指導			ず方法について実践的な力量を身に ついて、事例を通して自ら考えら				
授	業 σ.)概	要	団的討議を に依拠した あるかどう	通して、そ りするので かを判断す	:の理解を確かな ではなく、根拠・ でる。これを踏ま	ものにする。 基準が何で えた集団的	。 討議にあた あるかを明確 討議は、反省	で、いくつかの事例について、集 っては、経験に頼ったり信念のみ してその実践が優れた指導方法で 的保育者あるいは実践的研究者と とにもつながる。				
授	業 σ .) 計	画	2 発達 3 発達 4 発 領 領 ル ル ル 行 行 当 10 行 当 事 事 番	観観観「「ルルルののの活活ととと人人ののの考考考動動をあるええたののの考別を指指している。」	アヨン 授業概要 対法の理論につい 対法の理論につい 対法の理論にしている。 対している。 対がを通してのののがです。 対がを通し方法にしている。 対すの方法については、 対対でのののののでは、 は、教育のの方はについては、 は、でいて(2)	て(1) て(2) て(3) な育の方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方方(1) いて(3) 事例について(3)	講義 グループ討論 全体討論 について(1) について(2) ついて(3) 講義 事例につい いてのが ルー	 事例についてのグループ討論 事例についての全体討論 講義 事例についてのグループ討論 事例についての全体討論 なのグループ討論 すの全体討論 での全体討論 				
授	業の	留 意	点			り返りを行うた 積極的な発言が			-				
学評	生に	対す	る価	授業内レポ	ート 20 点、	期末レポート 8	80 点により記	評価する。					
教(^科 購入		書)			育所保育指針 『事例で学ぶ保			領 原本』(チャイルド本社)				
参 (購入	<i>-</i>	書)										

科	E	1	名	家庭支援実	家庭支援実践演習									
				傳馬 淳一										
	年			2年	単位数	2 単位	開講形態	演習						
開	講	時	期	通年	必修選択	選択	資格要件	保育士:選択						
学	習到	達目	標	(1) 子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。 (2) 子育ての実際に触れながら、保育士による子育て支援を理解する。 (3) 地域のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携の実際を学ぶ。 (4) 地域子育て支援センターなど家庭支援の実際に触れながら、保育士の役割と専門性について学ぶ。										
授	業 σ.) 概	要	れらをコー 取り組みか	ディネイト ら家庭支援	する役割をもつ。この講 のあり方を実践的に学ぶ	義では、フィー	なり組みがある。保育士は、時にそ -ルドワークを行い、名寄地域での						
授	業 <i>(</i>)) 計	画	2 名家演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演演	支 : の に に に : : : の と だ に に に : : : の ま か か か か か か か か か か か か か か か か か か	・子育て支援の実際 ※と保育士の役割 ・ドワーク (1) 子育で支持 ・ドワーク (2) 親子の実際 ・子育で家庭の実際と子の事前指導 ・準備①フィールドワーク ・準備②計画の立案と準備 ・ドワーク (3) 環境設定	際を知る〜振りi 一育て支援センタ (1)(2)の振 のコミュニケー の関係づくり 暖をイメージした	返り 一の実際~ り返りと課題整理 ションを目指して~振り返り たかかわり~振り返り						
授	業の	留意	点			め主体的に参加すること 日程の調整があります。	を求めます。現	場(主に地域子育て支援センター)						
学評	生に	対す	る価	演習後の日誌(振り返り)提出(20点×3回)を主な評価として、期末レポート(40点)と共に総合的に評価する。										
	購入	^抖 必 須	_	井村圭壯・	相澤譲治編	著『保育と家庭支援論』	学文社 ※家庭	支援論と共通						
参 (購入	_	書:)	中島常安・	清水玲子編	著『事例から見える 子と	どもの育ちと保育	育』同文書院						

7.1	(1) (4) (5) (6) (7)	
科 目 名	地域との協働Ⅰ	
担当教員名	荻野・傳馬・齋藤・堀・小尾・三国・久保田・市 渡邊・佐藤(み)・宮内・小野寺(理)	川・田邊・山本達・泉・大西・岩田・鈴木
学 年 配 当	1年 単位数 1単位	開講形態講義
開講時期	後期 必修選択 必修	資格要件
学習到達目標	専門職連携の実践者として今後携わっていく上で見 学び、自身の職における立ち位置や役割を把握する ながら、連携実践に対する具体的イメージを高める	るとともに、地域課題や対象者のニーズに触れ
授業の概要	全体を 2 クラスに分けた大クラス講義と1学年を さらに少人数に分かれたチームと、展開する場面 ス、小チーム活動について大クラスで共有をする。ープワーク技術や本学の歴史について学ぶ。クランり各教員の専門性等について紹介を受けた上で、おおいて必要な多角的視点を養う。チーム活動では 体験し、多職種理解および多職種連携のイメージを	を回毎に設けて授業を行う。報告会では中クラ 。全体講義では保健医療福祉連携に必要なグルス講義では学内教員によるゲストスピーカーよ 適宜グループワークを行うことで、連携実践に 担当教員にリードにより専門的な学習の一端を
	1 オリエンテーション・本学の歴史的経緯と	呆健医療福祉連携(全体講義)
	2 グループワーク演習(全体講義)	
	3 他職種理解・チームケア(クラス講義)その	D 1
	4 他職種理解・チームケア(クラス講義)その	$\mathcal{D}2$
	5 多種多様な分野の理解(チーム授業)その	1
	6 多種多様な分野の理解(チーム授業)その :	2
	 7-8 講義のまとめ(全体講義)	
授業の計画		
及未切引圖		
授業の留意点	クラス・チームごとに開講日や教室が異なるため、で授業に出席すること。クラス講義では、話題提信グループワークの取り組み方をトレーニングするで取り組むこと。	供と併せてグループワークを行う予定である。
	受講態度、課題取組状況、提出物、成果発表により	り評価する。
学生に対する		· · · · · / · -
評 価		
教 科 書 (購入必須)		
(和)八处次)		
参 考 書		
(購入任意)		

科	E	1	A	地域との協	働 Π							
						・南山・十屋・安永・玉重・	<u> </u>	・松浦・今野(道)・堀川・小野川				
担	当教	女 員	名			・笠井・永嶋・栁原・三井	7110 7730	MIII 73 (XE) 900/1 (3 2)/1				
学	年	配	当	2年	単位数	1 単位	開講形態	演習				
開	講	時	期	通年	必修選択	必修	資格要件					
学	習到	達目	標	フィールド するための や対象者の	あるいは学 仕組みにつ ニーズに応	ウ ウェア ウェア ウェア ウェア ウェア ウェア ウェア ウェア ウェア ウェ	・実施し、地 の役割を自覚	専門的知識と教養を活用しながら、 2域と専門職が機能的に連携・協働 こし互いに尊重しながら、地域課題 活動することの意義や、専門職連				
授	業 <i>0</i> .)概	要	や聞き取り し、行事等 義と効果を	調査等を通 を準備・実 全体で共有	じて、地域課題や対象者の3 施する、③グループワーク7	ニーズを検託 から得た学ひ 構成する。指	対する。演習は、①各種資料の分析 対する、②グループでの役割を分担 がを発表・討議し、専門職連携の意 は担当教員のほか、地域との協 組めるよう支援する。				
授	業 の) 計	画	2 が 域域 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事	一課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	R者のニーズを把握するための R者のニーズを把握するための 役割分担 P準備(1) P準備(2) P実施(1) P実施(2) P実施(3) P実施(4) P実施(4) Pま施(4) Pま版り 報告会の準備)	の調査活動((1)				
授	業の	留意	点	当教員およ	グループ別演習では、活用するフィールドの都合等により開講日が各グループで異なるため、担当教員およびグループ内との連絡連携を密にして演習に取り組むこと。また、グループに対する責任が生じるため、無断欠席はしないこと。							
学評	生に	対す	る価	受講態度、	受講態度、演習態度、提出物、成果発表等を総合して評価する。							
	^科 購入	•	_									
	購入											

l - 1	_	_	_		KI —			-
科	E	<u> </u>		地域との協作		. +		50.44 H. H. H. H. M. A.
担	当 孝	数 員	名	播本・武田小野川・黄			・本吉・大坂	・松浦・三井・堀川・Meadows
学	年	配	当	3年	単 位 数	2 単位	開講形態	演習
開	講	時	期	通年	必修選択	選択	資格要件	
学	習 到	達目	標	められるリ	ーダーシッ		力、マネジメ	ネーターとして活動するうえで求 ント力を総合的に高め、フィール 。
授	業の	D 概	要	グなどを取 「地域との て、今年度	り入れて、 協働Ⅱ」の の活動を振	連携実践をコーディネート 2活動に参加し、2年生のサ そり返り、前年度の活動との	するために必 ポート役とし 比較や評価、	でうとともに、一部ロールプレイン 要な能力を養成する。途中からは で必要な援助を行う。まとめとし 引き継ぎ事項の確認など、運営側 めの方策について検討する。
授	業 0	D 計	画	15 - 16	専門職選事門職選選リフィーのでは、地域と	アーション 車携におけるリーダーシップ 車携におけるコミュニケーシ 車携におけるマネジメント(レド活動の企画立案 プレイング こフィールド活動に対する考 この協働Ⅱ」にむけての準備 この協働Ⅱ」のサポート ぎ事項の確認・演習のまとめ	(ヨン(全体講 (全体講義) 察	養義)
授	業 の	留意	点	絡連携を密	にして演習 。また、本	『に取り組むこと。また、グ	ループに対す	担当教員およびグループ内との連る責任が生じるため、無断欠席はイールドとは別のフィールドを選
学評	生に	対す	る価	受講態度、	寅習態度、	提出物、成果発表等を総合	して評価する	•
	•	[}] 必須	_					
_		考 任 意	_					

科	目		名	教育実習									
				中島 常安	・今野 道	 裕							
学年	F.	配	当	3年	単 位 数	4 単位			開講形態	実習			
開静	構	時	期	後期	必修選択	選択			資格要件	幼稚園:必修			
学習	到词	菫目	標	3. 既習の	子どもとの 教科の内容 計画、観察	かかわりを を踏まえ、 、記録及び	を通して 子ども び自己評	子どもへ <i>0</i> の保育及で 価等につい	ヽて具体的に	支援について総合的に学ぶ。			
授業	の	概	要	実習を通して幼稚園の役割や機能を理解し、直接対象にかかわりながら保育について総合的に学ぶ。									
授業	Ø	計	画	開 2 2 3 4 4 5 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9	も理解 (1) の援助やか 内容・保育 (3)子ども の計画、御	子どものがかわり F環境 (1)が の生活やi の生活やi J察、記録	観察とそ 保育の計 遊びと保 (1)指導 諭の役割	の記録に。 画に基づ・ 育内容(4 計画の理解	よる理解 (2 く保育内容 ()子どもの傾 解と活用 (2) 理 (1)幼稚園) 幼稚園教育要領の理解と保育の展) 子どもの発達過程の理解 (3) 子ど (2) 子どもの発達過程に応じた保育 建康と安全) 記録に基づく省察・自己評価 園教諭の業務内容 (2) 職員間の役割			
授業(の間	留意	点	刻に関して	は十分に留 ている(実	'意するこ。 習指導、褚	と。実習 切回オリン	実施に関 エンテーシ	しては別途	公要である。したがって、欠席・遅 「教育実習および保育実習の実施要 明)。要件に満たない場合は、実習			
学生(評	に対		る価	実習先での	評価表を中	心に、実習	習指導の	受講状況、	提出物等を	加味して総合的に評価する。			
教(購)		必 須	_	テキスト・	参考文献は	、実習指導	尊のもの:	を参照					
参(購)	-	壬意	_										

科		目		名	教育実習指	 導										
担	当	教	員	名	中島 常安	今野 道	 :裕									
学	年		配	当	3年	単位数	1 単位		F	開講牙	形態	実習				
開	講	ļ	诗	期	通年	必修選択	選択		Ì	資格	要件	幼稚園	: 必修			
学	習至	到道	き目	標	1. 教育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を明確にし、自らの課題を明確にする。 3. 実習園における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価、の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。											
授	業	Ø	概	要	の目的およ	び内容の理	までの手続と 解、必要な保 年合同で実習	育技術の	習得、	学外実						
					1 教育	実習の意義	(1) 実	習の目的	(2)	実習	習の概	要				
					2 実習	の内容と課	関の明確化	(1)	実習の内	內容	(2)	実習0)課題			
)留意事項 義務 (3)					の利益の	考慮	(2)	プライ	バシ
					4 実習 び評		已録 (1)	実習におり	ける計画	画と実	践	(2)	実習にお	ける観	察、記	録及
						指導におけ 明確化	「る実習の総括	舌と課題の	明確化	(]	1)	実習の総	括と自己	己評価	(2)	課
授	業	0	計	画												
授	業 0	の 旨	了意	点	がある。 なお、実習	実施に関し	等に位置付け では別途「参 明)。要件に流	対育実習お	よび保	有実習	習の実	施要件」	を定め	ている	(初回:	オリ
学評	生 (:	こ文	サ	る価	受講態度、	実習への姿		· 総合的	に判断、	する。						
		科入业	か 須	書)	河邉貴子 · 小林育子他	鈴木隆編著 編著『幼稚	実習指導と共 『保育・教育 園・保育所・ 編著『実習日	「実習―フ 施設 実習	習ワーク	』萌	文書ホ	_	書院			
_		_	E 意	_												

科	B		夕	保育実習I											
					郎• 党内	俊一・小尾 晴美									
	年			3年	単位数		開講形態	宝翌							
	 講			•	必修選択			保育士:必修							
	習 到:			1. 児童福 2. 観察や 3. 既習の 4. 保育の	1. 児童福祉施設等(保育所および保育所以外)の役割や機能について実践を通して理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。										
授	業の	概	要	児童福祉施設等(保育所、居住型児童福祉施設等または障がい児通所施設等)で所定の期間実習を行う。児童福祉施設等の役割や機能、子どもの理解、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。職員間の役割と連携について学ぶ。記録を通じて省察し、自己評価する。子ども家庭福祉や社会的養護の理解を深める。											
				<保育所実	習>										
				育の展	荆			(2) 保育所保育士指針の理解と保							
					理解 (1) への援助や		录による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)							
								(2) 子どもの発達過程に応じたどもの健康と安全 (5) 保護者支							
				4. 保育の 自己評		、記録 (1)保育課程と	と指導計画の理解	など活用 (2)記録に基づく省察・							
授	業の	計	画			育士の役割と職業倫理 育士の役割と職業倫理	(1) 保育士の	業務内容 (2)職員間の役割分担							
				<居住型児	童福祉施設	等及び障がい児通所施設	は等における実習	>							
				1. 児童福	祉施設等(信	呆育所以外) の役割と機能	3								
				2. 子ども	の理解((1) 子どもの観察とその)記録 (2)個々	の状態に応じた対応							
						境 (1)計画に基づく の活動と生活環境 (4)		2) 子どもの心身の状態に応じた対 対策の理解							
				4. 計画と	記録 (1)支援計画の理解と活用] (2) 記録に基	基づく省察・自己評価							
						育士の役割と倫理 (1 の役割と職業倫理)保育士の業務	内容 (2) 職員間の役割分担や連							
授	業 の「	留意	点			の一歩であり、社会でオ 意すること。各実習先の		要である。したがって、欠席・遅すること。							
学評	生に	対す	る価	実習先での	評価 50 点	、受講状況 20 点、提出	l物等 30 点。								
教(科 購 入 :		書)	河邊貴子・ 小林育子他 相馬和子・ 全国保育士	鈴木隆編著 編著『幼稚 中田カヨ子 養成協議会	実習指導と共通) ・『保育・教育実習―フィ ・園・保育所・施設 実習 ・編著『実習日誌の書き方 ・北海道ブロック編著『保 ・『事例で学ぶ保育実践』	ワーク』萌文書ホ テ』萌文書林 ヒ育実習ガイドラ								
参 (考 購入		書)	全国保育士	養成協議会	実践する施設実習』保育 編者『保育実習指導のミ 諸『福祉施設実習ハンド	ニマムスタンダ								

科	E		名	保育実習指	———— 導 I										
担	当 教	7 員	名	傳馬 淳一	郎・宮内										
学	年	配	当	3年	単 位 数	2 単位	開講形態	実習							
開	講	時	期	前期	必修選択	選択	資格要件	保育士: 必修							
学	習到	達 目	標	1. 保育実習(保育所および保育所以外の児童福祉施設等)の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 児童福祉施設等における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通じて実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習を明確にする。											
授	業 σ.	、概	要	保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を講義や演習を通して習得する。理論的学習と 術を実際の実習現場で体験し、再び学習の場で振り返り、自己の課題等を再学習する。											
				保育実習指	導I保育所		保育実習指導	I施設							
				第3回:保	育実習 I 保 育実習の意 育所・認定	要 育所の目的と概要 義・目的・内容の理解 ごこども園の理解と実習内 階、子ども理解など)	第2回:児童 知識 第3回:児童 (児 第4回:児童	実習 I の目的と概要 福祉施設等(保育園以外)の予備 希望調査 福祉施設等(保育園以外)の理解 童養護施設、乳児院) 福祉施設等(保育園以外)の理解 害児者関係等)							
				第5回:プ	ライバシー	の保護と守秘義務の心構え(服装、挨拶、	第5回:児童 習内	福祉施設等(保育園以外)での実容と課題 福祉施設等(保育園以外)の記録							
授	業の)計	計画	ネ 第7回:実 記	ット利用な 習記録の意 入など)	ど) :義・方法の理解(日誌の	と心 第7回:子ど 考慮	構え もの人権と子どもの最善の利益の							
				計	画、カリキ 習施設(保	会育指導の理解(園の保育 ュラムなど) 会育所・認定こども園)の		イバシーの保護と守秘義務 計画作成							
				第10回:	実習に関す 成、検便・ 実習課題の 等の連絡力	健診などの確認)	認	習配属先決定 回答書の指示事項確 習計画再考、実習前最終確認							
					て) 事後指導 🤋	実習内容の振り返り		後指導 礼状 日誌 レポート 自己価 アンケート等							
					事後指導 討評価)	平価の確認(自己評価と園									
				第14回: 第15回:	事後指導 記		第14回:事 第15回:実	後指導 課題の整理 習総括							
授	業の	留意	点	実習指導は	、実習と同	等に位置付けているので、	欠席・遅刻は	十分に留意すること。							
学評		対す	る価	受講態度 2	0 点、実習	への姿勢・意欲 50 点、提	出物等 30 点	0							
教(^科 購入		書)	小林育子他 相馬和子・ 全国保育士	編著『幼稚 中田カヨ子 養成協議会	『保育・教育実習―フィー 園・保育所・施設 実習ワー 編著『実習日誌の書き方』 北海道ブロック編著『保育 『事例で学ぶ保育実践』同	ーク』萌文書 ^材 萌文書林 『実習ガイドラ	木							
参 (購入		書)	全国保育士	養成協議会	実践する施設実習』保育出 編者『保育実習指導のミニ 者『福祉施設実習ハンドフ	マムスタンダ								

T. 1		_		_	/n +++=====									
科		目 #/-			保育実習Ⅱ		r丰 光							
					傳馬 淳一				田 井 田人 台に	क्षेत्र <u>ग्र</u>				
	年				4年	単位数			開講形態					
刑	舑	<u> </u>	।न	州	前期	必修選択				保育士:選択必修				
学	習至	到 适	目	標	1. 保育所の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもの理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習 I の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援や地域への子育て支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確にする。									
授	業	Ø	概	要	倫理につい	て理解を深 育士として	める。保育実習]	Iでの課題を	を踏まえなが	の理解、保育士の業務内容や職業 ぶら、指導計画の作成、実践、評価 と通して、保育士としての自己課題				
							機能の具体的展開 役割と責任	涓 (1) ź	養護と教育が	ぶ一体となって行われる保育 (2)				
					.,		:育理解 (1)子)保育所の生活の			動の観察 (2)保育士等の動きや				
					保育	、生活や遊				:の連携 (1)環境を通して行う 2)入所している子どもの保護者及				
										育課程に基づく指導計画の作成・実 計画に基づく保育実践と評価				
							保育士の役割と職 開と保育士の職業		(1) 多様な	保育の展開と保育士の業務 (2)				
授	業	0	計	画		課題の明確								
授	業 0	の留	意	点			の一歩であり、社 意すること。各実			必要である。したがって、欠席・遅 すること。				
学評	生に	交こ		る価	実習先での	評価 50 点	、受講状況 20 点		拳 30 点。					
教(購力	科 入 <i>心</i>		書)	小林育子他	編著『幼稚	『保育・教育実習 園・保育所・施説 編著『実習日誌の	设 実習ワー	ク』萌文書を	-				
参 (購り	考 入 归		書)	全国保育士	養成協議会	編者『保育実習指	i 導のミニマ	マムスタンダ	`ード』北大路書房				

科 目 名	保育実習指導Ⅱ
担当教員名	傳馬 淳一郎・小尾 晴美
学 年 配 当	4年 単位数 1単位 開講形態 実習
開講時期	前期 必修選択 選択 資格要件 保育士:選択必修
学習到達目標	 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業の概要	保育実習の目的・目標および内容の理解、必要な保育技術の習得等、総合的に学ぶ。保育実習 I での課題を踏まえながら、子ども理解、子育て支援など、保育士の専門性と職業倫理について理解し保育実践力を養う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業の計画	第1回:保育実習IIの目的と概要 第2回:保育所・認定こども園での実習内容(実習の段階、子ども理解、保護者支援など) 第3回:子どもの最善の利益と保育 第4回:地域社会との連携・子育て支援の事例検討 第5回:実習に向けての心構え(プライバシーの保護、守秘義務、服装、挨拶など) 第6回:実習記録の意義・方法(日誌の記入など) 第7回:保育計画、保育指導の理解 その1(園の保育計画、カリキュラムなど) 第8回:保育計画、保育指導の理解 その2(指導案の作成と模擬保育) 第9回:保育計画、保育指導の理解 その3(指導案の作成と模擬保育) 第10回:保育計画、保育指導の理解 その4(指導案の作成と模擬保育) 第11回:実習課題の明確化(欠席等の連絡方法、訪問指導などについて)※直前指導 第12回:事後指導 礼状、日誌、レポート、自己評価(事務確認を含む実習内容の振り返りなど) 第13回:事後指導 評価の確認(自己評価と園評価との検討から今後の実習課題の検討) 第14回:事後指導 課題の整理
授業の留意点	実習指導は、実習と同等に位置付けているので、欠席・遅刻は十分に留意すること。
学生に対する評 価	受講態度 20 点、実習への姿勢・意欲 50 点、提出物等 30 点。
教 科 書 (購入必須)	河邉貴子・鈴木隆編著『保育・教育実習―フィールドで学ぼう―』同文書院 小林育子他編著『幼稚園・保育所・施設 実習ワーク』萌文書林 相馬和子・中田カヨ子編著『実習日誌の書き方』萌文書林
参 考 書 (購入任意)	全国保育士養成協議会編者『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房

科	E		名	保育実習Ⅲ				
担	当 教	7 員	名	宮内 俊一				
学	年	配	当	4年	単 位 数	2 単位	開講形態	実習
開	講	時	期	後期	必修選択	選択	資格要件	保育士:選択必修
学	習到:	達目	標	2. 子ども 子ども支援 3. 保育士	の施設利用 、家庭支援 の業務内容		置家庭福祉及び 断力を養う。	を通して、理解を深める。 社会的養護に対する理解をもとに、 いつけて理解する。
授	業の	概	要	て学び、保 ァイル等を	育士として 通して施設	の専門性、自己の課題を	明確化する。ま 及び現状を理解	内容や職業倫理について実践を通し にた、子どもの日常生活やケースフ 遅し、子ども支援、家庭支援のため えてさらに深める。
授	業 <i>の</i>) 計	画	2 施設 (1 (2 (3 (4 (5 (6 3 保育	におけるま)受容し、)個人差々)個別をもの)多様なも)地域社会 される様な	共感する態度 P生活環境に伴う子どもの 最計画の作成と実践 D家族への支援と対応 専門職との連携		子ども理解
授	業の	留意	点			での一歩であり、社会で求 留意すること。各施設の留		必要である。したがって、欠席・遅すること。
学評	生に	対す	る価	実習先での	評価 50 点	(、受講状況 20 点、提出4	物等 30 点。	
教(科 購 入:		書)	小林育子他 相馬和子・	編著『幼稚 中田カヨ子	『保育・教育実習―フィ、 園・保育所・施設 実習ワ 編著『実習日誌の書き方』 :北海道ブロック編著『保	'ーク』萌文書 』萌文書林	*
参 (考 購 入	; 任 意	_	一 蒲田雅夫編	 著『考え、	実践する施設実習』保育	出版社	

科	目		名	保育実習指	————— 導 Ⅲ				
担	当 教		名	宮内 俊一					
学	年	配	当	4年	単位数	1 単位		開講形態	実習
開	講	時	期	通年	必修選択	選択		資格要件	保育士:選択必修
学	習到:	達目	標	 実習や! 保育の 保育士 	既習の教科 観察、記録 の専門性と	職業倫理について	性を踏まえ踏まえた係理解する。	、保育実践 R育の改善に	-
授	業の	概	要	技術の習得施設機能と	等、総合的 保育士の専	に学ぶ。実際に居	B住型児童福 こついて理角	国祉施設等の 解し保育実践	標および内容の理解、必要な保育)生活に参加し、子どもへの理解、 (力を養う。実習の事後指導には、 にする。
授	業 <i>の</i>) 計	画	第3回: 児子 第4回: 児子 第5回: 児子 第6回: 児子 第 8回: 児子 第 9回: 兄子 第 1 1 回回: 第 1 2 回: 第 1 3 回: 第 1 3 回: 第 1 3 回:	童童が童童童育どど保実事事事福福福福福福福のもも育習後後後施施施施施施全のの士前指指指指を設設設設設設設設設計善態專終者言言	(保育園以外)の (保育園以外)の (保育園以外)の (保育園以外)の (保育園以外)の 画に基づく具体的 の利益を考慮した に応じた適切なか 門性と職業倫理 確認 し状 日誌 レポー	の概要(児童の概要(児童の実習内容の記録と心様のな計画と実	意養護施設、 等児者関係等 等 持え	乳児院)について事例等を通して) について事例等で学ぶ 、等の確認
授	業の	留意	点			等に位置付けてい	へるので、ケ	水席・遅刻 は	十分に留意すること。
学評	生に	対す	る価	受講態度 20		への姿勢・意欲(50 点、提出	 占物等 30 点	0
	科 購 入 :		吉	小林育子他 相馬和子•	編著『幼稚 中田カヨ子	『保育・教育実習園・保育所・施設編著『実習日誌の 北海道ブロック編	t 実習ワー)書き方』萌	ク』萌文書ホ 有文書林	
参 (考 購入		書)	蒲田雅夫編	著『考え、	実践する施設実習	3』保育出版		

1 /1		P		Ø	太光江空					
科中		目数			卒業研究 社会保育学	到 掛 昌				
	当 —— 年				4年	料教貝 単位数	4 単位		開講形態	宿翌
_		•			1	必修選択			資格要件	(四日
			差目		• 科学的、	L 論理的な思	考及び表現を	用いて研究課題 研究テーマに基	 夏を明確にす	る。 論文を作成する。
授	業	Ø	概	要	まえて 設定	ごした研究が	テーマに基づき		立て、卒業研	、四年間の学習・演習・実習を踏 究を行う。担当教員の指導のもと、 。
授	業	တ	計	画	・卒業のでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中でのでは、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中	課題の決定 の作成 究の実施 整理および の本文作成	分析	ョン		
授	業 (の 督	習意	点	卒業研究にと。	関わるガイ	ダンス及び研	究室紹介は、:	3年次に行う	ので、掲示等による指示に従うこ
学評		に対	すす	る価	取り組み状	——— 況、卒業論	 文及び発表の	内容により総合	一一	<u></u> る。
教(必 須	書	担当教員の	 指示による				
_	購,	考入任	£ 意	書)						

科	E	ı	名	教職・保育	宝践演習														
		-		堀川・今野(道)・三井・栁原・糸田・中島・中西・三国															
	 年			4年	単位数	-											纟態		
開	講	時	期	後期	必修選択	必修								Ì	多格	各要	5件	= /	
学	習到	達目	標	保育者とし	て必要な資	質能力	りを	を育	催認	まし		演習	を追	重じ	て身	ric	つに	ナる	5.
授	業 σ.)概	要	保育者として求められる4つの事項である下記の事項について、総合的に扱う。 ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ②社会性や対人関係能力に関する事項 ③幼児理解やクラス経営等に関する事項 ④教科・保育内容等の指導力に関する事項											総合的に扱う。				
				1 イン	トロダクシ	ョン〜	~½	幼児	児教	女育	育に	望:	きれる	るこ	と	(グ	゚ルー	_ `	プ討論:中西、三国)
				2 幼稚 外講		の運営	営と	と伊	呆育	₹者	ťの	責務	务(1)	年間	ス/	ケミ	ジュ	_	ルと1日の生活(講義:中西、学
					園・保育所 講師)	の運営	営	と化	保育		その)責額	务(2)	校務	务務?	分望	掌と	安	全管理(講義・事例研究:中西、
				4 幼児	理解(ロー	ルプレ	レー	—,	イン	/グ	<i>"</i> :	糸目	∃)						
				5 クラ	ス運営と指	導計画	画	(1	講義	遠 •	グ	·/レ-	-プ言	討論	: 👎	□西	, 5	‡ .	島、学外講師)
				6 家庭	や地域との	連携	(=	事例	例研	肝究	፟:	糸目	目)						
				7 フィ	ールドワー	ク(1)	打	Jち	合わ	わせ	せ	(糸	田、	中西	互)				
授	業 σ.	計	画	8 フィ	ールドワー	ク(2)	現	地	<u> </u>	糸目	田、	、中	西)						
				9 フィ	ールドワー	ク(3)	ま	ミと	: Ø	(≯	糸目	田、	中西	i)					
				10 保育	内容の指導	力(1)	((グ	ドルー	— Э	プ言	討論	: 中	島、	三	国、	今	野	5)
				11 保育	内容の指導	力(2)	((模	镁操作	保育	育	「言	葉」	と	「表	現」	: □	†.	島、三国、堀川)
				12 保育	内容の指導	力(3)	((模	镁操作	保育	育	「人	間関	係」	لح	٦	表現		: 中島、三国、今野、糸田)
				13 保育	内容の指導	力(4)	((模	镁操作	保育	育	「健	康」	と	環	境」	: □	†.	島、三国、三井、栁原)
				14 保育	内容の指導	力(5)	((グ	ドルー		プ言	討論	: 中	島、	三	国)			
				15 まと	め~よりよ	い保育	育市	者と	とな	こる	うた	こめに	_ (=	中西)				
授	業の	留 意	点	グループデ	ィスカッシ	ョン、	7	フィ	1 ─	-ル	·ド	アー	ークを	と伴	うの	で	、 <i>か</i>	て 歴	常・遅刻は十分に留意すること。
学評	生に	対す	る価	4つの事項	について、	実践及	支 て	びし	レポ	Ş.—	- h:	等0)課是	<u></u> 夏を	 課し	· \	 総合	台台	内に評価する。
教 (購入	•	書)													~保育・教職実践演習のために~』			
参 (購入	•	書)	扱う内容に	<u></u>	 都度指	-	<u>ー</u> 示す	する。) 0									